

【評価方法】

- ① 学生と患者のやりとりを直接観察してください。診察室に同席するか、カーテンの影に隠れているかは自由です。できるだけ学生と患者の両方の表情を観察してください。学生から質問されたとき、または学生が自分の判断で患者に説明したことに重大な誤りがあるときを除いて、基本的には評価者は学生の診察に口を挟みません。
- ② Mini-CEXを記入して下さい。1から6まで点をつけますが、3点以下は学生が標準に達するような改善が必要であることを意味します。
- ③ できるだけ間を置かずに、印象が残っているうちに、診察について学生に直接フィードバックをしてください。“ダメ出し”だけではなく、良かった点も挙げてください。
- ④ 評価表に指導医と学生のサインを記入してください。
- ⑤ 学生に「コピーして原本を診療科の mini-CEX 統括者に提出すること」と指示してください。

(参照：「学習と評価の記録」 P.41～42)

一方、実習中の評価者については、指導医として、教員以外に行動をともにすることが多い同じチームの研修医、また、特に態度の評価については、看護スタッフや学生の担当患者など医師以外の評価者を設定する（360° 評価と呼ぶ）ことも検討されるべきである。また、前項で述べたように、これらの評価表など、学習過程で作成・入手した成果物を蓄積した「学習と評価の記録」を指導医とともに振り返ることも、学習を促す重要な形成的評価となる。さらに、学生が臨床実習を振り返る機会を定期的に設定し、各人の学習目標の達成度や具体的体験の機会などを相互に共有し、評価することにより、技能領域への学習意欲ならびに態度領域への気づきの維持・向上を図ることも考えられる。

(参照：「学習と評価の記録」 P.43～45)

これらの評価の結果を、学生が実習中に学んだ資料とともに、ラーニング・ポートフォリオとして蓄積していくことについて方略の項で述べた。このポートフォリオを評価の対象として再構築することで、臨床実習の評価により真正性（authenticity）が向上し、学生の望ましい学習を促進することに加えて、臨床実習から臨床研修までの継続的な評価が可能となることが期待できる。

一方、米国の臨床実習における観察記録と医師のプロフェッショナリズムに関する研究によると、指導医から「無責任」あるいは「自己改善能力が低い」と記録された学生は、そうでない学生に比べて、卒業後にアンプロフェッショナルな行動により、懲戒処分を受ける確率が3倍も高かったことが報告されている。高等教育全体において、卒業生の質とその説明責任が問われる時代となっていることから、診療業務に参加する学生を観察し、一定期間記録を残すことについても、今後検討する必要がある。

以下に「評価提出用フォーマット」と「運用方針」の事例を示す。

アンプロフェッショナルな学生の評価

提出用フォーマット

●●大学医学部学務委員会

学生の氏名 _____

実習病院と診療科 _____ 実習期間 _____

このままでは将来、患者の診療に関わらせることが出来ないと考えられる学生の具体的な行動や態度の内容(詳細をお願いします)

ご所属 _____ お名前 _____ 診療科長署名 _____

宛先: 〒XXX-XXXX ○○市○○区○○町 ○○大学医学部 医学教育センター

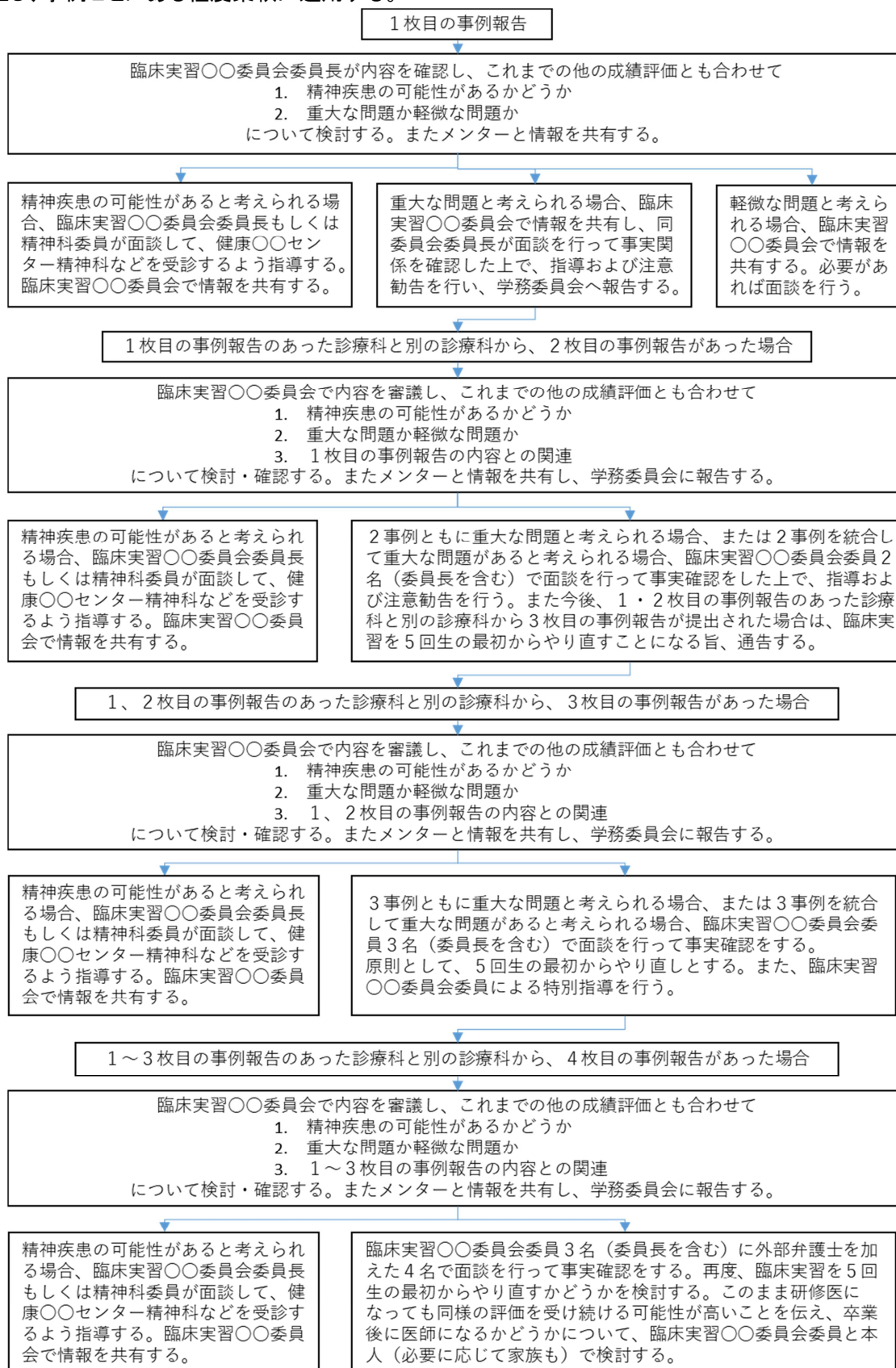
FAX: xxx-xxx-xxxx

メールアドレス: xxx @xxx.xxxxx.xxxxxxx-u.ac.jp (メール送付の場合 PW をつけること)

※ 1人の指導医が提出する1枚の評価表で学生が留年することはありませんので、学生の態度・行動で気になる点があり、指摘しても変わらないようであれば、積極的に記入・提出いただくよう、お願いいたします。

②アンプロフェッショナルな学生の評価の運用方針

アンプロフェッショナルな学生の評価は、原則として以下の方針で運用するが、あくまでこの方針は原則とし、事例ごとにある程度柔軟に運用する。



※なお、5枚目以上の事例報告については、原則、4枚目の事例報告があった場合に準じて運用する。

V. その他 留意事項

医療安全や院内感染対策の推進、電子カルテをはじめとする情報通信技術の発達等、周囲の状況は大きく変化しており、また今後も変化することが予測される。診療参加型臨床実習における医療安全の考え方について「医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 最終報告（平成19年3月）」の抜粋を示す。

医療安全に関する国民の要望が高まる中で、患者の理解と同意を得て、前述した診療参加型臨床実習における実際の患者を相手にした実践的な学習の充実を図るためには、侵襲的医行為（相当の侵襲性を伴うと考えられる医行為）及び羞恥的医行為（患者に羞恥心を惹起させるような医行為）（以下「侵襲的医行為等」という。）について、以下のことを配慮する必要がある。

まず、侵襲的医行為等を実施する前提として、患者に接するための診療技能の向上の取組の充実が求められ、シミュレータやスキルスラボの活用等により当該医行為に関する学生の診療技能の確保の徹底を図ることが必要である。その上で、医行為全般はもちろんのこと、特に、患者に対して侵襲的医行為等を行う場合には、学生の態度・技能・知識の評価、指導医による指導・監督、患者に対する医学生である旨の明確な紹介を徹底し、患者の理解と同意を得ることが必要である。

上記のようなプロセスを徹底した上で、安全性や患者の理解と同意が確保できると考えられる場合に、侵襲的医行為等を実施することが適当である。その際、学生の技能等の到達評価の程度によって個々の学生の状況に応じた学習機会を提供することが必要なことに留意することが求められる。

1. 学生が診療業務を行うことについての法的位置付け

診療参加型臨床実習において、医師でない学生が医行為を行うことについて、医師法上の違法性を阻却する条件を整備しておく必要がある。このことは、各大学が以下の報告に示された条件を満たすことが前提である。

厚生省健康政策局臨床実習検討委員会
「臨床実習検討委員会最終報告」1991年5月13日

医師法で、無免許医業罪が設けられている目的は、患者の生命・身体の安全を保護することにある。したがって、医学生の医行為も、その目的・手段・方法が、社会通念から見て相当であり、医師の医行為と同程度の安全性が確保される程度であれば、基本的に違法性はないと解することができる。

具体的には、指針により医学生に許容される医行為について、(1)侵襲性のそれほど高くない一定のものに限られること、(2)医学部教育の一環として一定の条件を満たす指導医によるきめ細かな指導・監督の下に行われること、(3)臨床実習を行わせるに当たって事前に医学生の評価を行うことを条件とするならば、医学生が医行為を行っても、医師が医行為を行う場合と同程度に安全性を確保することができる。また、医学生が医行為を行う手段・方法についても、上記条件に加え、(4)患者等の同意を得て実施することとすれば、社会通念から見て相当であると考えられる。

(1) 学生に許容される医行為の水準（例示）

平成3年5月に上記委員会報告を踏まえて厚生省健康政策局（当時）が学生に許容される医行為について示しているところである。これに基づき、平成27年12月に全国医学部長病院長会議が公表した「診療参加型臨床実習のための医学生の医行為水準策定」における「指導医の指導・監視の下で実施されるべき医行為（レベルⅠ）」および「指導医の実施の介助・見学が推奨される医行為（レベルⅡ）」を以下に示す。これに準拠した学生に許容される医行為の水準を、大学、地域医療実習協力機関で、あるいは各施設の診療科ごとに独自に詳細に決めて実習指針等、関係資料に記載しておく必要がある。

①指導医の指導・監視の下で実施が開始されるべき医行為（レベルⅠ）

診療の基本	臨床推論、診断・治療計画立案、EBM、診療録作成、症例プレゼンテーション
一般手技	体位交換、移送、皮膚消毒、外用薬の貼付・塗布、気道内吸引、ネブライザー、静脈採血、末梢静脈確保、胃管挿入、尿道カテ挿入抜去、注射（皮下皮内筋肉静脈内）、診療記録
外科手技	清潔操作、手洗い、ガウンテクニック、縫合、抜糸、消毒・ガーゼ交換
検査手技	尿検査、末梢血塗抹標本、微生物学的検査（Gram 染色含む）、妊娠反応検査、血液型判定、脳波検査（記録）、超音波検査（心・腹部）、視力視野、聴力、平衡検査、12誘導心電図、経皮的酸素飽和度モニター
診察手技	医療面接、診察法（成人・小児・全身・各臓器）（侵襲性、羞恥的医行為は含まない）、基本的な婦人科診察、バイタルサイン、耳鏡、鼻鏡、眼底鏡、直腸診察、前立腺触診、乳房診察、高齢者の診察（ADL 評価、CGA）
救急	一次救命処置

②指導医の実施の介助・見学にとどめることが推奨される医行為（レベルⅡ）

一般手技	中心静脈カテ挿入、動脈採血・ライン確保、腰椎穿刺、膀胱洗浄、ドレーン挿入・抜去、全身麻酔、局所麻酔、輸血、眼球に直接接触れる治療 各種診断書・検案書・証明書の作成
外科手技	手術、術前・術中・術後管理
検査手技	脳波検査（判読）、筋電図、眼球に直接接触れる検査、超音波検査（判読）、エックス線検査、CT/MRI、核医学、内視鏡検査
診察手技	婦人科疾患の診察、妊婦の診察と分娩
救急	救命治療（二次救命処置等）、救急病態の初期治療、外傷処置

注釈：

- ここにリストされていない診療科ごとの検査、治療への医学生の介助・見学は指導医の判断で許容される。
- レベルⅡの手技のうち、各大学、実習施設が「侵襲性が低い」と判断した手技（例えば、脳波、超音波など）については大学ごとのカリキュラムに従って、個別同意を得て指導医の監視下で実施することは許容される。

（2）患者からの同意書

学生が診療に参加して医行為を行うことについて説明する場合、通常、病院外来の掲示だけでは「説明した」とは認識されない。一方、口頭で同意を得て、診療録に記載する方法も「同意取得」の方法として有効であるが、患者の自筆署名入りの独立した文書（同意書）を作っておくのが望ましい。

前出の「診療参加型臨床実習のための医学生の医行為水準策定」では、診療行為の全てが文書による説明と同意の基に実施される現状を鑑み、「学生が当該患者の診療活動に参加するしないし見学することについて患者から包括同意を得る必要がある」としている。また、診療参加型臨床実習で学生が診療チームに加わって医行為を行う場合、指導医によって水準が高いと判断された医行為を実施する場合などには、「必要に応じて当該学生の医行為に限定した個別同意を別途得ることが求められる」としている。さらに、「ただし、救急診療の場面において医療チームとして学生が臨床実習を行う場合には、事前の同意取得が困難な場合もある」と追加している。これらの文書について以下に示す。

①診療参加型および見学型臨床実習の包括同意書

診療参加型および見学型臨床実習の包括同意書

- 診療参加型および見学型臨床実習とその必要性
- 担当実習医学生(スチューデント・ドクター)としての能力と資格
- 実習で行われる医療行為 (レベルⅠとレベルⅡの区分)
- 医療事故などへの補償
- 担当以外のスチューデント・ドクターないし資格取得前の医学生が見学することおよび担当のスチューデント・ドクターが診療の途中で変更する事が有ること
- 拒否できる権利と同意しない場合でも診療に不利益にならないこと
(拒否内容: _____)

〇〇医科大学長/〇〇大学医学部長/病院長 〇〇 〇〇 殿

臨床実習医学生(スチューデント・ドクター)による診療参加型臨床実習およびその他の医学生も含む見学型臨床実習についての文書を読み、それに対する十分な質問の機会も与えられ、上記の事項に関して十分理解しました。

2〇〇〇年〇〇月〇〇日

患者署名: _____
保護者署名: _____
(未成年の場合) _____

②包括同意の説明文書

診療参加型臨床実習を行うにあたってのお願い

- 診療参加型臨床実習とその必要性
診療参加型臨床実習とは、臨床実習医学生(スチューデント・ドクター:医学部5~6年生)が患者さんの診療にあたる診療チームの一員として、患者さんのこれまでの経過を伺い、基本的な身体診察を行った後に、原因となる病気を考え、更にはそれを確認するための検査を選び、最終的に治療方針を決めるという、医療の実践を学んでいくものです。この実習を通して、医師としての態度、技能を学んでいきます。また、この実習で得られたことが、国家試験後の医師臨床研修へと受け継がれ、質の高い医療が提供されることに繋がります。以上のことから、診療参加型臨床実習は我が国での「良き臨床医」を養成するために必要不可欠となっておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。
- 臨床実習医学生(スチューデント・ドクター)としての能力と資格
医学生が診療参加型臨床実習を行うに足る能力(知識、技能、態度)が有るか無いかということは、実習が開始される前に知識・実技試験を含む全国統一の共用試験ならびに学内独自の試験を用いて総合的に判定されます。これらの試験に合格し、スチューデント・ドクターとしての能力と資格があることは、各大学によって認定され、全国医学部長病院長会議が認定カードを発行することで証明しています。この認定カードを付与された医学生のみが、診療参加型臨床実習を行うことができます。
- 臨床実習で行われる医療行為
診療参加型臨床実習で行われる医行為にはレベルⅠとレベルⅡ(仮称)とがあり、その内容は別表に示してあります。レベルⅠは指導医の指導または監督の下で、スチューデント・ドクターが実施することが認められている医行為です。一方、レベルⅡの医行為は指導医は指導医が行い、スチューデント・ドクターは原則的にその介助または見学することに留められてられています。また、スチューデント・ドクターの資格を取得する前の医学生も、レベルⅠとレベルⅡ(仮称)の医行為を見学することは認められています。このレベル区分と学生の資格に従って、スチューデント・ドクターおよびその資格を取得する前の医学生が実習を行うことに、ご協力をお願い致します。なお、スチューデント・ドクターが医療チームの一員として、一定期間患者さんを受け持つ場合、レベルⅡの医行為を介助する場合などには、その学生に限定した個別の同意をお願いする場合があります。その際は、改めて文書(個別同意書)によってご説明いたします。
- 医療事故などへの補償
スチューデント・ドクターが行う医行為は危険の少ないものに限定しております。しかし、患者さんの健康

ないしプライバシーを損なうような事象が発生した場合には、医学部長(学長)および医療施設責任者(病院長など)の責任で適切に対応いたします。

担当以外のスチューデント・ドクターないし資格取得前の医学生が見学すること、および担当のスチューデント・ドクターが代わることがあること

回診や上記の医行為が行われる場合、担当以外のスチューデント・ドクターだけでなく、他のスチューデント・ドクターないし資格取得前の医学生と一緒に見学をさせていただくことがあります。また実習期間中に担当のスチューデント・ドクターが他のスチューデント・ドクターに交代することがあります。

拒否できる権利

上記診療参加型臨床実習への協力は拒否できます。また、実習への協力を同意された後でも、その同意を解消することができます。その際の手紙もお渡しますので、同意を撤回する際には担当医に提出をお願い致します。いずれの場合においても、診療参加型臨床実習を拒否することによって、その後の診療などを含め一切、不利益を被ることはありません。

③診療参加型臨床実習を行うにあたっての個別同意書

診療参加型臨床実習を行うにあたっての個別同意書

- 診療参加型臨床実習とその必要性
- 臨床実習医学生(スチューデント・ドクター)としての能力と資格
- 実習期間
- 実習で行われる医療行為(対象となるレベル I, II の医行為)
- 医療事故などへの補償
- 担当以外のスチューデント・ドクターないし資格取得前の医学生が見学すること
- 拒否できる権利と同意しない場合でも診療に不利益にならないこと
(拒否内容: _____)

上記のことについて必要な説明を致しました。

指導医署名: _____
スチューデント・ドクター署名: _____
(学籍番号) _____

〇〇医科大学長/ 医学部長/ 病院長 〇〇 〇〇 殿

臨床実習についての説明を受け、かつそれに対する十分な質問の機会も与えられました。
上記の事項に関して十分理解し、以下の医行為を臨床実習医学生(スチューデント・ドクター)が行う実習に協力します。

・協力いたします() ・協力しません()

該当する医行為: _____

2000年00月00日

患者署名: _____
保護者署名: _____
(未成年の場合) _____

④個別同意の説明文書

診療参加型臨床実習を行うにあたってのお願い

診療参加型臨床実習とその必要性

診療参加型臨床実習とは、臨床実習医学生(スチューデント・ドクター: 医学部 5~6 年生)が患者さんの診療にあたる診療チームの一員として、指導医のもとで患者さんのこれまでの経過を伺い、基本的な

身体診察を行った後に、原因となる病気を考え、更にはそれを確認するための検査を選び、最終的に治療方針を決めるという、医療の実際を学んでいくものです。この実習を通して、医師としての態度、技能を学んでいきます。また、この実習で得られたことが、国家試験後の医師臨床研修へと受け継がれ、質の高い医療が提供されることに繋がります。以上のことから、診療参加型臨床実習は我が国での「良き臨床医」を養成するために必要不可欠となっていますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

スチューデント・ドクターとしての能力と資格

医学生が診療参加型臨床実習を行うに足る能力(知識、技能、態度)が有るか無いかということは、実習が開始される前に知識・実技試験を含む全国統一の共用試験ならびに学内独自の試験を用いて総合的に判定されます。これらの試験に合格し、スチューデント・ドクターとしての能力と資格があることを各大学が認定すると、全国医学部長病院長会議が認定カードを発行します。この認定カードを付与された医学生のみが、診療参加型臨床実習を行うことができます。

実習期間

2000年00月00日～00月00日

診療参加型臨床実習で行われる医療行為

診療参加型実習で行われる医行為にはレベルⅠとレベルⅡとがあり、その内容は別表に示してあります。レベルⅠは指導医の指導または監督の下で、スチューデント・ドクターが実施することが認められている医行為です。一方、レベルⅡの医行為は指導医が行い、スチューデント・ドクターは原則的にその介助または見学することに留められています。

このレベルの区分に従って、スチューデント・ドクターは実習を行います。診療参加型実習にご協力いただくことに関しては、すでに包括同意書をいただいておりますが、あなたの診療を担当するチームに参加するスチューデント・ドクターが決定しました。その実施ないし介助する医療行為を改めてご説明し、個別同意をいただければと存じます。

医療事故などへの補償

スチューデント・ドクターが行う医行為は危険性の少ないものに限定しております。しかし、患者さんの健康ないしプライバシーを損なうような事象が発生した場合には、医学部長(学長)および医療施設責任者(病院長など)の責任で適切に対応いたします。

担当以外のスチューデント・ドクターないし資格取得前の医学生が見学すること

回診や上記の医行為が行われる場合、担当以外のスチューデント・ドクターと一緒に見学をさせていただきますことがあります。

拒否できる権利

上記診療参加型臨床実習への協力は否定できます。また、実習への協力を同意された後でも、その同意を解消することができます。その際の用紙もお渡しますので、同意を撤回する際には担当医に提出をお願い致します。いずれの場合においても、診療参加型臨床実習を拒否することによって、その後の診療などを含め一切、不利益を被ることはありません。

⑤臨床実習への協力の同意取消通知書

臨床実習への協力の同意取消通知書

〇〇医科大学長/ 医学部長/ 病院長 〇〇 〇〇 殿

診療参加型臨床実習ないし見学型臨床実習に協力する

・包括同意書() ・個別同意書()

上記を提出いたしました、これを撤回いたします。
今後、臨床実習には以下のように関わるように致します。

() 診療参加型臨床実習と見学型臨床実習の両者に協力しない

() 見学型臨床実習には協力するが、診療参加型臨床実習には協力しない

() 診療参加型臨床実習の一部に協力しない。

(協力しない事項: _____)

※上記の該当するカッコ内に○をお付けください。

2000年00月00日

患者署名: _____
保護者署名: _____
(未成年の場合) _____

2. 学生による診療録記載と文書作成について【統括者・指導医・学生】

(1) 学生が診療録へ自ら参加した診療内容を記録する意味

- ① 診療参加型臨床実習の教育効果上必要であり、学生が診療に参加した事実を記録する。
- ② 看護記録などと同様、医師の補助者による記録と考えられる。
- ③ 指導医の補助者として指導医による検討結果を記録する。
- ④ 一方で診療録は公文書であり、学生が記載に慣れていない場合など、学生による記載が適切でない状況も考えられる。従って、各大学が必要に応じて、個別に以下のような指針等を整備する必要がある。

診療録記載の手順

診療録は公文書であるので、学生が診療録記載に充分慣れていることを指導医が判定するまでの期間は、以下の手順で記載すること。

1. 学生は、まず下書きを手持ちの手帳などに書き、これを指導にあたる医師に見せる。
2. 指導にあたる医師は、下書きを見ながら適切で正確な表現か、医学用語で記載されているかなどを評価する。
3. 学生は、指導にあたる医師が加筆、訂正した内容に沿って、診療録を記載する。
4. 指導にあたる医師は、学生記入の最後尾に署名する。
5. 訂正部分は二重線を引き、訂正し、訂正印を押す。
6. 学生が診療録記載に充分慣れていると判定された後も、指導にあたる医師の執筆・署名は必要である。

また、学生向けの資料として以下のとおり例示する。

診療録(カルテ)の書き方

臨床実習ではみなさんが関わった診療についての記録も求められます。またカルテは公文書の扱いとなり、その記載内容には責任が伴います。以下を参考にして、わかりやすく間違いのないようにカルテ記載を行って下さい。

(1) 何のためにカルテを書くか

1) より良き診療を行うために

- ① 診療の経過を記録として残し、主治医が交代しても、患者個人の医療の継続性が保たれる。
- ② 主治医不在時に、他の医師が患者の急変に適切に対応できる。
- ③ 指導医が主治医の方針を理解し助言ができる。
- ④ コメディカルスタッフが医師の方針を理解し、チーム医療がスムーズに行われる。

2) 診療が行われた証拠として記録を残す

- ① 保険医として診療報酬を請求する医療行為の根拠となる(保険医は診療録を記載する義務があります)。
- ② 患者からその患者の診療録の開示を求められうる。
- ③ 患者の請求(入院に対する保険金支払いなど)に応じて診療経過を証明する際の証拠となる。
- ④ 医療過誤などの訴訟の対象となったときに、自らの医療が適切に行われていたことを証明する根拠となる。

(2) 何を記載するか

- 1) 「患者が来院した理由、既往歴・生活歴・家族歴などの背景、来院後の病状の変化、主治医の考える診断の進め方、診断名、治療方針、検査・治療の内容、患者や家族への説明など、患者の診療に必要な全ての事項」が記載されている必要がある。「既往歴、原因、主要症状、経過等」と「処方・手術・処置等」は保険医として記載が義務づけられている。
治療内容の中には、入院診療計画書や退院療養計画書、検査や手術などの説明内容やそれに対する同意書、服薬指導依頼箋、栄養指導依頼箋、リハビリテーション依頼箋などが含まれる。
 - 2) 保険請求する上では、実際に行ったことを記録として残すことが求められるものがある。例：呼吸心拍監視の点数観察した呼吸曲線、心電曲線、心拍数の観察結果の要点を診療録に記載した場合に算定
- (3) 記載上の注意
- 1) 毎日記載することを原則とする(記載のない場合は、診察していないか、又は医学的な判断をしていないと判断される恐れがある)。
 - 2) 日付は忘れずに、正確に記載する。(年/月/日の順に記載)
 - 3) 署名することにより、記載した医師が誰であるか明らかである必要がある。
 - 4) 診断書など、医師の氏名欄に押印が必要とされるものについては、訂正箇所にも訂正印を押す。
 - 5) 誰が読んでも同じ内容として理解されるように、分かりやすい文字で、分かりやすく記載する必要がある。
 - 6) 一部の医師(診療従事者)の間でしか通用しない略号は使用しない。
- (4) 診療録の記載の具体的説明
- 1) 病歴
 - ① 現病歴に記載すること
病歴を聴取することで患者に起きた出来事に関する情報の収集と、聴取の過程の会話を通して、患者との信頼関係を構築することを目的とする。
主訴:患者の自覚する苦痛、または、受診目的を記載する。
現病歴:上記の目的を達するため、患者の苦痛の種類(困っていることは何か)、と鑑別診断に必要な情報全てを時間の流れとして記載する。鑑別診断を行う上で必要と判断し聴取した内容(例えば、発熱を主訴に来院した患者について、呼吸器感染症を疑って聴取した咳の有無、痰の症状など)や、鑑別診断の鍵となる所見については、陰性所見(例えば、「発熱はなかった」など)であっても記載する。また、他の医療機関に受診した経過がある場合には、受診日時、他院での診断・治療内容・治療による病状の変化、なども記載する。
 - ② 既往歴に記載すること
過去に罹患した疾患名と罹患時期
(過去の出来事であっても現在の主訴に関連した事項は現病歴に記載)
アレルギー歴、輸血歴、アルコール歴や喫煙歴
常用薬、月経および出産歴
 - ③ 生活・社会歴に記載すること
職業、出身地、旅行歴など
 - ④ 家族歴に記載すること
家系図の記載、罹患疾病や死因・死亡年齢
遺伝性疾患が問題となるときには該当疾患を有する患者の有無
・記入に際し、国際人類遺伝学会で決められた記号を用いる。
・同居者は同一枠内に囲む。
 - 2) 身体所見の書き方
 - ① 記載の内容
未記載事項が指定されている場合、すべての項目を埋める。
大きく分けて、病歴から疑われる疾患の鑑別に必要な所見(腎血管性高血圧を疑う患者での腹部動脈の血管雑音の有無、など)と、全ての患者でとるべき基本的身体所見(血圧、脈拍、黄疸、貧血、など)を記載する。
 - ② 記載する順番
所見を取る順番は、緊急の場合を除き常に一定の順番で、頭から足方向へ、診察する。所見をとる順番と同じ順に記載する。
 - 3) 入院時のまとめ
 - ① 入院時の問題点を problem list としてまとめ、重要な問題点から井番号を付けて記載する。
 - ② 入院時点での診断名
 - ③ 主鑑別に挙がる疾患リスト
 - ④ 検査計画
 - ⑤ 治療計画
- 以上をまとめた後、入院診療計画(変更)書を記載する。

4) 毎日の経過の記録

- ① 時間毎に SOAP で毎日記載することが原則(慢性疾患の場合には1週2回以上)、入院時にまとめた problem list の#番号ごとに SOAP で記載する。
S (Subjective) 自覚症状(本人の訴え、自覚症状)
O (Objective) 他覚的所見(身体所見、検査所見)
A (Assessment) 評価(主治医の考える病態、診断名、重症度や治療の緊急度の判断)
P (Plan) 計画(検査や治療方針、コンサルトの予定、指示)
このほかに、実施した治療、手術・処置、検査、などと、検査結果、結果に対する評価などを記載する。
- ② コンサルテーションをした場合やカンファランス、グループ長や科長の回診時のコメント、指示事項なども記載する。

(2) 個人情報の保護について

診療参加型臨床実習の実施にあたっては、事前に個人情報の取り扱いに関する学習や指導を徹底することが必要である。その際、実習開始前に、患者優先の原則に基づく安全確保に努めること、診療情報を適切に取り扱うこと、指導医の指示に従うこと、診療技能や態度の向上に努めること、病院の諸規定とともに医学生に求められる倫理的なモラルや規範を遵守することを学生に誓約させ、病院の諸規定等に違反した場合には大学による所要の措置が行われることを理解させることも必要である。

臨床実習における個人情報保護について

1. 個人情報保護への本院の基本的対応

個人情報保護法関係法令が全面的に施行されている。これまでの本院の運営や各部署の仕事のやり方を大幅に改めたりする必要はない。しかし、病院職員の日常の業務や学生の臨床実習の中で、患者の個人情報に関し、これまで以上に慎重に取り扱う必要がある。対応に当たっての原則は、次のとおりである。

- ① 不要な情報は保有しない。不要になった段階ですぐ廃棄する。
- ② 個人情報を関係のない第三者が知ることがないように取り扱う。

2. 個人情報保護法の果たす役割

- ① 患者にとり、自己に関する情報の利用に関与する途を開いたこと。
- ② 病院にとり、患者の情報の利用を法的に認めたものであること。
- ③ 個人情報の漏えい等に対し、大学に安全管理措置義務、職員の監督、委託先の監督義務を定めたこと。
- ④ 本人の同意があれば、極端に言えばどのような個人情報の利用も可能であること。
- ⑤ 契約目的(診療行為)の達成のためには、その範囲内であれば個々の同意を得ることなく個人情報を利用することができること。

3. 個人情報とは

「個人情報」の定義は次のとおりである。

生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述により特定の個人が識別できる文書・図画・電磁的記録をいう。この個人情報には、他の情報と照合することにより特定の個人が識別できるものを含む。(法令)

「個人に関する情報」は、氏名、性別、生年月日等個人を識別する情報に限らず、個人の身体、財産、職種、肩書き等の属性に関して、事実、判断、評価を表すすべての情報であり、評価情報、刊行物等によって公にされている情報や映像、音声による情報も含まれ、暗号化されているか否かを問わない。なお、死者に関する情報が、同時に御遺族等の生存する個人に関する情報でもある場合は、当該生存する個人に関する情報となる。また、診療録の形態に整理されていない場合でも該当する。

患者が死亡した後でも、本院が保有する場合は、漏えい、滅失又はき損等の防止のため、個人情報と同等の安全管理措置を行う必要がある。(厚労省指針)

下記のものについては、記載された氏名、生年月日、その他の記述等により特定の個人を識別できるので、匿名化されたものを除き、個人情報に該当する。客観的データだけでなく、医師による診

断、評価等も含む。

(例) 診療録 処方せん 手術記録 助産録 看護記録 検査所見記録
照射録 エックス線写真その他の画像 紹介状 退院サマリー 調剤録

4. 個人情報の教育・研究への活用

本院は、医療提供機能のほかに、教育研修機能および研究開発機能の使命を有する。将来の医師や医療技術者の育成に教育病院としての機能を果たすため、臨床実習、卒後研修、生涯教育の場で個人情報を利用する場合がある。

一方、近年の科学技術の高度化に伴い、研究において個人の診療情報を利用するが増加しているほか、患者への診療と並行して研究が進められる場合もある。特に研究に当たっては、医学研究分野の下記関連指針とともに本指針の内容についても留意する必要がある。

5. 患者の同意

法令は、個人情報の目的外利用や個人データの目的外第三者提供について、原則として本人の同意を得ることを求めている。患者に適切な医療サービスを提供する目的のために、本院が必要と考える個人情報の利用範囲について、院内に掲示するとともに、患者に文書を配布し明らかにしている。患者から特段の反対・留保の意思表示がない場合には、明らかにした範囲で個人情報の利用について同意が得られているものと考えている。

また、患者の意思が明確に確認できない状態の場合は、意識の回復に合わせて、速やかに本人への説明を行い、本人の同意を得るものとする。

患者から特段の反対・留保の意思表示があった場合、患者の意思が明確に確認できない状態の場合においては、患者の理解力、判断力などに応じて、可能な限り患者に通知し、同意を得るように努めることが重要である。その上で、同意されないのであれば、本院の運営方針を受け入れて頂くかどうかは、患者本人が判断することになる。

(3) 電子カルテについて

電子カルテが導入されている場合等においては、学生が閲覧できる範囲を臨床実習上必要な患者等に限定することや、学生による入力が行われる場合、指導医等が確認・修正・加筆を行うことなど、診療情報の電子化等を踏まえた取り扱いを検討することも必要である。例えば以下のような過程で、医学部と大学病院との間で体制を構築することが望ましい。

- ① 大学病院のカルテ委員会等、医療情報、医療政策、医療安全および医学教育の専門家によるワーキンググループを設置する。
- ② 学生による電子カルテと紙カルテ、および正規のカルテと模擬カルテの使用に関する意義や課題について検討し整理する。
- ③ 電子カルテの基本仕様と学生が使用する際の遵守事項を策定する（以下例示）。

電子カルテの使い方

病院情報システムは、患者の個人情報に関するネットワークです。臨床実習で効果的に活用するためには、下記の使用方法を正しく遵守してください。個人情報保護法が平成17年4月に全面施行され、違反した場合は法的にも厳しい処分があります。病院・施設内で得た個人情報は、個人情報保護の観点から、実習・教育以外の目的で利用したり口外したりしてはいけません。

【注意事項】

1. 学生は自分のユーザーアカウントとパスワードを確認して覚える。（「ユーザーアカウント」とは、利用者認識のための記号や番号のことです。これらの識別記号は、自己の責任において管理し、メモに書いたり、人に教えたりしてはいけません。）
2. 「ログイン」後、「ログオフ」するまでは、その場を離れてはいけません。「ログイン」とは、署名・捺印に等しい行為です。誰がいつログインしたのか記録されています。自分以外のアカウントとパスワードでログインすることは禁止されています。また、利用が終了したときは、速やかに自分自身で「ログオフ」してください。
3. 自分自身がログインした電子カルテではなく、誰かがログインし、使用中の画面には絶対に触らないようにして下さい。職員の使用環境と学生の使用環境は異なります。
4. できるだけデスクトップ型のPCを使用するようにして下さい。ノート型PCは職員が緊急で使用する可能性が高いので、許可を得てから使用するようして下さい。また、許可なく端末の設置場所

を移動させてはいけません。

5. 学生は、受け持ち患者の診療情報のみ閲覧することができます。
6. 受け持ち患者以外の患者の情報は入手しないこと、秘密は絶対に漏らさないことを厳守してください。
7. PCトラブルやわからないことなどはすぐに確認してください。フリーズした場合にも放置してはいけません。必ず報告して対処してください。
8. 手術室や集中治療室は、特殊な使用環境にありますので、使用方法を指導教員に確認し、実習中の状況に応じて使用するようになしてください。

以上の利用上の注意をよく守って、最大限に活用してください。問題行為があった場合には、利用が禁止されることがありますので、注意してください。

(4) 学生からの誓約書

以上より、臨床実習の当事者である学生から、事前に患者の個人情報守秘などに関する文書（誓約書）を提出させる必要がある。

診療参加型臨床実習に関する医学生からの誓約書

- 〇〇大学医学部長、医科大学長 殿
〇〇大学病院病院長 殿
〇〇〇〇医療センター病院長 殿

私は診療参加型臨床実習（以下、実習）のオリエンテーションにおいて、以下の内容について指導教員より十分な説明を受け、理解・同意いたしましたので署名いたします。
これに違反した場合には、学則による懲戒を受けます。

1. 「臨床実習指針」に則って実習を行います。実習の内容は、病院の診療上の必要性や現実的制約によって、妥当な範囲で変更することがあることは了解しました。
2. 医行為は臨床実習医学生（スチューデント・ドクター）として単独の自己判断で行わず、必ず指導医の指導・監督の下に行います。
3. 担当する患者には、指導医の紹介の下にスチューデント・ドクターであることを告げ、指導医とともに実習に対する患者の同意を得ます。
4. 基本的な診察手技の習得に当たっては、自らも被検者にもなることを心掛けます。
5. 患者などの保有する病原体が血液、排泄物、分泌物を介して自らに感染する危険性およびその予防法について、指導医より事前に十分な説明を受けます。
6. 病棟の管理規則ならびに指導医または病棟職員による指導に従い、感染防止を含めた医療安全の確保のために、常に十分な注意を払います。
7. 実習中の事故（針刺し事故など）については、病院職員の職務遂行中の事故に準じて取り扱われることを了解しました。
8. 患者の個人情報保護に常に留意し、実習に際して知り得た患者情報を決して他に漏らしません。また自らの実習内容に関係のない情報を閲覧することも決していたしません。
9. 電子カルテの利用に際し「〇〇大学病院（〇〇〇〇総合医療センターなど）において実習等を行なう学生の電子診療録利用に関する規則」を遵守し、原則として診療情報を印刷いたしません。

2〇〇〇年〇〇月〇〇日
〇〇大学医学部/医科大学

学籍番号：_____ 氏名：_____

3. 地域医療実習協力病院における診療参加型臨床実習

- (1) 必修あるいは共通学習目標、診療参加型実習であることの詳細、評価方法、実習をめぐる危機管理の体制や対応方針などについて取り決める。
- (2) 学生の交通費や宿泊施設などについて個別に検討する必要がある。

●●大学医学部地域医療実習協力病院における臨床実習に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、●●大学医学部(以下「学部」という。)が、●●病院(以下「病院」という。)の協力を得て、医学科学生(以下「学生」という。)の臨床実習の充実を期することを目的とし、信州大学医学部長(以下「学部長」という。)と《病院名》長(以下「病院長」という。)との間で協定を締結する。

(協力内容)

第2条 学部は病院に対し、臨床実習指導にかかる協力を文書により依頼し、病院はその諾否について回答するものとする。

2 前項の臨床実習指導に当たっての責任は学部が負い、診療に関する責任は病院が負うものとする。

(学生の資格)

第3条 病院で臨床実習を行うことのできる学生は、その能力を有するものであることを、学部長が適切な方法で適正に資格認定した者とする。

(指導医)

第4条 病院に実習学生の指導助言を行う指導医を置くものとする。

2 前項の指導医は、学部長と病院長が協議の上選任する。

3 臨床実習の場面に応じて、研修医を含む指導医以外の医師並びに、状況によっては看護師やその他の病院職員が直接の指導・監督に当たることもできるが、その場合も指導責任は指導医にあり、最終的には病院長の管理責任とする。

(実習方法等)

第5条 病院における実習診療科、実習学生数、実習期間、実習内容、実習方法等については予め両者が協議の上申合せを行うものとする。

(学習の目標)

第6条 学生は正規のカリキュラムとして学部で決定された「臨床実習の手引き」に具体的に明示されている学習目標に到達するように学習する。

2 学習目標は病院の診療上の必要や現実的制約によって、病院と学部とで協議し、妥当な範囲で変更することがある。

3 指導医は「臨床実習の手引き」に則った学生の学習を支援するものとする。

(学習の方略)

第7条 学生は「臨床実習の手引き」に則った方略で学習する。これは、概ねクリニカルクラークシップに準じているが、病院の診療上の必要や現実的制約によって、病院と学部とで協議し、妥当な範囲で変更することがある。

2 学生に許容される医行為の範囲は、原則として(平成22年度医学教育モデル・コア・カリキュラム別添「診療参加型臨床実習実施のためのガイドライン」)準拠するものとする。

3 医行為は学生が目標に到達するための方略として許容されるものであって、その経験や修練が目標とされるものではない。

4 水準Ⅰに準拠する医行為であっても、病院の診療上の必要や現実的制約又は指導医の判断で、見学に止まることもある。

5 学生は臨床実習において、初対面の患者には自己紹介し、指導者の口添えの下に学生であることを告げて、患者の承諾を得るものとする。

6 学生は指導医の指導・監督の下に医行為を行うものとし、独断で医行為を行ってはならない。

(学習の評価)

第8条 病院は「臨床実習評価表」又は「選択臨床実習の記録」に則って評価を実施するように努めるものとする。

2 病院の診療上の必要や現実的制約によって、評価の方法を病院と学部とで協議し、妥当な範囲で変更することがある。

(臨床実習に関する教育資源および謝金)

第9条 病院は臨床実習に必要な教育資源を用意するものとする。

2 臨床実習の指導に対する病院への謝金は、学部の定めるところにより、1診療科につき1日円とする。

(諸規則の遵守)

第10条 学部長は、学生に対し病院における諸規則を遵守させ、病院の業務に支障を生じさせないよう指導するものとする。

2 学生は患者のプライバシーの保護に常に留意し、臨床実習に際して知り得た患者情報を他に洩らしてはならない。

(問題の処理)

第11条 臨床実習に際して、何らかの問題が生じた場合には、その問題の種類と程度に応じて指導医、病院長など適切なものが処理に当たるものとする。

2 法的な問題が生じた場合には、病院長と学部長とで協議し、若しくはその両者が適切と認める専門の担当者又は専門機関において処理するものとする。

3 病院長は、学生の臨床実習中の事故については、病院職員の職務遂行中の事故に準じて取り扱うものとする。

4 学部長は、学生が予め事故に備えた保険に加入していることを確認する。

第12条 病院長は学生が臨床実習で学習するのに相応しくないと認められた場合には、学部長と協議して、臨床実習を続けることを取り消すことができる。

(協議連絡)

第13条 この協定に定めのない事項で必要が生じた場合は、その都度協議を行うものとする。

(協定期間)

第14条 この協定の期間は、平成●●年 4月 1日から平成●●年 3月31日までとする。

本協定の成立を証するため、本書2通を作成し学部長並びに病院長が記名捺印の上、双方で各1通を保有する。

平成 年 月 日

●●大学医学部長 ●● ●●

●●病院長

●● ●●

4. 学生が当事者となる医療事故の予防、発生後の対応について【統括者・指導医・学生】

(1) 学生に障害が起こる事故について

実習担当教官等は、規則的生活を維持し、常時、心身の調子を整えるように適宜学生へ注意を与えるとともに、日頃から学生とのコミュニケーションをとり、不調を訴えた際は適切に対処する。

各診療科に共通する血液等を介する感染事故等については、その防止対策および事故発生時の迅速な対処方法について指針を作成し、関係者に周知しておくことが望ましい。特に、血液等を介する感染事故を発生しやすい医行為については、感染予防のための指導を充分行うとともに、そのような医行為を学生が行うことについては、危険性等を学生に充分説明したうえで学生の同意を文書等で取得しておくことが望ましい。

実習にはいる前に、結核のツベルクリン反応検査やB型肝炎などの抗体検査とワクチン投与を実施する必要がある。その際、経費の負担と実施体制について検討する必要がある。

事故が発生した場合は、指針に従って迅速に対応するとともに、事実経過を教育管理者(委員会)等に報告し、また文書として記録保存しておくことも必要である。

(2) 学生の行為により患者に傷害が起こる事故について

① 指導にあたる医師の指示に基づく医行為等

- a. 当該病院等において、学生がチームの一員として医療に関わっていく上において、当該学生による直接的な医行為等（学生による介助中の患者の転倒・転落等を含む）により、患者に障害が起きた場合、当該医行為等を受けた患者は当該病院と契約関係にあり、かつ指導にあたる医師は当該病院の職員として業務を遂行しているので病院の経営者が民法上の使用者責任を問われる場合がある。
- b. 事故の状況によっては、病院の経営者が職員である指導にあたる医師ならびに学生に対し、応分の責任を問うことがある。法律上の損害賠償責任をいずれがどの程度負うかは、当事者間の話し合いあるいは民事訴訟の結果による。
- c. 事故の状況やその後の対応によっては、学生に医行為を指示した指導にあたる医師個人の責任を問われる可能性がある。このことが指導にあたる医師に不安を抱かせ、学生の診療参加に対して消極的となる原因の一つとなっている。法律上の損害賠償責任が指導にあたる医師個人にどの程度あるかは、最終的には民事訴訟の結果による。
- d. 当事者の話し合いや民事訴訟の結果にしたがって指導にあたる医師が責任を問われた場合、もし指導にあたる医師が医師賠償責任保険に加入していれば、補償金が支払われる。調査した範囲では、学生は約款で「補助者」と表現されているものに含まれるとみなされ、事故は加入している医師の直接指揮監督下にある看護師、エックス線技師等による事故として扱われ、補償金が支払われるとされている。しかし、各保険会社との契約に当たってはその内容について、個別に調査、確認が必要である。

②指導にあたる医師の指導・監督外の行動

学生が法律上の責任を問われる可能性がある。民事訴訟の結果当該事故について法律上の賠償責任が学生にあるとされた場合、学生が責任を問われる場合がある。しかし、学生が賠償責任保険（次々項）に加入していれば、故意に起こした事故でない限り、国内において、臨床実習中の学生が患者に対して行った行為によって、患者の身体、生命を害し、または財物を損壊したことにより負担する法律上の賠償責任の実額が、保険会社より補償される。（例えば、病院内を通行中の患者に偶然衝突して傷害を負わせた場合）ただし、このような場合でも、実習の場を管理している病院の経営者も賠償責任を問われる可能性は残る。

③学外病院における臨床実習中の医療事故の対応については「取り決め」に明記しておく

④学生が加入する保険について

事故補償の対策としては、公益財団法人「日本国際教育支援協会」が損害保険会社と契約して実施している「学生教育研究災害傷害保険」および「医学生教育研究賠償責任保険」に加入することが望ましい。掛金の支払いをどのように負担するか、また、未加入の学生に、加入学生と同じ範囲の医行為を許容するかどうかについては各大学において検討する必要がある。

（参照：「学習と評価の記録」 P.30）

⑤インシデント発生時の対応について資料等により、教職員、学生に周知する必要がある。

インシデント発生時の対応

インシデントレベル

- レベル0 エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった
レベル1 患者への実害はなかった(何らかの影響を与えた可能性は否定できない)
レベル2 処置や治療は行わなかった(患者監察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた)
レベル3a 簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)
レベル3b 濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)
レベル4a 永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題を伴う
レベル5 死亡(原疾患の自然経過によるものをのぞく)

インシデントが発生した場合、当事者となった学生は患者の影響レベルに応じて以下のように対応する。

- 1) 患者の影響度分類レベル3a までの場合
 - ① 当事者はインシデント発生後、直ちに指導教官もしくはこれに該当する実習指導者に報告する。
 - ② 当事者もしくは指導教官はリスクマネージャーに報告し、インシデントレポートを院内のホームページを利用して登録し、医療安全管理部長に提出する。
 - ③ ただし、レベル3a 以内であっても、患者・家族から医療行為にかかわる何らかの訴えがあった場合は、診療経過等報告書を作成し、医事課(リスクマネジメント担当)を経由して病院長に提出する。
- 2) 患者の影響度分類レベル3b 以上の場合
 - ① 当事者はインシデント発生後、直ちに指導教官もしくはこれに該当する実習指導者に報告する。
 - ② 指導教員は患者の安全を確保した後、リスクマネージャーに報告する。
 - ③ 当事者もしくは指導教官はリスクマネージャーの指示に従って、診療経過等報告書を作成し、医事課(リスクマネジメント担当)を経由して病院長に提出する。
- 3) 個人情報に関する場合
 - ① 当事者はインシデント発生後、直ちに指導教官もしくはこれに該当する実習指導者に報告する。
 - ② 指導教員およびリスクマネージャーは、企画情報部長に報告する。
 - ③ 個人情報漏洩したあるいは紛失した患者へ連絡を取り、状況を説明して謝罪する。
 - ④ 必要性を認められた場合には、総務課総務係の協力を得る。

5. 実習開始前の抗体検査、予防接種等について

診療参加型臨床実習では患者との接触が増えるため、実習を運営する医学部と、院内感染対策を徹底する大学病院との間で、以下の観点について協議の上、学生に対し、抗体検査やワクチン接種等を受けさせる必要がある。他方、感染対策に協力しない学生はプロフェッショナルリズムの観点から問題があるとされる。

- 病院内に持ち込まれる病原体から患者を守る。
- 学生および教職員を院内・院外の感染源から守る。

(参照：「学習と評価の記録」 P.30)

6. 障害や実習で使用する物品・薬品等にアレルギーを有する学生への対応

障害や実習で使用する物品・薬品等にアレルギーを有する学生については、大学が学生間の公平性の確保に留意し慎重かつ十分に検討の上、実習を計画し実施する。なお、適切な機関において、該当する学生への対応状況を調査し、全国的に蓄積した上で、大学からの問い合わせに対応可能な窓口を設けることが望ましい。

7. 院内暴力対策への参加について

診療参加型臨床実習では、他の病院職員と同様に、学生も病院の医療安全対策の管理下に入るため、病院職員と同様のマニュアルを理解し常に携帯しておく必要がある。

院内における暴力・暴言等発生時の対応

適応レベル

レベル1 暴言・セクシャルハラスメント

- ・「ばかやろう」、「アホ」、「ふざけんじゃない」などの侮辱、もしくは名誉を棄損する言動(侮辱罪、名誉棄損罪)
- ・性的な関心・欲求に基づく内容の確認

レベル2 脅迫・暴力行為および器物の破損

- ・「脅迫」は言葉による不当な要求、相手を不利な立場に追い込み損害を与えることを示唆する内容(恐喝罪、脅迫罪)
- ・「暴力行為」は身体には触れるが、傷害には至らないもの(暴行罪、威力業務妨害罪、偽計業務妨害罪)
- ・「器物破損」はその名の通り、設備や備品、機械、装置などを壊すもの(器物損壊罪)
- ・しつこく居座る、何度も電話をかけてくる、ストーカーまがいの行動
- ・セクシャルハラスメント(身体的接触を伴うもの)
- ・凶器となりうる物体を所持し、注意に従わず放棄しない行為

レベル3 治療を要する障害

- ・叩かれた、殴られた、蹴られたなど。一般に傷害と判断されるもので、精神的な障害を含めて、その後の業務に支障を来す程度のもの(治癒までに約1週間以内程度の休業ですむもの)

ただちに警察に通報する(傷害罪、威力業務妨害罪)

レベル4 重大な傷害事件(死亡事故をふくむ)(傷害罪、傷害致死罪、殺人罪)

- ・入院を要するか、治癒までに約1週間以上の休業を要するもの。精神的な障害でも同様
- ・傷害を起こすことを意図して、刃物や器物を用いての暴力など
- ・事件性を有するものはすべて含まれる

ただちに警察に通報する

※なお現行犯の逮捕(身柄の確保)は一般人でも行うことができる(刑事訴訟法)

発生時の対応

レベル1, 2 平日:保安安全対策室長(PHS〇〇〇〇〇)あるいは医療サービス係(内線△△△△)に連絡。当事者等が説得に応じない時は110番通報する

レベル3, 4 ただちに110番通報する

【通報内容】

- 発生時刻
- 発生場所
- 被害を受けるに至った経緯
- 関係者および目撃者の有無
- 怪我の状況
- その他

1. 怪我人が出たら、ただちに医師に治療を要請すること。
(原則、当該科医師に連絡。当該科が不明あるいは連絡がつかない場合は救急部に連絡)
2. 第一に患者および職員の安全確保を優先すること。
3. 相手の話をよく聞き、暴力行為の防止に努力し、暴力の応酬は決して行わないこと。
4. 当事者等の関係者は、レベル1の場合は、記憶が鮮明なうちに必要に応じて診療録に記載すること。
レベル2以上の場合は、「暴力(傷害等)発生報告書」を記録し、医療サービス係(内線△△△△)に提出すること。

「学習と評価の記録」 内容

「学習と評価の記録」の使い方

<全科共通>

- 私が目標とする医師像
- 大学・附属病院の教育理念・目標
- 医師として求められる基本的な資質と能力
- 臨床実習の到達目標(全国版)
- 臨床実習前の確認事項
- 臨床実習開始までの学習履歴
- 研究活動の記録

<各診療科>

- 個別の学習目標設定(学習契約)
- 実習日誌
- 担当入院症例病歴要約
- 担当外来症例一覧
- 簡易版臨床能力評価表
- 症例の担当に関する評価表
- 多職種による学生評価(360° 評価)
- 患者さん(含模擬患者)からの感想
- 診療科終了時の振り返り
- 診療科終了時の指導による評価
- 学生による臨床実習の評価

<付録>

- 電子カルテの使い方
- 診療録(カルテ)の書き方
- インシデント発生時の対応
- 臨床実習における個人情報保護について
- 院内における暴力・暴言等発生時の対応

「学習と評価の記録」の使い方

臨床現場へようこそ！

いよいよ、実際に患者さんのいる病院での、皆さんの臨床実習が始まります。これまでの講義や試験で多くの医学知識・技能を身につけてきたと思いますが、これからはそれらを「知っている」だけでなく「できる」ことが求められるようになります。臨床現場で色々と経験して学ぶことを期待します。

この「学習と評価の記録」ですが、これはみなさんの「学び」をサポートするためのツールです。臨床実習などの現場でみなさんがどのようなことを学びたいのか、教員の先生たちは皆さんの行動をどのように感じているのか、などについて記録していきます。教員の先生たちとみなさんとのコミュニケーションの助けにもなりますし、またみなさんの「学習の記録」にもなります。積極的に書きこみ、また色々な教員から評価ももらって、自分のオリジナルの記録を作ってください。

この「学習と評価の記録」の使い方ですが、大まかには以下の通りです。また各ページの最初に、内容についての説明も書かれてあります。詳細については担当科の教員の先生とも相談して下さい。

1. 臨床実習が始まるまでに「臨床実習前の確認事項」「臨床実習開始までの学習履歴」を記入しておく
2. 臨床実習が始まったら、初日のオリエンテーションの際に、該当科の「個別の学習目標」のところに教員と協同して自分の学習目標を書きこむ決める
3. 実習日誌を使って、毎日、実習が始まる前にその日の目標、実習が終わった後にその日の振り返りを書く
4. 一日単位で、担当の教員から出席のサインをもらう
5. 担当した入院症例・外来症例のサマリーをまとめる
6. 簡易版臨床能力評価表を各科あたり2~4回、指導医に記入してもらう
7. 担当した症例を一緒に診ている指導医に、症例の担当に関する評価表を記入してもらう
8. 指定された医師以外の医療スタッフに360°評価を記入してもらって、該当科の担当教員に提出してもらう
9. 担当した患者さんやお世話になった模擬患者さんに感想を書いてもらう
10. 一つの科で臨床実習が終わる日(教授諮問や教員とのまとめの日)までに、「ローテート終了時の振り返り」を書きこんでおく
11. 一つの科で臨床実習が終わる日(教授諮問や教員とのまとめの日)までに、指導医に「ローテート終了時の指導医による評価」を記入してもらう
12. 一つの科で臨床実習が終わったら、その科の評価を記入して教務係に提出する

私が目標とする医師像

臨床実習が始まるにあたり、自分がどのような医師になりたいと思っているのかを明文化しておきましょう。今後色々な経験があると思いますが、そのたびに、原点に立ち戻るために役立ちます。

年 月 日

私は将来こんな医師になりたい

目指す医師になるため、臨床実習でこんなことを目標にします。

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.

学籍番号

氏名

PHS

〇〇大学医学部の教育理念

〇〇大学医学部の目的は生命科学、医学、医療の分野の発展に寄与し、国際的指導者になる人材を育成することにある。すなわち、これらの分野における問題の的確な把握と解決のために創造的研究を遂行し、臨床においては、その成果に基づいた全人的医療を実践しうる能力の涵養を目指す。

〇〇大学医学部附属病院の理念

理念: 本院は臨床医学の発展と医療人の育成に努め、個々の患者に最適な医療を提供する。

目標

- 患者の意思を尊重する医療の実践
- 安全な医療の提供
- 高度先進医療の開発
- 優れた医療人の育成

医師として求められる基本的な資質と能力

1. プロフェッショナリズム

人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、患者中心の医療を実践しながら、医師としての道(みち)を極めていく。

2. 医学知識と問題対応能力

発展し続ける医学の知識を身につけ、根拠に基づく医療(EBM)を基盤に、経験も踏まえながら、幅広い症候・病態・疾患に対応する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨くとともにそれらを用い、また患者の苦痛や不安感に配慮しながら、診療を実践する

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者およびその家族と良好な関係性を築く

5. チーム医療の実践

医療・保健・福祉ならびに患者に関わる全ての人々の役割を理解し、連携する

6. 医療の質と安全の管理

患者および医療者にとって、良質で安全な医療を提供する

7. 社会における医療の実践

医師として求められる社会的役割を担い、地域社会と国際社会に貢献する

8. 科学的探究

医学・医療の発展のための医学研究の必要性を十分に理解し、批判的思考も身につけながら、学術・研究活動に関与する

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって学び続ける。

医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成 28 年度改訂版)より

臨床実習の到達目標(全国版)

この「臨床実習の到達目標」は、全国の医学部で共通に使用しているものです。本学の診療科ごとに到達目標も設定されていますが、自分の学んだ／経験した内容を確認するために使用して下さい。各項目の横にある口は学生の自己評価チェックに使用して下さい。また適宜、教員の先生にコメントをもらってください。

(参照:「A 医師として求められる基本的な資質と能力」)

1 診療の基本(「医師として求められる基本的な資質と能力」より)

1 プロフェッショナリズム	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(1) 医の倫理と生命倫理										
1) 医療の倫理の歴史について概説できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 生と死に関わる倫理的を列挙できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) 医療の倫理に関する規範、ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等を概説できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

(2) 患者中心の視点	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1) 患者の基本的権利の内容を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 患者の自己決定権の意義を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) 患者が自己決定できない場合の対処法を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

(3) 医師としての責務と裁量権	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1) 診療参加型臨床実習において患者やその家族と信頼関係を築くことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 患者やその家族の持つ価値観や社会的背景が多様であり得ることを認識し、そのいずれにも柔軟に対応できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) 医師が患者に最も適した医療を勧めなければならない理由を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) 医師には能力と環境により診断と治療の限界があることを説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

5) 医師の法的義務を列挙し、例示できる。

指導医のコメント

指導医のサイン

2 医学知識と問題対応能力	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(1) 課題探求・解決能力										
1) 必要な課題を自ら発見できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位づけできる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) 課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) 課題の解決に当たり、他の学習者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5) 適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

(2) 学習の在り方	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) 実験・実習の内容を決められた様式にしたがって文書と口頭で発表できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) 後輩等への適切な指導が実践できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5) 各自の興味に応じて選択制カリキュラムに参加する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

3 診療技能と患者ケア	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1) 病歴を適切に聴取するとともに患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行うことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 網羅的に系統立てて適切な順序で効率的な身体診察を行える。異常所見を認識・記録し、適切な鑑別診断が行える。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) 基本的な臨床技能を理解し、適切な態度で診断や治療を行える。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

学習と評価の記録 7

4) 診療録についての基本的な知識を習得し、問題志向型診療記録形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。

5) 患者の病状、プロブレムリスト、鑑別診断、臨床経過、治療法の要点を提示し、医療チーム構成員と意見交換ができる。

6) 緊急を要する病態や疾患・外傷の基本的知識を説明できる。診療チームの一員として救急医療に参画できる。

7) 慢性疾患の病態、経過、治療を説明できる。医療を提供する場や制度に応じて、診療チームの一員として慢性期医療に参画できる。

8) 患者の苦痛や不安感に配慮しながら、患者と家族に対して誠実に適切な支援を行える。

指導医のコメント

指導医のサイン

4 コミュニケーション能力	自己評価					指導医評価				
(1) コミュニケーション	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1) コミュニケーションの方法と技能を説明し、コミュニケーションが態度あるいは行動に及ぼす影響を概説できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) 患者・家族の話を傾聴し、共感することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

	自己評価					指導医評価				
(2) 患者と医師の関係	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1) 患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 患者に分かりやすい言葉で対話できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) 患者の心理的および社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) 医療行為が患者と医師の契約的な信頼関係に基づいていることを説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5) 患者の要望への対処の仕方を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6) 患者のプライバシーに配慮できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7) 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

5 チーム医療の実践	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(1)患者中心のチーム医療										
1)チーム医療の意義を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)医療チームの構成や各構成員の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)自分の能力の限界を認識し、必要に応じて他の医療従事者に援助を求めることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

6 医療の質と安全の管理	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(1)安全性の確保										
1)実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)医療上の事故等を防止するためには、個人の注意力はもとより、組織的なリスク管理が重要であることを説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療記録改竄の違法性について説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)医療の安全性に関する情報を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5)医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6)医療機関における医療安全管理体制の在り方を概説できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7)医療関連感染症の原因および回避する方法を概説できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8)真摯に疑義に応じることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(2)医療上の事故等への対処と予防										
1)インシデント(ヒヤリハット)、および、医療過誤と合併症の違いを説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)医療上のエラー等が発生したときの緊急処置や記録、報告について説明し、実践できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)医療過誤に関連して医師に課せられた社会的責任と罰則規定を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)基本的予防策について概説し、指導医の指導の下に実践できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(3)医療従事者の健康と安全										
1)医療従事者の健康管理の重要性を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)標準予防策の必要性を説明し、実行できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)患者隔離の必要な場合について説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)針刺し事故<針刺し切創>等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5)医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

7. 社会における医療の実践	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(1)地域医療への貢献										
1)地域社会における医療の状況、医師の偏在(地域および診療科)の現状について概説できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)医療計画および地域医療構想について説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)地域包括ケアシステム概念を理解し、地域における、保健・医療・福祉・介護の分野間および多職種間の連携の必要性について説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を身に付ける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5)地域における、救急医療、在宅医療および離島・へき地医療の体制を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6)災害医療について説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7)地域医療に積極的に参加・貢献する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(2)国際医療への貢献										
1)患者の文化的背景を尊重し、異なる言語や宗教に配慮することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)地域医療の中での国際化を把握し、価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)保健、医療に関する国際的課題について理解し、説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)日本の医療の特徴を理解し、国際社会への貢献の意義を理解している。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

8 科学的探究	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(1)医学研究への志向の涵養										
1)研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)生命科学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、解決に向けて科学研究に参加することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(1)生涯学習への準備										
1)生涯学習の重要性を説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)キャリアステージにより求められる能力に異なるニーズがあることを理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)臨床実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

2 臨床推論

診療参加型臨床実習では、診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学びます。以下に挙げた症候・病態と疾患名の組合せのうち、実習で臨床推論を学んだ疾患名を記録してください。

(参照:「G 臨床実習」)

(1)発熱

分類	臨床推論を学んだ疾患
感染症・炎症性	<input type="checkbox"/> 上気道炎、 <input type="checkbox"/> 扁桃炎、 <input type="checkbox"/> 気管支炎、 <input type="checkbox"/> 細気管支炎、 <input type="checkbox"/> 肺炎、 <input type="checkbox"/> 肺結核、 <input type="checkbox"/> 肺真菌症、 <input type="checkbox"/> 心筋炎、 <input type="checkbox"/> 急性胃腸炎、 <input type="checkbox"/> 急性虫垂炎、 <input type="checkbox"/> 胆嚢炎、 <input type="checkbox"/> 胆管炎、 <input type="checkbox"/> 尿路感染症、 <input type="checkbox"/> 髄膜炎、 <input type="checkbox"/> 脳炎、 <input type="checkbox"/> 敗血症、 <input type="checkbox"/> 痔瘻、 <input type="checkbox"/> 炎症性腸疾患
腫瘍	<input type="checkbox"/> 肺癌、 <input type="checkbox"/> 食道癌、 <input type="checkbox"/> 胃癌、 <input type="checkbox"/> 大腸癌、 <input type="checkbox"/> 肝癌、 <input type="checkbox"/> 膵癌、 <input type="checkbox"/> 腎細胞癌、 <input type="checkbox"/> 膀胱癌、 <input type="checkbox"/> 前立腺癌、 <input type="checkbox"/> 子宮頸癌、 <input type="checkbox"/> 乳癌、 <input type="checkbox"/> 子宮体癌、 <input type="checkbox"/> 卵巣癌、 <input type="checkbox"/> 急性白血病、 <input type="checkbox"/> 慢性白血病、 <input type="checkbox"/> 悪性リンパ腫
免疫・膠原病	<input type="checkbox"/> 全身性エリテマトーデス<SLE>
特発性・中毒	<input type="checkbox"/> 間質性肺疾患、 <input type="checkbox"/> 熱中症
血管	<input type="checkbox"/> 脳出血

指導医のコメント

指導医のサイン

(2)全身倦怠感

分類	臨床推論を学んだ疾患
感染症・炎症性	<input type="checkbox"/> 肺結核、 <input type="checkbox"/> 肺真菌症、 <input type="checkbox"/> 慢性肝炎
精神	<input type="checkbox"/> うつ病、 <input type="checkbox"/> 双極性障害<躁うつ病>、 <input type="checkbox"/> 統合失調症、 <input type="checkbox"/> 不安障害(パニック障害、社交<社会>不安障害)、 <input type="checkbox"/> 身体表現性障害(疼痛性障害、心気症)、 <input type="checkbox"/> 心身症、 <input type="checkbox"/> ストレス関連障害(心的外傷後ストレス障害<post-traumatic stress disorder : PTSD>、 <input type="checkbox"/> 急性ストレス障害)
特発性・中毒性	<input type="checkbox"/> 間質性肺疾患、 <input type="checkbox"/> アルコール依存症、 <input type="checkbox"/> 薬物依存症
内分泌・代謝	<input type="checkbox"/> 糖尿病、 <input type="checkbox"/> 甲状腺機能亢進症、 <input type="checkbox"/> 甲状腺機能低下症、 <input type="checkbox"/> 更年期障害
腫瘍	<input type="checkbox"/> 肺癌、 <input type="checkbox"/> 食道癌、 <input type="checkbox"/> 胃癌、 <input type="checkbox"/> 大腸癌、 <input type="checkbox"/> 肝癌、 <input type="checkbox"/> 膵癌、 <input type="checkbox"/> 腎細胞癌、 <input type="checkbox"/> 膀胱癌、 <input type="checkbox"/> 前立腺癌、 <input type="checkbox"/> 子宮頸癌、 <input type="checkbox"/> 乳癌、 <input type="checkbox"/> 子宮体癌、 <input type="checkbox"/> 卵巣癌、 <input type="checkbox"/> 急性白血病、 <input type="checkbox"/> 慢性白血病、 <input type="checkbox"/> 悪性リンパ腫、 <input type="checkbox"/> 骨髄腫

指導医のコメント

指導医のサイン

(3)食思<欲>不振

分類	臨床推論を学んだ疾患
腫瘍	□肺癌、□食道癌、□胃癌、□大腸癌、□肝癌、□膵癌、□腎細胞癌、□膀胱癌、 □前立腺癌、□子宮頸癌、□乳癌、□子宮体癌、□卵巣癌、□急性白血病、 □慢性白血病、□悪性リンパ腫、□骨髄腫
消化器	□機能性消化管疾患、□胃潰瘍、□十二指腸潰瘍、□肝硬変、□肝不全、 □胆石症、□慢性膵炎、□腸閉塞、□腸重積症、□胃食道逆流症、□便秘症、 □乳児下痢症
呼吸器	□気管支喘息(小児喘息を含む)、□慢性閉塞性肺疾患
循環器	□急性心筋梗塞、□心不全
頭部・脳神経	□脳出血、□くも膜下出血、□Parkinson 病、□脳炎、□髄膜炎
精神	□うつ病、統合失調症、ストレス関連障害、□不安障害、□認知症
内分泌	□甲状腺機能低下症

指導医のコメント

指導医のサイン

(4)体重増加・体重減少

分類	臨床推論を学んだ疾患	
体重増加	□甲状腺機能低下症、□糖尿病、□うつ病、□ストレス関連障害、□心不全、 □ネフローゼ症候群	
体重減少	腫瘍	□肺癌、□食道癌、□胃癌、□大腸癌、□肝癌、□膵癌、□腎細胞癌、 □膀胱癌、□前立腺癌、□子宮頸癌、□乳癌、□子宮体癌、□卵巣癌、 □急性白血病、□慢性白血病、□悪性リンパ腫、□骨髄腫
	内分泌	□糖尿病、□甲状腺機能亢進症、□甲状腺機能低下症
	精神	□うつ病、□統合失調症、□ストレス関連障害、□認知症、□不安障害
	感染症・炎症性	□肺結核、□慢性閉塞性肺疾患、□慢性肝炎、□肝硬変、□肝不全
	免疫・膠原病	□炎症性腸疾患
	消化器	□胃潰瘍、□十二指腸潰瘍<消化性潰瘍>
	中毒	□アルコール依存症、□薬物依存症

指導医のコメント

指導医のサイン

(5)ショック

分類	臨床推論を学んだ疾患
循環血液量減少性	□急性消化管出血、□急性大動脈解離、□大動脈瘤破裂、□骨折、□熱傷、 □乳児下痢症
血液分布異常性	□肺炎、□尿路感染症、□胆管炎、□胆嚢炎、□急性膵炎、 □汎発性腹膜炎、□敗血症、□アナフィラキシー、□頭部外傷、□脊髄損傷
心原性	□急性心筋梗塞、□心筋炎、□心不全、□不整脈、□弁膜症
心外閉塞・拘束性	□肺塞栓症、□緊張性気胸

指導医のコメント

指導医のサイン

(6)心停止

分類	臨床推論を学んだ疾患
心血管	<input type="checkbox"/> 不整脈、 <input type="checkbox"/> 急性心筋梗塞、 <input type="checkbox"/> 急性冠症候群、 <input type="checkbox"/> 急性大動脈解離、 <input type="checkbox"/> 大動脈瘤破裂、 <input type="checkbox"/> 心不全、 <input type="checkbox"/> 肺塞栓症
呼吸器	<input type="checkbox"/> 緊張性気胸、 <input type="checkbox"/> 外傷性気胸
脳血管障害・中枢神経	<input type="checkbox"/> 脳出血、 <input type="checkbox"/> くも膜下出血、 <input type="checkbox"/> 頭蓋内血腫、 <input type="checkbox"/> 脳梗塞、 <input type="checkbox"/> 頭部外傷、 <input type="checkbox"/> 脊髄損傷
免疫	<input type="checkbox"/> アナフィラキシー
中毒	<input type="checkbox"/> 熱中症、 <input type="checkbox"/> 寒冷による障害

指導医のコメント

指導医のサイン

(7)意識障害・失神

分類	臨床推論を学んだ疾患
脳原発性	<input type="checkbox"/> 脳出血、 <input type="checkbox"/> くも膜下出血、 <input type="checkbox"/> 頭蓋内血腫、 <input type="checkbox"/> 脳梗塞、 <input type="checkbox"/> 脳炎、 <input type="checkbox"/> 髄膜炎
全身性	<input type="checkbox"/> 心筋梗塞、 <input type="checkbox"/> 不整脈、 <input type="checkbox"/> 急性大動脈解離、 <input type="checkbox"/> 大動脈瘤破裂、 <input type="checkbox"/> 肺塞栓症、 <input type="checkbox"/> てんかん、 <input type="checkbox"/> 急性消化管出血、 <input type="checkbox"/> 糖尿病、 <input type="checkbox"/> 敗血症、 <input type="checkbox"/> 肝不全、 <input type="checkbox"/> 急性膵炎、 <input type="checkbox"/> 慢性腎臓病

指導医のコメント

指導医のサイン

(8)けいれん

分類	臨床推論を学んだ疾患
てんかん	<input type="checkbox"/> てんかん
脳血管障害	<input type="checkbox"/> 脳梗塞、 <input type="checkbox"/> くも膜下出血
代謝性・中毒性	<input type="checkbox"/> 肝性脳症、 <input type="checkbox"/> 甲状腺機能低下症、 <input type="checkbox"/> 糖尿病、 <input type="checkbox"/> 薬物依存症、 <input type="checkbox"/> アルコール依存症
感染性	<input type="checkbox"/> 髄膜炎、 <input type="checkbox"/> 脳炎、 <input type="checkbox"/> 脳症、 <input type="checkbox"/> 敗血症、 <input type="checkbox"/> 熱性けいれん

指導医のコメント

指導医のサイン

(9)めまい

分類	臨床推論を学んだ疾患
末梢前庭性	<input type="checkbox"/> 良性発作性頭位めまい症、 <input type="checkbox"/> 急性中耳炎
代謝性・中毒性	<input type="checkbox"/> 肝性脳症、 <input type="checkbox"/> 甲状腺機能低下症、 <input type="checkbox"/> 糖尿病、 <input type="checkbox"/> 薬物依存症、 <input type="checkbox"/> アルコール依存症

感染性	<input type="checkbox"/> 髄膜炎、 <input type="checkbox"/> 脳炎、 <input type="checkbox"/> 脳症、 <input type="checkbox"/> 敗血症、 <input type="checkbox"/> 熱性けいれん
中枢性	<input type="checkbox"/> 脳出血、 <input type="checkbox"/> 脳梗塞、 <input type="checkbox"/> 脳炎、 <input type="checkbox"/> 髄膜炎、 <input type="checkbox"/> アルコール依存症、 <input type="checkbox"/> 薬物依存症、 <input type="checkbox"/> 片頭痛、 <input type="checkbox"/> てんかん
失神性	<input type="checkbox"/> 不整脈、 <input type="checkbox"/> 肺塞栓症、 <input type="checkbox"/> 弁膜症、 <input type="checkbox"/> 心不全、 <input type="checkbox"/> 鉄欠乏性貧血、 <input type="checkbox"/> 二次性貧血、 <input type="checkbox"/> 糖尿病
心因性	<input type="checkbox"/> 不安障害、 <input type="checkbox"/> 身体表現性障害、 <input type="checkbox"/> 心身症、 <input type="checkbox"/> ストレス関連障害

指導医のコメント

指導医のサイン

(10) 脱水

分類	臨床推論を学んだ疾患
消化器	<input type="checkbox"/> 急性消化管出血、 <input type="checkbox"/> 急性胃腸炎、 <input type="checkbox"/> 乳児下痢症、 <input type="checkbox"/> 急性膵炎、 <input type="checkbox"/> 腸閉塞、 <input type="checkbox"/> 汎発性腹膜炎、 <input type="checkbox"/> 食中毒
腎臓	<input type="checkbox"/> 急性腎障害、 <input type="checkbox"/> 慢性腎臓病
内分泌・代謝	<input type="checkbox"/> 糖尿病
皮膚	<input type="checkbox"/> 熱中症、 <input type="checkbox"/> 熱傷

指導医のコメント

指導医のサイン

(11) 浮腫

分類	臨床推論を学んだ疾患
局所性	<input type="checkbox"/> 深部静脈血栓症、 <input type="checkbox"/> 下肢静脈瘤、 <input type="checkbox"/> 骨折
全身性	<input type="checkbox"/> 心不全、 <input type="checkbox"/> 急性糸球体腎炎症候群、 <input type="checkbox"/> 慢性糸球体腎炎症候群、 <input type="checkbox"/> ネフローゼ症候群、 <input type="checkbox"/> 急性腎障害、 <input type="checkbox"/> 慢性腎臓病、 <input type="checkbox"/> 肝硬変、 <input type="checkbox"/> 肝不全、 <input type="checkbox"/> 妊娠高血圧症候群、 <input type="checkbox"/> 甲状腺機能低下症

指導医のコメント

指導医のサイン

(12) 発疹

分類	臨床推論を学んだ疾患
感染症	<input type="checkbox"/> ウイルス性発疹症、 <input type="checkbox"/> 播種性血管内凝固<DIC>、 <input type="checkbox"/> 敗血症
アレルギー	<input type="checkbox"/> 皮膚炎、 <input type="checkbox"/> 蕁麻疹、 <input type="checkbox"/> 薬疹
免疫・膠原病	<input type="checkbox"/> 全身性エリテマトーデス<SLE>
皮膚疾患	<input type="checkbox"/> 湿疹、 <input type="checkbox"/> 皮膚潰瘍、 <input type="checkbox"/> 褥瘡

指導医のコメント

指導医のサイン

(13)咳・痰

分類	臨床推論を学んだ疾患
感染症・炎症性・慢性呼吸器疾患	<input type="checkbox"/> 上気道炎、 <input type="checkbox"/> 気管支炎、 <input type="checkbox"/> 細気管支炎、 <input type="checkbox"/> 肺炎、 <input type="checkbox"/> 肺結核、 <input type="checkbox"/> 肺真菌症、 <input type="checkbox"/> 気管支喘息、 <input type="checkbox"/> 慢性閉塞性肺疾患、 <input type="checkbox"/> 急性副鼻腔炎、 <input type="checkbox"/> 慢性副鼻腔炎、 <input type="checkbox"/> 急性呼吸窮迫症候群<ARDS>
腫瘍	<input type="checkbox"/> 肺癌
血管	<input type="checkbox"/> 肺塞栓症、 <input type="checkbox"/> 肺水腫
特発性	<input type="checkbox"/> 間質性肺疾患、 <input type="checkbox"/> 自然気胸
免疫・膠原病	<input type="checkbox"/> アレルギー性鼻炎
消化器	<input type="checkbox"/> 胃食道逆流症
精神	<input type="checkbox"/> 不安障害

指導医のコメント

指導医のサイン

(14)血痰・喀血

分類	臨床診断推論を学んだ疾患
呼吸器	<input type="checkbox"/> 気管支炎、 <input type="checkbox"/> 肺炎、 <input type="checkbox"/> 肺結核、 <input type="checkbox"/> 肺真菌症、 <input type="checkbox"/> 肺癌、 <input type="checkbox"/> 外傷性気胸、 <input type="checkbox"/> 肺塞栓症
心血管系	<input type="checkbox"/> 弁膜症、 <input type="checkbox"/> 心不全
出血傾向	<input type="checkbox"/> 急性白血病、 <input type="checkbox"/> 慢性白血病、 <input type="checkbox"/> 播種性血管内凝固<DIC>

指導医のコメント

指導医のサイン

(15)呼吸困難

分類	臨床推論を学んだ疾患
呼吸器	<input type="checkbox"/> 肺塞栓症、 <input type="checkbox"/> 細気管支炎、 <input type="checkbox"/> 肺炎、 <input type="checkbox"/> 肺結核、 <input type="checkbox"/> 肺真菌症、 <input type="checkbox"/> 急性呼吸窮迫症候群<ARDS>、 <input type="checkbox"/> 気管支喘息、 <input type="checkbox"/> 慢性閉塞性肺疾患<COPD>、 <input type="checkbox"/> 肺癌、 <input type="checkbox"/> 間質性肺疾患、 <input type="checkbox"/> 自然気胸、 <input type="checkbox"/> 緊張性気胸、 <input type="checkbox"/> 外傷性気胸、 <input type="checkbox"/> 肺水腫
循環器	<input type="checkbox"/> 不整脈、 <input type="checkbox"/> 心不全
心因性	<input type="checkbox"/> うつ病、 <input type="checkbox"/> 双極性障害<躁うつ病>、 <input type="checkbox"/> 不安障害、 <input type="checkbox"/> 身体表現性障害、 <input type="checkbox"/> 過換気症候群

指導医のコメント

指導医のサイン

(16)胸痛

<input type="checkbox"/> 狭心症、 <input type="checkbox"/> 急性心筋梗塞、 <input type="checkbox"/> 急性冠症候群、 <input type="checkbox"/> 肺塞栓症、 <input type="checkbox"/> 肺炎、 <input type="checkbox"/> 自然気胸、 <input type="checkbox"/> 緊張性気胸、 <input type="checkbox"/> 急性大動脈解離、 <input type="checkbox"/> 胃食道逆流症、 <input type="checkbox"/> 不安障害
--

指導医のコメント

指導医のサイン

(17) 動悸

分類	臨床推論を学んだ疾患
循環器	<input type="checkbox"/> 不整脈、 <input type="checkbox"/> 弁膜症、 <input type="checkbox"/> 急性心筋梗塞、 <input type="checkbox"/> 急性冠症候群、 <input type="checkbox"/> 狭心症、 <input type="checkbox"/> 心筋炎、 <input type="checkbox"/> 心筋症、 <input type="checkbox"/> 心不全、 <input type="checkbox"/> 先天性心疾患
二次性	<input type="checkbox"/> 甲状腺機能亢進症、 <input type="checkbox"/> 鉄欠乏性貧血、 <input type="checkbox"/> 二次性貧血
心因性	<input type="checkbox"/> 不安障害、 <input type="checkbox"/> 過換気症候群

指導医のコメント

指導医のサイン

(18) 胸水

分類	臨床推論を学んだ疾患
循環器	<input type="checkbox"/> 心不全
感染症	<input type="checkbox"/> 肺炎、 <input type="checkbox"/> 肺結核、 <input type="checkbox"/> 肺真菌症
腫瘍	<input type="checkbox"/> 肺癌、 <input type="checkbox"/> 急性白血病、 <input type="checkbox"/> 慢性白血病、 <input type="checkbox"/> 悪性リンパ腫
呼吸器	<input type="checkbox"/> 肺塞栓症
消化器	<input type="checkbox"/> 肝硬変、 <input type="checkbox"/> 急性膵炎、 <input type="checkbox"/> 慢性膵炎
免疫・膠原病	<input type="checkbox"/> 関節リウマチ、 <input type="checkbox"/> 全身性エリトマトーデス<SLE>
泌尿器	<input type="checkbox"/> ネフローゼ症候群、 <input type="checkbox"/> 急性糸球体腎炎症候群、 <input type="checkbox"/> 慢性糸球体腎炎症候群、 <input type="checkbox"/> 慢性腎臓病

指導医のコメント

指導医のサイン

(19) 嚥下困難・障害

分類	臨床推論を学んだ疾患
神経・筋障害	<input type="checkbox"/> 脳出血、 <input type="checkbox"/> 脳梗塞、 <input type="checkbox"/> 一過性脳虚血発作、 <input type="checkbox"/> Parkinson 病
炎症性	<input type="checkbox"/> 上気道炎、 <input type="checkbox"/> 扁桃炎
腫瘍	<input type="checkbox"/> 食道癌、 <input type="checkbox"/> 肺癌、 <input type="checkbox"/> 胃癌
食道疾患	<input type="checkbox"/> 胃食道逆流症<GERD>、 <input type="checkbox"/> 炎症性腸疾患
全身性	<input type="checkbox"/> 糖尿病
心因性	<input type="checkbox"/> 身体表現性障害

指導医のコメント

指導医のサイン

(20) 腹痛

分類	臨床推論を学んだ疾患
消化器	<input type="checkbox"/> 機能的消化管疾患、 <input type="checkbox"/> 炎症性腸疾患、 <input type="checkbox"/> 胃潰瘍、 <input type="checkbox"/> 十二指腸潰瘍<消化性潰瘍>、 <input type="checkbox"/> 急性胃腸炎、 <input type="checkbox"/> 便秘症、 <input type="checkbox"/> 急性虫垂炎、 <input type="checkbox"/> 胆石症、 <input type="checkbox"/> 胆嚢炎、 <input type="checkbox"/> 胆管炎、 <input type="checkbox"/> 急性膵炎、 <input type="checkbox"/> 腸閉塞、 <input type="checkbox"/> 汎発性腹膜炎、 <input type="checkbox"/> 大腸癌、 <input type="checkbox"/> 肝癌、 <input type="checkbox"/> 膵癌、 <input type="checkbox"/> 鼠径ヘルニア
泌尿・生殖器	<input type="checkbox"/> 尿路結石、 <input type="checkbox"/> 尿路感染症、 <input type="checkbox"/> 卵巣癌、 <input type="checkbox"/> 卵巣嚢腫、 <input type="checkbox"/> 流・早産

循環器	<input type="checkbox"/> 心筋梗塞、 <input type="checkbox"/> 狭心症、 <input type="checkbox"/> 急性冠症候群、 <input type="checkbox"/> 急性大動脈解離、 <input type="checkbox"/> 大動脈瘤破裂
心因性	<input type="checkbox"/> 身体表現性障害

指導医のコメント

指導医のサイン

(21) 悪心・嘔吐

分類	臨床推論を学んだ疾患
消化器	<input type="checkbox"/> 食道癌、 <input type="checkbox"/> 胃食道逆流症<GERD>、 <input type="checkbox"/> 胃潰瘍、 <input type="checkbox"/> 十二指腸潰瘍<消化性潰瘍>、 <input type="checkbox"/> 胃癌、 <input type="checkbox"/> 急性胃腸炎、 <input type="checkbox"/> 便秘症、 <input type="checkbox"/> 乳児下痢症、 <input type="checkbox"/> 急性虫垂炎、 <input type="checkbox"/> 機能性消化管障害、 <input type="checkbox"/> 汎発性腹膜炎、 <input type="checkbox"/> 大腸癌、 <input type="checkbox"/> 急性肝炎、 <input type="checkbox"/> 胆石症、 <input type="checkbox"/> 胆嚢炎、 <input type="checkbox"/> 胆管炎、 <input type="checkbox"/> 急性膵炎、 <input type="checkbox"/> 慢性膵炎、 <input type="checkbox"/> 腸閉塞、 <input type="checkbox"/> 腸重積症、 <input type="checkbox"/> 食中毒
内分泌・代謝	<input type="checkbox"/> 甲状腺機能亢進症、 <input type="checkbox"/> 甲状腺機能低下症、 <input type="checkbox"/> 糖尿病、 <input type="checkbox"/> 肝不全、 <input type="checkbox"/> 妊娠高血圧症候群
循環器	<input type="checkbox"/> 不整脈、 <input type="checkbox"/> 急性心筋梗塞、 <input type="checkbox"/> 急性冠症候群、 <input type="checkbox"/> 狭心症、 <input type="checkbox"/> 心不全
頭部	<input type="checkbox"/> 良性発作性頭位めまい症、 <input type="checkbox"/> 片頭痛、 <input type="checkbox"/> 脳出血、 <input type="checkbox"/> くも膜下出血、 <input type="checkbox"/> 頭蓋内血腫、 <input type="checkbox"/> 髄膜炎、 <input type="checkbox"/> 脳炎、 <input type="checkbox"/> 脳症、 <input type="checkbox"/> てんかん
精神	<input type="checkbox"/> うつ病、 <input type="checkbox"/> 双極性障害<躁うつ病>、 <input type="checkbox"/> 身体表現性障害、 <input type="checkbox"/> 過換気症候群
泌尿・生殖器	<input type="checkbox"/> 急性腎障害、 <input type="checkbox"/> 尿路結石、 <input type="checkbox"/> 尿路感染症、 <input type="checkbox"/> 子宮内膜症、 <input type="checkbox"/> 月経困難症、 <input type="checkbox"/> 更年期障害

指導医のコメント

指導医のサイン

(22) 吐血・下血

分類	臨床推論を学んだ疾患
吐血	<input type="checkbox"/> 急性消化管出血、 <input type="checkbox"/> 胃癌、 <input type="checkbox"/> 食道癌
下血	<input type="checkbox"/> 胃潰瘍、 <input type="checkbox"/> 十二指腸潰瘍<消化性潰瘍>、 <input type="checkbox"/> 胃静脈瘤、 <input type="checkbox"/> 食道静脈瘤、 <input type="checkbox"/> 炎症性腸疾患、 <input type="checkbox"/> 大腸癌、 <input type="checkbox"/> 胃癌、 <input type="checkbox"/> 腸重積症

指導医のコメント

指導医のサイン

(23) 便秘・下痢

分類	臨床推論を学んだ疾患
便秘	<input type="checkbox"/> 便秘症、 <input type="checkbox"/> 機能性消化管疾患、 <input type="checkbox"/> 甲状腺機能低下症、 <input type="checkbox"/> 腸閉塞、 <input type="checkbox"/> 大腸癌、 <input type="checkbox"/> Parkinson 病
下痢	<input type="checkbox"/> 急性胃腸炎、 <input type="checkbox"/> 機能性消化管疾患、 <input type="checkbox"/> 炎症性腸疾患、 <input type="checkbox"/> アナフィラキシー、 <input type="checkbox"/> 甲状腺機能亢進症、 <input type="checkbox"/> 急性虫垂炎、 <input type="checkbox"/> 慢性膵炎、 <input type="checkbox"/> 糖尿病、 <input type="checkbox"/> 乳児下痢症

指導医のコメント

指導医のサイン

(24) 黄疸

急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝不全、肝癌、胆石症、胆嚢炎、胆管炎、膵癌、
二次性貧血

指導医のコメント

指導医のサイン

(25) 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤

分類	臨床推論を学んだ疾患
消化管内	<input type="checkbox"/> 腸閉塞、 <input type="checkbox"/> 大腸癌、 <input type="checkbox"/> 便秘
腹腔内(腹水貯留)	<input type="checkbox"/> 肝硬変、 <input type="checkbox"/> 汎発性腹膜炎、 <input type="checkbox"/> ネフローゼ症候群、 <input type="checkbox"/> 心不全
腹腔内臓器・後腹膜臓器	<input type="checkbox"/> 胃癌、 <input type="checkbox"/> 肝癌、 <input type="checkbox"/> 急性肝炎、 <input type="checkbox"/> 慢性肝炎、 <input type="checkbox"/> 脂肪肝、 <input type="checkbox"/> 膵癌、 <input type="checkbox"/> 腎細胞癌、 <input type="checkbox"/> 子宮筋腫、 <input type="checkbox"/> 卵巣癌、 <input type="checkbox"/> 卵巣嚢腫、 <input type="checkbox"/> 膀胱

指導医のコメント

指導医のサイン

(26) 貧血

分類	臨床推論を学んだ疾患
鉄欠乏性	<input type="checkbox"/> 胃静脈瘤、 <input type="checkbox"/> 食道静脈瘤、 <input type="checkbox"/> 胃潰瘍、 <input type="checkbox"/> 十二指腸潰瘍<消化性潰瘍>、 <input type="checkbox"/> 痔核、 <input type="checkbox"/> 子宮内膜症、 <input type="checkbox"/> 月経困難症
造血器腫瘍	<input type="checkbox"/> 急性白血病、 <input type="checkbox"/> 慢性白血病、 <input type="checkbox"/> 骨髄腫
二次性	<input type="checkbox"/> 慢性肝炎、 <input type="checkbox"/> 肝硬変、 <input type="checkbox"/> 慢性腎臓病、 <input type="checkbox"/> アルコール依存症

指導医のコメント

指導医のサイン

(27) リンパ節腫脹

分類	臨床推論を学んだ疾患
感染症	<input type="checkbox"/> ウイルス性発疹症(風疹・麻疹)、 <input type="checkbox"/> 肺結核、 <input type="checkbox"/> 肺真菌症、 <input type="checkbox"/> 上気道炎
免疫・膠原病	<input type="checkbox"/> 全身性エリトマトーデス<SLE>、 <input type="checkbox"/> 関節リウマチ
腫瘍	<input type="checkbox"/> 肺癌、 <input type="checkbox"/> 食道癌、 <input type="checkbox"/> 胃癌、 <input type="checkbox"/> 大腸癌、 <input type="checkbox"/> 肝癌、 <input type="checkbox"/> 膵癌、 <input type="checkbox"/> 腎細胞癌、 <input type="checkbox"/> 膀胱癌、 <input type="checkbox"/> 前立腺癌、 <input type="checkbox"/> 子宮頸癌、 <input type="checkbox"/> 乳癌、 <input type="checkbox"/> 子宮体癌、 <input type="checkbox"/> 卵巣癌、 <input type="checkbox"/> 急性白血病、 <input type="checkbox"/> 慢性白血病、 <input type="checkbox"/> 悪性リンパ腫

指導医のコメント

指導医のサイン

(28) 尿量・排尿の異常

分類	臨床推論を学んだ疾患
尿排出障害	<input type="checkbox"/> 前立腺肥大症、 <input type="checkbox"/> 尿路結石、 <input type="checkbox"/> 尿路感染症、 <input type="checkbox"/> 前立腺癌、 <input type="checkbox"/> 膀胱癌、 <input type="checkbox"/> 糖尿病、 <input type="checkbox"/> 椎間板ヘルニア、 <input type="checkbox"/> 脊髄損傷
蓄尿障害	<input type="checkbox"/> 尿路感染症、 <input type="checkbox"/> 尿路結石、 <input type="checkbox"/> 脳梗塞、 <input type="checkbox"/> 糖尿病

頻尿	<input type="checkbox"/> 尿路感染症、尿路結石、慢性腎臓病、糖尿病、心不全
乏尿・無尿	<input type="checkbox"/> 心筋梗塞、 <input type="checkbox"/> 心不全、 <input type="checkbox"/> 熱傷、 <input type="checkbox"/> 敗血症、 <input type="checkbox"/> 急性糸球体腎炎症候群、 <input type="checkbox"/> 慢性糸球体腎炎症候群、 <input type="checkbox"/> 子宮頸癌、 <input type="checkbox"/> 子宮体癌、 <input type="checkbox"/> 膀胱癌、 <input type="checkbox"/> 前立腺癌

指導医のコメント

指導医のサイン

(29) 血尿・蛋白尿

<input type="checkbox"/> 尿路結石、 <input type="checkbox"/> 尿路感染症、 <input type="checkbox"/> 膀胱癌、 <input type="checkbox"/> 急性糸球体腎炎症候群、 <input type="checkbox"/> 慢性糸球体腎炎症候群、 <input type="checkbox"/> ネフローゼ症候群、 <input type="checkbox"/> 糖尿病腎症、 <input type="checkbox"/> 急性腎障害、 <input type="checkbox"/> 慢性腎臓病、 <input type="checkbox"/> 腎細胞癌
--

指導医のコメント

指導医のサイン

(30) 月経異常

<input type="checkbox"/> 子宮内膜症、 <input type="checkbox"/> 月経困難症、 <input type="checkbox"/> 更年期障害、 <input type="checkbox"/> 子宮頸癌、 <input type="checkbox"/> 子宮体癌、 <input type="checkbox"/> 卵巣癌、 <input type="checkbox"/> 卵巣嚢腫、 <input type="checkbox"/> ストレス関連障害(心的外傷後ストレス障害<PTSD>、急性ストレス障害)

指導医のコメント

指導医のサイン

(31) 不安・抑うつ

分類	臨床推論を学んだ疾患
一次性	<input type="checkbox"/> うつ病、 <input type="checkbox"/> 双極性障害<躁うつ病>、 <input type="checkbox"/> 不安障害(パニック障害、社交<社会>不安障害)
二次性 (不安障害)	<input type="checkbox"/> 甲状腺機能亢進症、 <input type="checkbox"/> 不整脈、 <input type="checkbox"/> がんの診断・解釈モデル
二次性 (うつ病)	<input type="checkbox"/> 甲状腺機能低下症、 <input type="checkbox"/> 認知症、 <input type="checkbox"/> Parkinson 病、 <input type="checkbox"/> 脳梗塞、 <input type="checkbox"/> 脳出血、 <input type="checkbox"/> 急性心筋梗塞、 <input type="checkbox"/> 狭心症、 <input type="checkbox"/> 心筋症、 <input type="checkbox"/> 心不全、 <input type="checkbox"/> 頭部外傷、 <input type="checkbox"/> 糖尿病、 <input type="checkbox"/> 慢性肝炎、 <input type="checkbox"/> 肝硬変、 <input type="checkbox"/> 炎症性腸疾患、 <input type="checkbox"/> 全身性エリトマトーデス<SLE>、 <input type="checkbox"/> がんの診断・解釈モデル

指導医のコメント

指導医のサイン

(32) もの忘れ

分類	臨床推論を学んだ疾患
血管	<input type="checkbox"/> 脳梗塞、鉄欠乏性貧血、二次性貧血
変性	<input type="checkbox"/> 認知症、Parkinson 病
精神	<input type="checkbox"/> うつ病、双極性障害<躁うつ病>
免疫・膠原病	<input type="checkbox"/> 全身性エリトマトーデス<SLE>
腫瘍	<input type="checkbox"/> 肺癌、 <input type="checkbox"/> 食道癌、 <input type="checkbox"/> 胃癌、 <input type="checkbox"/> 大腸癌、 <input type="checkbox"/> 肝癌、 <input type="checkbox"/> 膵癌、 <input type="checkbox"/> 腎細胞癌、 <input type="checkbox"/> 膀胱癌、 <input type="checkbox"/> 前立腺癌、 <input type="checkbox"/> 子宮頸癌、 <input type="checkbox"/> 乳癌、 <input type="checkbox"/> 子宮体癌、 <input type="checkbox"/> 卵巣癌、 <input type="checkbox"/> 急性白血病、

	<input type="checkbox"/> 慢性白血病、 <input type="checkbox"/> 悪性リンパ腫、 <input type="checkbox"/> 骨髄腫
--	---

指導医のコメント

指導医のサイン

(33)頭痛

分類	臨床推論を学んだ疾患
機能的	<input type="checkbox"/> 緊張型頭痛、 <input type="checkbox"/> 片頭痛
症候性	<input type="checkbox"/> 髄膜炎、 <input type="checkbox"/> 脳炎、 <input type="checkbox"/> 脳梗塞、 <input type="checkbox"/> 脳出血、 <input type="checkbox"/> くも膜下出血、 <input type="checkbox"/> 頭蓋内出血、 <input type="checkbox"/> 緑内障、 <input type="checkbox"/> 結膜炎、 <input type="checkbox"/> 角膜炎、 <input type="checkbox"/> 急性副鼻腔炎、 <input type="checkbox"/> 慢性副鼻腔炎、 <input type="checkbox"/> 急性中耳炎、 <input type="checkbox"/> 薬物中毒

指導医のコメント

指導医のサイン

(34)運動麻痺・筋力低下

分類	臨床推論を学んだ疾患
脳性麻痺	<input type="checkbox"/> 脳性麻痺
脳血管障害	<input type="checkbox"/> 脳梗塞、 <input type="checkbox"/> 一過性脳虚血発作、 <input type="checkbox"/> 脳出血、 <input type="checkbox"/> くも膜下出血、 <input type="checkbox"/> 頭蓋内血腫
神経叢・神経根・脊髄障害	<input type="checkbox"/> 変形性脊椎症、 <input type="checkbox"/> 脊柱管狭窄症、 <input type="checkbox"/> 脊椎損傷、 <input type="checkbox"/> 椎間板ヘルニア、 <input type="checkbox"/> 肺癌、 <input type="checkbox"/> 糖尿病
筋病変	<input type="checkbox"/> 甲状腺機能亢進症、 <input type="checkbox"/> アルコール性中毒

指導医のコメント

指導医のサイン

(35)腰背部痛

分類	臨床推論を学んだ疾患
脊椎	<input type="checkbox"/> 椎間板ヘルニア、 <input type="checkbox"/> 変形性脊椎症、 <input type="checkbox"/> 脊柱管狭窄症、 <input type="checkbox"/> 骨折(脊椎圧迫骨折)、 <input type="checkbox"/> 骨粗鬆症、 <input type="checkbox"/> 骨髄腫
心血管	<input type="checkbox"/> 急性大動脈解離、 <input type="checkbox"/> 急性心筋梗塞
消化器	<input type="checkbox"/> 胆石症、 <input type="checkbox"/> 胆嚢癌
泌尿・生殖器	<input type="checkbox"/> 尿管結石、 <input type="checkbox"/> 子宮筋腫、 <input type="checkbox"/> 前立腺癌、 <input type="checkbox"/> 腎細胞癌、 <input type="checkbox"/> 膀胱癌、 <input type="checkbox"/> 卵巣癌、 <input type="checkbox"/> 子宮頸癌、 <input type="checkbox"/> 子宮体癌
呼吸器	<input type="checkbox"/> 肺癌、 <input type="checkbox"/> 自然気胸、 <input type="checkbox"/> 外傷性気胸

指導医のコメント

指導医のサイン

(36)関節痛・関節腫脹

<input type="checkbox"/> 骨折、 <input type="checkbox"/> 変形性関節症、 <input type="checkbox"/> 変形性脊椎症、 <input type="checkbox"/> 脊柱管狭窄症、 <input type="checkbox"/> 椎間板ヘルニア、 <input type="checkbox"/> 痛風、 <input type="checkbox"/> 関節リウマチ、 <input type="checkbox"/> 全身性エリテマトーデス<SLE>

指導医のコメント

指導医のサイン

(37)外傷・熱傷

分類	臨床推論を学んだ疾患
一次性	<input type="checkbox"/> 頭部外傷、 <input type="checkbox"/> 外傷性気胸、 <input type="checkbox"/> 脊髄損傷、 <input type="checkbox"/> 熱傷
二次性	<input type="checkbox"/> 急性大動脈解離、 <input type="checkbox"/> 急性心筋梗塞、 <input type="checkbox"/> 脳出血、 <input type="checkbox"/> くも膜下出血、 <input type="checkbox"/> 頭蓋内血腫、 <input type="checkbox"/> 播種性血管内凝固<DIC>、 <input type="checkbox"/> 急性腎障害、 <input type="checkbox"/> 骨折

指導医のコメント

指導医のサイン

3 基本的臨床手技

(1) 一般手技

	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1) 体位交換、移送ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 皮膚消毒ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) 外用薬の貼付・塗布ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) 気道内吸引、ネブライザーを実施できる。(S)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5) 静脈採血を実施できる。(S)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6) 末梢静脈の血管確保を実施できる。(S)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7) 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。(S)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8) 動脈血採血・動脈ラインの確保を見学し、介助する。(S)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9) 腰椎穿刺を見学し、介助する。(S)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10) 胃管の挿入と抜去ができる。(S)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11) 尿道カテーテルの挿入と抜去を実施できる。(S)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する。(S)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13) 注射(皮内、皮下、筋肉、静脈内)を実施できる。(S)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14) 全身麻酔、局所麻酔、輸血を見学し、介助する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15) 眼球に直接触れる治療	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16) 診療録を作成する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

(2) 外科手技

	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1) 清潔操作を実施できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 手術や手技のための手洗いができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) 手術室におけるガウンテクニックができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) 基本的な縫合と抜糸ができる。(S)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5) 創の消毒やガーゼ交換ができる。(S)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6) 手術、術前・術中・術後管理を見学し、介助する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

(3)検査手技

	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1)尿検査(尿沈渣を含む)を実施できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)末梢血塗抹標本を作成し、観察できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)微生物学検査(Gram(グラム)染色を含む)を実施できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)妊娠反応検査を実施できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5)血液型判定を実施できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6)視力、視野、聴力、平衡検査を実施できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7)12誘導心電図を記録できる。(S)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8)脳波検査の記録ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9)眼球に直接触れる検査を見学し、介助する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10)心臓、腹部の超音波検査を実施できる。(S)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11)経皮的酸素飽和度を測定できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12)エックス線撮影、CT、MRI、核医学検査、内視鏡検査を見学し、介助する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

4 診療科臨床実習

(1) 必ず経験すべき診療科

① 内科	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ねらい:										
1) 将来、内科医にならない場合にも必要な内科領域の診療能力について学ぶ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 内科医のイメージを獲得する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学修目標(一部方略を含む):										
1) 主訴からの診断推論を組み立てる、もしくはたどる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 疾患の病態や疫学を理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) 内科的治療の立案・実施に可能な範囲で参加する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) 複数の臓器にまたがる問題を統合する視点を獲得する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5) 基本的な内科的診察技能について学ぶ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6) どのように内科にコンサルテーションすればよいかわかる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

②外科	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ねらい:										
1) 将来、外科医にならない場合にも必要な外科領域の診療能力について学ぶ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 外科医のイメージを獲得する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学修目標(一部方略を含む):										
1) 外科的治療の適応を知る。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 手術計画の立案に可能な範囲で参加する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) 周術期管理に可能な範囲で参加する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) 手術などの外科的治療に可能な範囲で参加する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5) 基本的な外科的手技について学ぶ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6) どのように外科にコンサルテーションすればよいかわかる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

③小児科	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ねらい:										
1) 将来、小児科医にならない場合にも必要な小児科領域の診療能力について学ぶ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 小児科医のイメージを獲得する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学修目標(一部方略を含む):										
1) 主訴からの診断推論を組み立てる、もしくはたどる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2)疾患の病態や疫学を理解する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)治療の立案・実施に可能な範囲で参加する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)保護者から必要な情報を得たり対応したりすることに可能な範囲で参加する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5)小児の成長・発達の評価に可能な範囲で参加する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6)基本的な小児科診察技能について学ぶ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7)どのように小児科にコンサルテーションすればよいかわかる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

④産婦人科 ねらい:	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1)将来、産婦人科医にならない場合にも必要な産婦人科領域の診療能力について学ぶ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)産婦人科医のイメージを獲得する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学習目標(一部方略を含む):										
1)妊婦の周産期診察および分娩に可能な範囲で参加する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)女性の健康問題に関する理解を深める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)主訴からの診断推論を組み立てる、もしくはたどる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)疾患の病態や疫学を理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5)手術を含めた婦人科的治療に可能な範囲で参加する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6)基本的な婦人科診察技能について学ぶ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7)どのように産婦人科にコンサルテーションすればよいかわかる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

⑤精神科 ねらい:	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1)将来、精神科医にならない場合にも必要な精神科領域の診療能力について学ぶ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)精神科医のイメージを獲得する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学修目標(一部方略を含む):										
1)主訴からの診断推論を組み立てる、もしくはたどる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)疾患の病態や疫学を理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)精神科的治療に可能な範囲で参加する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)基本的な精神科面接技法について学ぶ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5)どのように精神科にコンサルテーションすればよいかわかる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

⑥総合診療科	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ねらい:										
1)どの科の医師になっても求められる総合診療能力について学ぶ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)総合診療医のイメージを獲得する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学習目標:										
1)病歴・身体診察を重視した診断推論(診断が見つからない場合も含めて)を組み立てる、もしくはたどる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)健康問題に対する包括的アプローチ(複数の健康問題の相互作用など)を体験する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)家族や地域といった視点を持ち、心理・社会的背景により配慮した診療に可能な範囲で参加する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)在宅医療を体験する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5)多職種連携を体験してその重要性を認識する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6)医療・保険・福祉・介護に関する制度に臨床現場の文脈で触れる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

⑦救急科	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ねらい:										
1)どの科の医師になっても求められる救急診療能力について学ぶ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)救急医のイメージを獲得する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学修目標:										
1)緊急性の高い状況かどうかをある程度判断できるようになる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)一次救命処置を実施できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)二次救命処置に可能な範囲で参加できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)救急救命治療(外傷を含む)の立案・実施に可能な範囲で参加する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5)基本的な救急診察技能を習得する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

(2)上記以外の診療科

上記以外の診療科(皮膚科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、形成外科、リハビリテーション科、歯科口腔外科など)については、それぞれの大学の状況に合わせて以下のねらい・学習目標を参考に目標定め、臨床実習を計画・実施する。

ねらい:	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1)将来、該当診療科の医師にならない場合にも必要な該当診療科領域の診療能力を習得する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)該当診療科の医師のイメージを獲得する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学修目標:										
1)主訴からの診断推論を組み立てる、もしくはたどる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)疾患の病態や疫学を理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)該当診療科の治療に可能な範囲で参加する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)該当診療科の基本的な診察技能を習得する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5)どのように該当診療科にコンサルテーションすればよいかわかる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

(3)地域医療実習

ねらい:	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護などの活動を通して地域包括ケアシステムの必要性・重要性を学ぶ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教育方略:										
1)学外の臨床研修病院などの地域病院や診療所、さらに保健所や社会福祉施設等の協力を得る。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)必要に応じて臨床教授制度などを利用する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)早期体験実習を拡充し、低学年から継続的に地域医療の現場に接する機会を設ける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)衛生学・公衆衛生学実習などと連携し、社会医学的(主に量的)な視点から地域を診る学習機会を作る。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5)人類学・社会学・心理学・哲学・教育学などと連携し、行動科学・社会科学的(主に質的)な視点から地域	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

(4)シミュレーション教育

ねらい:	自己評価					指導医評価				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
臨床現場を想定した安全な学習環境でトレーニングを積むことで、実際の臨床現場で対処できるようになる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教育方略:										
1)シミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)模擬患者に協力してもらって、臨床技能(コミュニケーションスキルも含む)や医療者に求められる態度を身につける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)シナリオを用いたトレーニングを通して、状況判断、意思決定能力を身につける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)チームトレーニングによって、チーム医療の実践能力を高める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5)振り返りによって自己省察能力を高める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指導医のコメント

指導医のサイン

臨床実習前の確認事項

賠償責任保険について

医療事故(針刺し事故、院内感染など)までカバーする保険に入っていますか？

(例:学研災付帯学生生活総合保険、医学生教育研究賠償責任保険など)

保険名称:

連絡先:

ウィルス抗体価について

	抗体価(日付)	ワクチン接種(日付)
麻疹		
風疹		
水痘		
ムンプス		
B型肝炎		

実習では医療機関に来る不特定多数の人々と接する機会があり、もし感染すると自身の健康を害するだけでなく、仲間や患者さんへ感染を拡大させる危険性がある。空気感染を起こす疾患の場合、サークル活動や講義室での同席を通じて他学年や他学部へ拡大する懸念もある。したがってこれらの感染症は予防することが大切で、ワクチン接種が第一の予防策である。

臨床実習開始までの学習履歴

ここでは、これまでに学んできた内容について、その内容をファイルします。医学部の必修カリキュラムに加えて、課外活動などについてもまとめておきます。なお、基礎医学研究室などでの研究活動の記録については、次項の「研究活動記録」に記載して下さい。

○医の原則(医の倫理と生命倫理・患者の権利・医師の義務と裁量権・インフォームド・コンセント)に関する学習内容

○医療における安全性確保(安全性の確保・医療上の自己への対処と予防・医療従事者の健康と安全)に関する学習内容

○コミュニケーションとチーム医療(コミュニケーション・患者と医師の関係・患者中心のチーム医療)に関する学習内容

○Introduction to clinical medicine などの臨床実習開始前の実習内容

○その他(基礎医学科目の成績、共用試験の成績、部活動の優秀な成績の記録、ボランティア活動記録、これまでに読んだ本のリスト、他大学や他学部で聴講した講義の記録、など)

研究活動の記録

ここには、医学部在学中の研究活動(基礎研究・臨床研究)について記録します。

研究室

指導教員

研究活動期間()年()月()日～()年()月()日

研究テーマ

研究活動の概要

成果

教員のサイン

個別の学習目標設定

-学習契約-

このシートは臨床実習の最初に、教員の先生と行うオリエンテーションで使用するものです。最初に教員の先生から該当科の学習目標について説明がありますので、それを参考にしながら、「自分自身の(独自の)学習目標」を初日に書いて、教員の先生にコピーを提出してください。この学習目標をもとに実習を進めていきます。

※教員の先生方へ:このシートは学生と協同して学習目標を設定する際にご使用ください。先生方が期待する学習目標と、学生が期待する学習目標との擦り合わせというイメージです。またこの設定のために、必ず臨床実習の最初にオリエンテーションを行って頂きますよう、お願いいたします。

診療科 科

臨床実習における学習目標(学生が教員と共に記入)

- 1.
- 2.
- 3.

シラバスに記載されている臨床実習での教育目標

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- ...

<記入例:循環器内科>

この科の臨床実習の学習目標(学生が教員と共に記入)

1. 心電図の基本的な所見を読めるようになる
2. どのような場合に循環器内科にコンサルトしたらよいかがわかるようになる
3. 心不全の急性期の管理を手伝えるようになる
4. 自分が循環器科に向いているかがわかるようになる

<記入例:精神科>

この科の臨床実習の学習目標(学生が教員と共に記入)

1. 鬱病の疑いのある患者さんが自殺しないような医療面接が出来るようになる
2. どのような場合に精神科にコンサルトしたらよいかがわかるようになる
3. 精神科病棟での患者さんの管理を体験する

臨床実習で観察して学んだこと

臨床現場には様々な社会背景を持つ患者さんに対して、たくさんの医療職が様々な業務を行っています。その様子を観察する中で、気づいたことを記録しておきます。医師と患者の関係性など、様々な視点で観察したことをフィールドノーツの形で記録しておくことは、自分自身の医療に対する視点を知ることに役立ちます。以下の問いはフィールドノーツをつける際の問いの一例ですが、これ以外にも自由に観察したことを記録していきましょう。また必要に応じて、指導医や同級生との振り返りにも使用すると学びが深まります。

診療科 _____ 科

1. 今回の臨床実習で得た診療科のイメージはどのようなものですか？
2. 今回の臨床実習で特に印象に残った診療場面を記述します
3. なぜその場面が印象に残ったのでしょうか？
4. その他、臨床現場を観察して気づいたことを自由に記述しておきましょう

〇〇科 実習日誌

	日 (月)	日 (火)	日 (水)	日 (木)	日 (金)	休日・ 当直など 日
教員サイン (出席確認)						
今日の 目標						
実習内容						
今日の 振り返り(学 べたこと・反 省点など)						

※各大学で実習内容を記入したものを学生に配布して下さい

担当入院症例病歴要約

提出 No. _____ 診療科名 _____ 病院名 _____
患者イニシャル _____ 入院日 _____ 年 月 日
患者年齢 _____ 歳, 性別 男性・女性 退院日 _____ 年 月 日
受持期間 自 _____ 年 月 日
至 _____ 年 月 日

転帰: 治癒 軽快 転科(手術 有・無) 不変 死亡(剖検 有・無)
フォローアップ: 外来で 他医へ依頼 転院

確定診断名(主病名および副病名)

- ①
- ②
- ③

【主訴】

【現病歴】

【既往歴】

【生活社会歴】

【家族歴】

【主な入院時現症】

【主要な検査所見】

プロブレムリスト

- #1.
- #2.
- #3.

【入院後経過と考察】

- #1.

#2.

#3.

【退院時処方】

【総合考察】

【本症例を通して自身が感じたこと】

記載者： 氏名 _____

担当教員： 氏名 _____

担当外来症例一覧

No.	診察日 年 月 日			
1	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			
No.	診察日 年 月 日			
2	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			
No.	診察日 年 月 日			
3	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			

No.	診察日 年 月 日			
4	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			
No.	診察日 年 月 日			
5	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			
No.	診察日 年 月 日			
6	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			

Mini-CEX(簡易版臨床能力評価)

学生番号		学生氏名	
診療科	科	外来・入院・救急・当直・往診・ その他()	
症状または疾患名			
日時	年 月 日	時間	: ~ :
症例の 複雑さ	易・普通・難 理由:	Mini-CEX の経験	今回が <u>初めて・2回目・3回目・</u> ()回目

	1	2	3	4	5	6	評価不能
1.病歴(病状の把握)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2.身体診察	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3.コミュニケーション能力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4.臨床判断	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5.プロフェッショナリズム	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6.マネジメント	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7.総合臨床能力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

医学生として望まれる能力を満たす場合に4を、それ以上の場合に5(学生としては優秀)、6(研修医と遜色ない優秀さ)を、ボーダーラインで3を、能力が明らかに劣る場合に2、1を付ける。

「評価不能」は、観察していなくてコメントできない時に付ける。

特に良かった点(観察者記入)

改善すべき点(観察者記入)

観察者と合意した学習課題(学生記入)

観察時間: _____分

フィードバックの時間: _____分

評価者サイン: _____

学生サイン: _____

【Mini-CEX 評価者の先生へ】

Mini-CEX(短縮版臨床評価法)は、学生の診察技能評価のため臨時的な設定(入院病棟、外来、当直、救急など)において、学生が患者と関わる様子を20分程度観察します。

【評価者】

原則として、教員が分担して評価して下さい。ただし指導体制上実施が困難な場合は、医員、後期研修医、大学院生も可とします。

【目的】

①学生が実習中に自分の到達度や、どのような事が不足して何を学習しなければいけないのかを定期的に把握するため行います。②各診療科が総括評価の参考とします。

【評価の基準】

1. 病歴:①初診外来の場合は現病歴で聞くべきこと(症状の部位・性状・程度・経過・状況・増悪寛解因子・随伴症状・患者の対応)を聞いている。最低限聞くべき他の項目(既往歴・アレルギー・内服薬・女性の月経と妊娠)を聞いている。状況が許せば聞くべき他の項目(生活状況・家族状況・嗜好など)を聞いている。正確で十分な情報を得ている。
2. 入院中の患者の場合ははその時点で把握しておくべき情報をしっかり聞いている。
3. 身体診察:その時点で取ることが望ましい項目をチェックしている。鑑別診断を立てるために取るべき項目をチェックしている。患者に何をするかを説明し、不快感や遠慮に配慮している。
4. コミュニケーション:患者が話しやすいように話を聞いている。視線や表情や姿勢などの非言語コミュニケーションで不快感を与えていない。患者の解釈モデルや心理社会面についても情報を引き出している。患者の理解度を確認している。
5. 臨床判断:診断的検査を適切に選択し、指示・実施している。患者にとっての利益とコスト・リスクを考慮している。可能性の高い疾患、見落としはしない疾患を考えている。
6. プロフェッショナリズム:患者に対して敬意、思いやり、共感を示し、信頼関係を形成している。患者の不快感、遠慮、守秘義務、個人情報につき注意を払っている。
7. マネジメント:適切な治療方法を選んでいる。アセスメントとプランを患者が納得いくように説明している。患者が何に注意したらいいか、次にどういう行動をとったらいいかを説明している。
8. 総合:優先順序を適切につけている。タイミングがよい。無駄が少なく迅速である。患者も評価者も納得でき、有効な判断をしている。観察者がいなくてもこの患者を一人で診察できる。

※4、6、7については、患者診察の後、学生の考えを述べてもらうことで評価しても構いません。

【評価方法】

1. 学生と患者のやりとりを直接観察してください。診察室に同席するか、カーテンの影に隠れているかは自由です。できるだけ学生と患者の両方の表情を観察してください。学生から質問されたとき、または学生が自分の判断で患者に説明したことに重大な誤りがあるときを除いて、基本的には評価者は学生の診察に口を挟みません。
2. Mini-CEXを記入して下さい。1から6まで点をつけますが、3点以下は学生が標準に達するような改善が必要であることを意味します。
3. できるだけ間を置かずに、印象が残っているうちに、診察について学生に直接フィードバックをしてください。“ダメ出し”だけではなく、良かった点も挙げてください。
4. 評価表に指導医と学生のサインを記入してください。
5. 学生に「コピーして原本を診療科のmini-CEX統括担当者に提出すること」と指示してください。

症例の担当に関する評価表

担当患者さんへの関わりについて教員の先生に評価してもらうための評価表です。各科で教員に依頼して、自分の診療活動について評価してもらって下さい。

※学生が担当した患者さんの担当医をされている教員の先生方へ：学生の患者への関わりに関して、以下の評価基準・評価方法を参考に評価ください。

場面：救急外来・入院患者・一般外来・当直・往診・その他()

科別： 日時： 年 月 日

患者 ID: 症例の複雑さ; 易 普通 難	1	2	3	4	5	6	U/C
1. カルテ記載	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 臨床診断	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 診療計画	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. プロフェッショナリズム	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 総合	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

望まれる能力のある段階を4として、ボーダーラインが3、能力が明らかにそれ以下のとき2,1、それ以上あるとき5,6をつける。U/Cはコメントできないとき

良かった点	改善すべき点
-------	--------

評価者と合意した学習課題

評価者所属 _____ 氏名 _____

学生サイン _____

多職種による学生評価(360° 評価)

「看護師長を含む看護師 2 名 + その他の医療専門職の方 1 名」の計 3 名に評価をしてもらってください。

※評価者の方へ:近年、医学生の実習が診療に参加する形になってきています。

学生の評価を皆様の視点からお願いできればと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

診療科 _____

1. 臨床実習期間中のこの学生の行動について、よかった点をあげてください。

2. 臨床実習期間中のこの学生の行動について、改善したほうがよいと感じた点をあげてください。

3. その他、気づいたことがあれば自由に記載してください。

学生氏名 _____

所属 _____ 職種 _____ 評価者氏名 _____

患者さん(含模擬患者)からの感想

担当した患者さん(もしくは模擬患者さん)に以下のフォーマットに従って感想を書いてもらいます。

※このシートを受け取った患者(もしくは模擬患者)さまへ: 学生教育にご協力いただきありがとうございます。担当させていただいた学生についてコメントを頂けますと幸いです。

診療科 _____

○臨床実習期間中のこの学生の行動について、自由に感想をお聞かせください。

学生の名前 _____

記入者 _____

ローテート終了時の振り返り

このシートは、臨床実習の最後で教員の先生とのまとめに使用するものです。最初に立てた学習目標をもとに、自身の臨床実習を振り返ります。

※教員の先生方へ:このシートは臨床実習のローテート終了時の学生評価を行う際にご使用ください。

診療科 _____ 科

個別の学習目標設定(学習契約)で記入した臨床実習における学習目標

- 1.
- 2.
- 3.

a) 今回の実習で学んだ知識・技能について書いてください

b) 医師としての姿勢について自分が気づいたことを書いてください

c) 当初立てた学修目標(上記)の達成度はどのくらいですか？

d) この臨床実習で気づいた自分自身の課題およびその克服に向けた自己学習計画を書いてみましょう

指導医のサイン _____ 月 日

学習と評価の記録 46

診療科終了時の指導医による評価

診療科終了時、教員の先生方に実習の評価をしてもらいます。

※教員の先生方へ:学習契約で学生が自ら立てた学習目標を参考に、学生の評価をお願いいたします。この学生が将来立派な医師になり、一人で患者を診察するようになることをイメージしていただき、是非建設的なご意見をお願いいたします。

診療科 _____ 科

個別の学習目標設定(学習契約)で記入した臨床実習における学習目標
(学生が記入)

- 1.
- 2.
- 3.

1. 臨床実習期間中のこの学生の行動について、上記の学習目標をもとに、よかった点をあげてください。

2. 臨床実習期間中のこの学生の行動について、上記の学習目標をもとに、改善したほうがよいと感じた点をあげてください。

3. その他、気づいたことがあれば自由に記載してください。

日時 _____

指導医のサイン _____

学習と評価の記録 47

学生による臨床実習の評価

本学の臨床実習の改善のため、実際に実習を受けた皆さんの意見を聞かせて下さい。本評価は無記名式で行われ、皆さんの学業成績に影響することはありません。ネガティブな部分については建設的な意見を書き加えることを期待します。

1. この科の臨床実習でよかった点を書いて下さい

2. この科の臨床実習で改善したほうがよいと感じる点を書いて下さい

3. この科の臨床実習で学べたことを最初に立てた学習目標を参考に書いて下さい

4. この科の臨床実習での Best Teacher を一人あげて下さい

5. 点数をつけるとしたら、この科の臨床実習は 100 点満点中何点ですか？

(点 / 100 点)

6. 最後に、臨床実習を担当してくれた先生に一言お願いします

ご協力をありがとうございました
〇〇大学医学部教務委員会

医師・歯科医師が関わる法律一覧

「多様なニーズに対応できる医師・歯科医師の養成」を達成するためには、医師・歯科医師が医学的・社会的に求められる責任だけでなく、法的な責務も知る必要がある。医師・歯科医師には、多くの義務（届出を含む）、努力義務、権限が法的に規定されているほか、医行為・歯科医行為や医療の提供には数多くの法的手続きが含まれている。医学生・歯学生にとって、その内容を詳細に知っておく必要がある法令については、モデル・コア・カリキュラムに組み込まれているものの、その他の法令についても必要に応じて参照できる能力が求められる。

更にこの一覧は、医学生・歯学生にとって医師・歯科医師が貢献を求められる場を知る一助となることから、多様なキャリアパスの形成を実践するための活用も期待される。

この一覧では、Ⅰ．医学・歯学教育に関わる法令、Ⅱ．条文に医師、歯科医師及びそれに相当する語が含まれる法律の名称を列挙する。

Ⅰ．大学教育（医学・歯学教育）について定める法令

{文部科学省}

- 1 教育基本法
- 2 学校教育法
- 3 医学及び歯学の教育のための献体に関する法律

{内閣官房}

- 4 健康・医療戦略推進法

Ⅱ．条文に医師、歯科医師、学校医、学校歯科医、産業医、矯正医官、医業を営む個人、医療職、医療に係る人材、医療を提供する者、医療従事者、医療に従事する者、医療を担当する者、医療関係者、医薬関係者、医学に関する専門的知識を有する者、医学の課程を修めて卒業した（者）の語が含まれる法律（{ }内に主管省庁部局を示した。共管の場合はそのうちの1つを示した。）

{厚生労働省}

- 1 厚生労働省設置法
- 2 独立行政法人国立病院機構法
- 3 高度専門医療に関する研究等を行う国立研究開発法人に関する法律

{厚生労働省 医政局}

- 4 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律
- 5 医師法
- 6 歯科医師法
- 7 保健師助産師看護師法
- 8 医療法
- 9 死体解剖保存法
- 10 診療放射線技師法
- 11 歯科衛生士法
- 12 歯科技工士法
- 13 臨床検査技師等に関する法律
- 14 理学療法士及び作業療法士法
- 15 柔道整復師法
- 16 視能訓練士法
- 17 外国医師等が行う臨床修練等に係る医師法第十七条等の特例等に関する法律
- 18 臨床工学技士法
- 19 義肢装具士法
- 20 救急救命士法
- 21 看護師等の人材確保の促進に関する法律
- 22 言語聴覚士法
- 23 救急医療用ヘリコプターを用いた救急医療の確保に関する特別措置法
- 24 再生医療を国民が迅速かつ安全に受けられるようにするための施策の総合的な推進に関する法律
- 25 再生医療等の安全性の確保等に関する法律
- 26 国民が受ける医療の質の向上のための医療機器の研究開発及び普及の促進に関する法律

{厚生労働省 健康局}

- 27 地域保健法
- 28 栄養士法
- 29 予防接種法

- 30 公衆衛生修学資金貸与法
- 31 原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律
- 32 臓器の移植に関する法律
- 33 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律
- 34 健康増進法
- 35 がん対策基本法
- 36 ハンセン病問題の解決の促進に関する法律
- 37 肝炎対策基本法
- 38 歯科口腔保健の推進に関する法律
- 39 特定B型肝炎ウイルス感染者給付金等の支給に関する特別措置法
- 40 移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律
- 41 難病の患者に対する医療等に関する法律
- 42 検疫法
- 43 アレルギー疾患対策基本法

{厚生労働省 医薬・生活衛生局}

- 44 大麻取締法
- 45 覚せい剤取締法
- 46 麻薬及び向精神薬取締法
- 47 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律
- 48 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
- 49 薬剤師法
- 50 特定フィブリノゲン製剤及び特定血液凝固第ⅠX因子製剤によるC型肝炎感染被害者を救済するための給付金の支給に関する特別措置法
- 51 食品衛生法

{厚生労働省 労働基準局}

- 52 労働基準法
- 53 労働保険審査官及び労働保険審査会法
- 54 過労死等防止対策推進法
- 55 労働者災害補償保険法
- 56 じん肺法
- 57 炭鉱災害による一酸化炭素中毒症に関する特別措置法
- 58 石綿による健康被害の救済に関する法律

{厚生労働省 安全衛生部}

- 59 労働安全衛生法

{厚生労働省 職業安定局}

- 60 雇用保険法
- 61 労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律

{厚生労働省 雇用開発部}

- 62 障害者の雇用の促進等に関する法律

{厚生労働省 雇用均等・児童家庭局}

- 63 児童福祉法
- 64 母体保護法
- 65 児童扶養手当法
- 66 母子保健法
- 67 児童虐待の防止等に関する法律

{厚生労働省 社会・援護局}

- 68 生活保護法
- 69 戦傷病者戦没者遺族等援護法
- 70 日本赤十字社法
- 71 戦傷病者特別援護法
- 72 社会福祉士及び介護福祉士法

{厚生労働省 障害保健福祉部}

- 73 身体障害者福祉法
- 74 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律

- 75 知的障害者福祉法
- 76 特別児童扶養手当等の支給に関する法律
- 77 精神保健福祉士法
- 78 身体障害者補助犬法
- 79 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律
- 80 性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律
- 81 発達障害者支援法
- 82 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律
- 83 障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律

{厚生労働省 老健局}

- 84 地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律
- 85 介護保険法
- 86 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律

{厚生労働省 保険局}

- 87 健康保険法
- 88 船員保険法
- 89 社会保険診療報酬支払基金法
- 90 社会保険医療協議会法
- 91 国民健康保険法
- 92 国民健康保険法施行法
- 93 高齢者の医療の確保に関する法律

{厚生労働省 年金局}

- 94 厚生年金保険法
- 95 国民年金法
- 96 確定給付企業年金法
- 97 確定拠出年金法
- 98 特定障害者に対する特別障害給付金の支給に関する法律
- 99 社会保障協定の実施に伴う厚生年金保険法等の特例等に関する法律

{厚生労働省：社会保障}

- 100 社会保障制度改革推進法
- 101 持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律

{内閣官房}

- 102 国家公務員法
- 103 国家公務員災害補償法
- 104 国家公務員倫理法
- 105 国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律 抄
- 106 新型インフルエンザ等対策特別措置法

{内閣府}

- 107 災害救助法
- 108 沖縄の復帰に伴う特別措置に関する法律
- 109 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律
- 110 沖縄振興特別措置法
- 111 自殺対策基本法
- 112 アルコール健康障害対策基本法
- 113 国家戦略特別区域法

{国家公安委員会}

- 114 オウム真理教犯罪被害者等を救済するための給付金の支給に関する法律
- 115 国外犯罪被害弔慰金等の支給に関する法律

{警察庁}

- 116 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律
- 117 銃砲刀剣類所持等取締法
- 118 道路交通法
- 119 酒に酔って公衆に迷惑をかける行為の防止等に関する法律
- 120 警備業法

- 121 犯罪被害者等給付金の支給等による犯罪被害者等の支援に関する法律
- 122 警察等が取り扱う死体の死因又は身元の調査等に関する法律

{復興庁}

- 123 東京電力原子力事故により被災した子どもをはじめとする住民等の生活を守り支えるための被災者の生活支援等に関する施策の推進に関する法律

{総務省}

- 124 国会職員法
- 125 議院における証人の宣誓及び証言等に関する法律
- 126 郵便法
- 127 一般職の職員の給与に関する法律
- 128 地方税法
- 129 地方公務員等共済組合法
- 130 地方公務員災害補償法
- 131 過疎地域自立促進特別措置法
- 132 民間事業者による信書の送達に関する法律
- 133 武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律
- 134 武力攻撃事態及び存立危機事態における捕虜等の取扱いに関する法律

{消防庁}

- 135 消防法

{法務省}

- 136 民法
- 137 刑法
- 138 戸籍法
- 139 刑事訴訟法
- 140 婦人補導院法
- 141 矯正医官修学資金貸与法
- 142 国際捜査共助等に関する法律
- 143 民事訴訟法
- 144 犯罪捜査のための通信傍受に関する法律
- 145 刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律
- 146 家事事件手続法
- 147 国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約の実施に関する法律
- 148 少年院法
- 149 少年鑑別所法
- 150 矯正医官の兼業の特例等に関する法律

{財務省}

- 151 租税特別措置法
- 152 国家公務員共済組合法
- 153 保険業法

{国税庁}

- 154 所得税法

{文部科学省}

- 155 教育公務員特例法
- 156 私立学校教職員共済法
- 157 公立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する法律
- 158 学校保健安全法
- 159 公認心理師法

{農林水産省}

- 160 農業協同組合法
- 161 独立行政法人農業者年金基金法
- 162 遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律

{特許庁}

- 163 特許法

{国土交通省}

- 164 船員法
- 165 航空法
- 166 離島振興法
- 167 奄美群島振興開発特別措置法
- 168 小笠原諸島振興開発特別措置法

{環境省}

- 169 公害健康被害の補償等に関する法律
- 170 水俣病の認定業務の促進に関する臨時措置法

{原子力規制委員会}

- 171 放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律

{防衛省}

- 172 防衛省の職員の給与等に関する法律
- 173 防衛省設置法
- 174 自衛隊法
- 175 自衛隊員倫理法

医療・福祉系職種の概要と国家試験科目

「多様なニーズに対応できる医師・歯科医師の養成」には、チーム医療、地域包括ケアなどに対応した実践的臨床能力の涵養が重要である。当然のことながら、医師・歯科医師だけでは医療の実践は不可能であるが、多職種間での十分かつ適切な連携がこれまで以上に社会から求められているのが現状である。適切な多職種連携の実践のためには、医学生・歯学生は関連職種の教育内容の概要を知る必要があるだろう。そのため、医療・福祉に関連する職種とその概要をまとめた。

本資料では、以下の職種の根拠法、法令上の定義および国家試験出題基準の領域と大項目を列挙する。このうち養成にあたり指定規則が定められている職種もあるが、同規則は国家試験出題基準に事実上内容が含まれることから、同出題基準を示すこととした。

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、言語聴覚士、臨床工学技士、義肢装具士、救急救命士、歯科衛生士、歯科技工士、あん摩マッサージ・指圧師、はり師、きゅう師、柔道整復師、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、管理栄養士

医師

根拠法

○ 医師法（昭和二十三年七月三十日法律第二百一号）

定義（第一条）

○ 医療及び保健指導を掌ることによつて公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するもの

試験科目（領域/大項目）

○ 必修の基本的事項

医師のプロフェッショナルリズム、社会と医療、診療情報と諸証明書、医療の質と安全の確保、人体の構造と機能、医療面談、主要症候、一般的な身体診察、検査の基本、臨床判断の基本、救急初期診療、主要疾患・症候群、治療の基本、基本的な手技、死・緩和ケア・終末期ケア、チーム医療、生活習慣病とリスク、一般教養的事項

○ 医学総論

I 保健医療論

健康・疾病・障害の概念と社会環境、社会保障制度と医療経済、保健・医療・福祉・介護の仕組み、保健・医療・福祉・介護の資源、保健・医療・福祉・介護関係法規、地域保健、地域医療、国際保健

II 予防と健康管理・増進

予防医学と健康保持増進、人口統計と保健統計、疫学とその応用、母子保健、成人保健、高齢者保健、精神保健福祉、国民栄養と食品保健、学校保健、産業保健、環境保健

III 人体の正常構造と機能

個体の構造、皮膚、頭頸部、感覚器、発声器、呼吸器、胸郭、胸壁、心臓、脈管、消化器、腹壁、腹膜、血液、造血器、腎、泌尿器、生殖器、心理、精神、神経、運動器、内分泌、代謝、栄養、免疫

IV 生殖・発生・成長・発達・加齢

妊娠、分娩、産褥、胎児、新生児、小児期、思春期、青年期、加齢、老化

V 病因、病態生理

疾病と影響因子、先天異常、損傷、炎症、感染、アレルギー、免疫異常、腫瘍、循環障害、臓器不全、内分泌・代謝・栄養の異常、中毒、放射線障害、医原病、死

VI 症候

全身症候、皮膚、外表、頭頸部、感覚器、呼吸器、心臓、血管、消化器、血液、造血器、免疫、腎、泌尿器、生殖器、心理、精神機能、神経、運動器、内分泌、代謝、栄養

VII 診察

二次・三次救急の診察、高齢者の診察と評価、小児の診察、胎児・新生児の診察と評価、妊・

産・褥婦と胎児の診察

VIII 検査

検体検査、生体機能検査、皮膚・感覚器・発声機能検査、心理・精神機能検査、妊娠・分娩・胎児・新生児の検査、画像検査、内視鏡検査

IX 治療

食事・栄養療法、薬物療法、輸液、輸血、血液浄化、手術、周術期の管理、麻酔、臓器・組織・細胞移植、人工臓器、再生医療、放射線治療、インターベンショナルラジオロジー (IVR)、内視鏡治療、リハビリテーション、二次・三次救急の治療、緩和ケア、その他の治療法

○ 医学各論

I 先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常

妊娠の異常、分娩・産褥の異常、胎児・新生児の異常、性分化・染色体異常、先天異常および成長・発達の障害

II 精神・心身医学的疾患

症状性を含む器質性精神障害、精神作用物質使用による精神および行動障害、気分障害、統合失調症と類縁疾患、神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、生理的障害、身体的要因に関連した障害、小児・青年期の精神・心身医学的疾患、成人の人格・行動障害

III 皮膚・頭頸部疾患

炎症性皮膚疾患、腫瘍・母斑性皮膚疾患、その他の皮膚疾患、視機能異常、視神経疾患、眼窩・外眼部・前眼部・眼球の疾患、ぶどう膜・網膜・硝子体疾患、外耳・中耳疾患、内耳・神経疾患、咽頭・口腔・唾液腺疾患、損傷、奇形

IV 呼吸器・胸壁・縦隔疾患

感染性呼吸器疾患、気管・気管支・肺の形態・機能異常、外傷、免疫学的機序が考えられる肺疾患、実質性・間質性肺障害、肺循環異常、気管支・肺・胸膜・縦隔の腫瘍、胸膜・縦隔・横隔膜・胸郭の形態・機能異常と外傷、呼吸調節異常

V 心臓・脈管疾患

不整脈、心不全、先天性心疾患、弁膜症、虚血性心疾患、心筋・心膜疾患、心臓腫瘍、外傷、血圧異常、脈管疾患

VI 消化器・腹膜・腹膜疾患

食道疾患、胃・十二指腸疾患、小腸・結腸疾患、直腸・肛門疾患、消化管共通疾患、肝疾患、胆疾患、膵疾患、横隔膜・腹膜・腹壁疾患、急性腹症、損傷、異物、その他の重要な小児領域の疾患

VII 血液・造血器疾患

赤血球系疾患、白血球系疾患とその他の骨髄性疾患、リンパ系疾患、出血性疾患と血栓傾向、その他の重要な小児領域の疾患

VIII 腎・泌尿器・生殖器

糸球体病変、血管・尿細管・間質病変、腎機能の障害による異常、腎・尿路結石と尿路閉塞性疾患、腎・尿路・生殖器の炎症、腎・尿路・男性生殖器の腫瘍、女性生殖器の類腫瘍・腫瘍、月経異常、不妊、不育、更年期・閉経後障害、その他の尿路・生殖器異常

IX 神経・運動器疾患

脳血管障害、脳腫瘍、神経・運動器の感染性・炎症性疾患、神経変性・代謝性・脱髄疾患、中毒、末梢神経・神経筋接合部・筋疾患、発作性・機能性・自律神経系疾患、脊髄・脊髄疾患、骨・関節系統疾患、上肢・下肢の運動器疾患、非感染性骨・関節・四肢軟部疾患、骨・軟部腫瘍と類似疾患、神経・運動器の外傷、脳・脊髄の奇形、神経皮膚症候群、その他、その他の重要な小児領域の疾患

X 内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患

間脳・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺（上皮小体）疾患とカルシウム・リン代謝異常、副腎皮質・髄質疾患、その他の内分泌疾患、糖（質）代謝異常、脂質代謝異常、タンパク・アミノ酸代謝異常、その他の代謝異常、その他の重要な小児領域の疾患、乳腺・乳房疾患

XI アレルギー性疾患・膠原病、免疫病

アレルギー性疾患、膠原病と類縁疾患、原発性免疫不全症、続発性免疫不全症、その他の重要な小児領域の疾患

XII 感染性疾患

ウイルス、クラミジア、マイコプラズマ、リケッチア、細菌（抗酸菌（マイコバクテリア）

を除く)、抗酸菌(マイコバクテリア)、真菌、寄生虫、その他の病原体

XII 生活環境因子・職業性因子による疾患

食中毒、病害動物による疾患、アルコールによる障害、薬物依存・中毒、喫煙による障害、産業中毒とその他の職業性疾患、物理的原因・生活環境因子による障害

出典：厚生労働省 医師国家試験出題基準 (H30)

歯科医師

根拠法

○ 歯科医師法 (昭和二十三年七月三十日法律第二百二号)

定義(第一条)

○ 歯科医療及び保健指導を掌ることによつて、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するもの

試験科目(領域/大項目)

○ 必修の基本的事項

医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム、社会と歯科医療、予防と健康管理・増進、歯科医療の質と安全の確保、診療記録と診療情報、人体の正常構造・機能、人体の発生・成長・発達・加齢、医療面談、主要な症候、診察の基本、検査の基本、臨床判断の基本、初期救急、主要な疾患と障害の病因・病態、治療の基礎・基本手技、チーム歯科医療、一般教養的事項

○ 歯科医学総論

総論Ⅰ 保健医療論

健康・疾病・障害の概念、保健・医療・福祉・介護関係法規、保健・医療・福祉・介護の仕組みと資源、地域保健、地域医療、歯科法医学、社会保障と医療経済、国際保健

総論Ⅱ 健康管理・増進と予防

健康の保持・増進と予防、母子保健、母子歯科保健、学校保健、学校安全、学校歯科保健、産業保健、産業歯科保健、成人保健、成人歯科保健、高齢者保健、精神保健福祉、障害者保健福祉、人口統計と保健統計、疫学とその応用、感染症対策、国民栄養と食品保健、環境保健

総論Ⅲ 人体の正常構造と機能

細胞、組織、器官系、免疫

総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能

頭頸部の構造、口腔・顎・顔面の構造、口腔・顎・顔面・頭頸部の機能、歯・歯周組織の構造と機能、口腔の生態系

総論Ⅴ 発生、成長、発達、加齢

人体の発生・成長・発達・加齢、機能の発達、歯・口腔・顎・顔面の発生、歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の成長発育、口腔・顎の機能の発達、加齢・老化による歯・口腔・顎・顔面の変化

総論Ⅵ 病因、病態

病因論、細胞組織の障害、修復と再生、循環障害、炎症、感染症、アレルギー、免疫疾患、腫瘍、疼痛、中毒、放射線障害、医原病、歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患の病因・病態、歯の喪失に伴う口腔・顎・顔面の変化、個体の死

総論Ⅶ 主要症候

全身的症候、歯・口腔・顎・顔面の症候

総論Ⅷ 診察

診察総論、小児への対応、障害者への対応、妊婦・授乳婦への対応、高齢者への対応、全身疾患を有する者への対応

総論Ⅸ 検査

口腔内検査・口腔機能検査、画像検査、検体検査、生体機能検査、その他の検査

総論Ⅹ 治療

治療計画、治療の基礎、救急医療、手術・周術期の管理、手術基本手技、麻酔、緩和医療、リハビリテーション、放射線治療、薬物療法、その他の治療法

総論Ⅺ 歯科材料と歯科医療機器

生体材料の科学、診療用機器、切削、研削、研磨、印象用材料、模型用材料、歯科用ワック

ス、予防填塞・成形修復・歯内療法用材料、歯冠修復用材料、義歯用材料、レジンの成形技術・機器、セラミックの成形技術・機器、金属の成形技術・機器、合着・接着・仮着用材料、歯科矯正用材料、歯周治療、口腔外科・インプラント用材料

○ 歯科医学各論

各論Ⅰ 歯科疾病の予防・管理

齲蝕の予防・管理、歯周病の予防・管理、不正咬合の予防・管理、口臭の予防・管理、その他の疾患の予防・管理、保健指導、食育と食の支援

各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態

歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天異常、顎口腔領域の発育異常、歯の異常、歯・口腔・顎疾患、歯の外傷、歯列・咬合異常の予防、不正咬合の病因・病態、不正咬合の診断、矯正力と固定、矯正装置、不正咬合の治療

各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患

小児の歯の硬組織疾患、成人の歯の硬組織疾患、歯の硬組織疾患の治療、小児の歯髄・根尖性歯周組織疾患、成人の歯髄・根尖性歯周組織疾患、歯髄・根尖性歯周組織疾患の治療、小児の歯周病、成人の歯周病、歯周病の治療

各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患

先天異常と変形を主徴とする疾患、軟組織の損傷、軟組織の炎症、軟組織に発生する嚢胞、軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患、口腔粘膜疾患、顎顔面の変形を来す疾患・病態、歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷、歯槽骨・顎骨の炎症、顎骨に発生する嚢胞性疾患、顎骨に発生する嚢胞性疾患、顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患、唾液腺疾患、神経疾患、顎関節疾患、口腔・顎顔面に異常を来す骨系統疾患・症候群、口腔症状を呈する疾患、全身管理に留意すべき全身疾患・状態、歯科における全身性偶発症、歯科治療時の患者管理

各論Ⅴ 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害

病態、診察・検査・診断・前処理、補綴装置の要件、クラウンブリッジによる治療、部分床義歯による治療、全部床義歯による治療、オーバーデンチャー、インプラント義歯による治療、特殊な装置による治療、管理

各論Ⅵ 高齢者の歯科診療

歯の硬組織疾患、歯髄・根尖性歯周組織疾患、歯周病、軟組織の損傷、軟組織の炎症、軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患、口腔粘膜疾患、顎骨の損傷、顎骨の炎症、神経疾患、唾液腺疾患、顎関節疾患、管理に留意すべき全身疾患、訪問歯科診療、摂食・嚥下機能、摂食・嚥下障害、高齢者の栄養管理、補綴歯科治療

出典：厚生労働省 歯科医師国家試験出題基準（H26）

薬剤師

根拠法

○ 薬剤師法（昭和三十五年八月十日法律第百四十六号）

定義(第一条)

○ 調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによつて、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するもの

試験科目（領域/大項目）

○ 物理・化学・生物

物質の物理的性質、化学物質の分析、生体分子の構造、化学物資の性質と反応、ターゲット分子の合成、生体分子・医薬品の化学、天然物由来薬物、医薬品の開発と生産、生命体の成り立ち、分子レベルの生命理解、感染症と生体防御

○ 衛生

健康、環境

○ 薬理

薬物の効き方

○ 薬剤

薬物の体内動態、製剤

○ 病態・薬物治療

薬物治療、薬物治療に役立つ情報

○ 法規・制度・倫理

薬学と社会、医薬品の開発と生産、ヒューマニズム

- 実務
薬剤師業務、病院業務、薬局業務

出典：厚生労働省 薬剤師国家試験出題基準 (H22)

看護師

根拠法

- 保健師助産師看護師法 (昭和二十三年七月三十日法律第二百三号)

定義(第五条)

- 厚生労働大臣の免許を受けて、傷病者若しくははじよく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者

試験科目(領域/大項目)

- 必修問題

健康に関する指標、健康と生活、保健医療制度の基本、関係法規、人間の特性、人間の成長と発達、患者と家族、主な看護活動展開の場と看護の機能、生命活動、病態と看護、薬物治療に伴う反応、基本技術、日常生活援助技術、患者の安全・安楽を守る技術、診療に伴う看護技術

- 人体の構造と機能

細胞・組織、生体リズムと恒常性(ホメオスタシス)、運動系、神経系、感覚器系、循環系、血液、体液、生体の防御機構、呼吸器系、消化器系、代謝、泌尿器系、体温調節、内分泌系、生殖と老化

- 疾病の成り立ちと回復の促進

疾病の成立と疾病からの回復、基本的な病変、疾病に対する医療、神経機能の障害、呼吸機能の障害、循環機能の障害、造血機能の障害、免疫機能の障害、栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害、排泄機能の障害、内部環境調節機能の障害、運動機能の障害、生殖機能の障害

- 健康支援と社会保障制度

生活基盤、ライフスタイル、人間の集団としての働き、社会保障の理念、社会保険制度、社会福祉に関する法律の理念と施策、社会福祉行政、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全、保健活動、医療機関と医療従事者の職務の機能と役割

- 基礎看護学

看護の基本となる概念、看護の展開、共通基本技術、基本的日常生活援助技術、診療に伴う技術、看護の役割と機能を支える仕組み

- 成人看護学

成人の特徴と生活、成人における健康の保持・増進・疾病の予防、急性・重症看護、慢性疾患看護、リハビリテーション看護、がん看護、終末期看護、呼吸機能障害のある患者の看護、循環機能障害のある患者の看護、消化・吸収機能障害のある患者への看護、栄養代謝機能障害のある患者の看護、内部環境(体温、血糖、体液量、電解質、酸塩基平衡)調節機能障害のある患者の看護、内分泌機能障害のある患者の看護、身体防御機能の障害のある患者の看護、感覚機能障害のある患者の看護、脳・神経機能障害のある患者の看護、運動機能障害のある患者の看護、排泄機能障害のある患者の看護、性・生殖機能障害のある患者の看護

- 老年看護学

老年期の理解、高齢者の健康、高齢者と家族、老年看護の特徴、高齢者の生活を支える看護、高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護、治療を受ける高齢者への看護、高齢者の終末期の看護、高齢者を介護する家族への看護、介護保険・医療保険と老年看護

- 小児看護学

小児と家族を取り巻く環境・医療・看護、小児の成長と発達、新生児の健康増進のための看護、乳児の健康増進のための看護、幼児の健康増進のための看護、学童の健康増進のための看護、思春期の小児の健康増進のための看護、病気や入院が小児と家族に与える影響とその看護、健康障害の病期別の小児と家族の看護、さまざまな状況にある小児と家族への看護、小児期特有の症状や疾患を持つ小児と家族への看護

- 母性看護学

母性看護の概念、人間の性と生殖、女性のライフサイクル各期における看護、周産期にある人と家族の看護、周産期の異常と看護

- 精神看護学
精神保健、精神看護の基盤となる援助、生物学的側面に注目した援助、心理学的側面に注目した援助、社会的側面に注目した援助、安全な治療環境の提供、精神保健医療福祉の歴史と法制度、精神保健医療福祉におけるチーム
- 在宅看護論
在宅看護が必要とされる背景と根拠、在宅看護の対象と生活、在宅看護の目的、在宅看護の役割と機能、訪問看護の概要、生活を支える在宅看護技術、在宅療養者の状態・状況にあわせた看護、在宅における医療管理を必要とする人と看護
- 看護の統合と実践
看護におけるマネジメント、災害と看護、国際化と看護
出典：厚生労働省 看護師国家試験出題基準 (H26)

保健師

根拠法

- 保健師助産師看護師法（昭和二十三年七月三十日法律第二百三号）
定義(第二条)
- 厚生労働大臣の免許を受けて、保健師の名称を用いて、保健指導に従事することを業とする者

試験科目（領域/大項目）

- 公衆衛生看護学概論
公衆衛生看護学の成立基盤、公衆衛生看護学の対象と方法、社会環境の変化と健康課題
- 公衆衛生看護方法論Ⅰ（個人・家族・グループ支援方法論）
公衆衛生看護の対象となる人々、保健行動と保健指導、健康相談、家庭訪問、ケアマネジメント、健康診査、検診、健康教育、グループ支援
- 公衆衛生看護方法論Ⅱ（組織・集団・地域支援方法論）
地区活動、地域診断、活動の計画・実践・評価、計画策定・施策化と予算、地域組織活動、地域ケアシステムづくり
- 対象別公衆衛生看護活動論
母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、精神保健活動、障害者（児）保健活動、難病の保健活動、感染症の保健活動、歯科保健活動
- 学校保健・産業保健
学校保健、産業保健
- 健康危機管理
健康危機管理対策、感染症集団発生時の保健活動、災害と保健活動
- 公衆衛生看護管理論
公衆衛生看護管理の構成要素、専門的自律と人材育成
- 疫学
疫学概念、疾病頻度の指標、曝露効果の指標、疫学調査法、スクリーニング、疾病登録、主な疾患の疫学、疫学と公衆衛生看護
- 保健統計
統計学の基礎、人口統計、保健統計調査、情報処理
- 保健医療福祉行政論
保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み、社会情勢の変化と保健医療福祉行政の考え方の変遷、保健医療福祉行政の分野と制度、保健医療福祉の計画と評価
出典：厚生労働省 保健師国家試験出題基準 (H26)

助産師

根拠法

- 保健師助産師看護師法（昭和二十三年七月三十日法律第二百三号）
定義(第三条)
 - 厚生労働大臣の免許を受けて、助産又は妊婦、じよく婦若しくは新生児の保健指導を行うことを業とする女子
- 試験科目（領域/大項目）

- 基礎助産学Ⅰ
助産の概念、性・生殖と人権と倫理、助産・助産師の変遷、助産師教育、女性のライフサイクル各期における健康課題、性と性行動、母子の健康に影響を及ぼす因子、性と生殖の構造・機能・発生、性と生殖に関連する薬物、先天異常、ライフサイクル各期に起こる主な疾患、生殖期の感染症、不妊症
- 基礎助産学Ⅱ
妊娠の成立・維持、胎児、胎児付属物、妊娠による母体の変化、妊娠中の栄養、妊娠期の心理・社会的変化、分娩の基礎、正常分娩、分娩が母体および胎児に与える影響、分娩期の心理社会的変化、産褥の経過、産褥期の心理社会的変化、新生児の身体・生理的特徴、新生児の行動学的特徴、乳幼児の正常経過、妊娠期の異常、分娩期の異常、産褥期の異常、新生児の異常、低出生体重児・早産児、乳幼児に起こりやすい疾患、母体、胎児の健康診査に必要な検査についての基礎知識
- 助産診断・技術学Ⅰ
相談・教育・援助・活動の概念、保健指導の技術個人、保健指導の技術集団、女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康問題と援助、家族計画
- 助産診断・技術学Ⅱ
基礎助産技術、妊娠期の診断、正常経過にある妊婦への援助、正常な妊娠経過からの逸脱およびハイリスク状態にある妊婦のアセスメントと援助、分娩期の診断、正常経過にある妊婦への援助、正常分娩の介助、正常な分娩経過からの逸脱およびハイリスク状態にある産婦のアセスメントと援助、異常分娩、産褥期の診断、正常経過にある産婦と家族への援助、正常な産褥経過からの逸脱およびハイリスク状態にある産婦のアセスメントと援助、合併症を持つ妊産婦のアセスメントとケア、新生児の診断、正常新生児への援助、正常な新生児経過からの逸脱およびハイリスク状態にある新生児のアセスメントとケア、乳幼児の健康審査、正常経過にある乳幼児への援助、ハイリスク乳幼児への援助
- 地域母子保健
地域母子保健の基本、母子保健の現状と動向、母子保健行政、地域母子保健活動の実際
- 助産管理
助産業務管理の基本、助産師及び助産業務に関連する法規と責任、病院・診察所の管理・運営、助産所の管理・運営、助産業務と医療事故（安全）
出典：厚生労働省 助産師国家試験出題基準（H26）

診療放射線技師

規定法

- 診療放射線技師法（昭和二十六年六月十一日法律第二百二十六号）

定義（第二条）

- 厚生労働大臣の免許を受けて、医師又は歯科医師の指示の下に、放射線を人体に対して照射（撮影を含み、照射機器又は放射性同位元素（その化合物及び放射性同位元素又はその化合物の含有物を含む。）を人体内にそう入して行なうものを除く。以下同じ。）することを業とする者

試験科目（領域/大項目）

専門基礎分野

- **I. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち**
構造と機能
人体の構造と機能の基礎、細胞と組織、生体の防御機構と免疫（免疫）、運動器、呼吸器、胸郭、胸壁、胸膜、乳房、心臓、脈管、消化器、腹壁、腹膜、血液・造血器、泌尿器、生殖器、脳、神経、内分泌、代謝、栄養、皮膚、感覚器、成長、発達、加齢
臨床医学の基礎
病態の基礎、疾病と傷害の基礎、造影検査に関わる構造と機能、治療
社会医学
健康と公衆衛生、感染症とその予防、生活習慣病、疾病予防、保健、医療安全対策
- **II. 保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術**
放射線生物学
放射線の細胞に対する作用、放射線の人体への影響、放射線の生物学的効果と放射線治療

放射線物理学

放射線の基礎事項、原子物理、原子核物理、物質との相互作用、医用物理

医用工学

電磁気学の基礎、電気工学の基礎、電子工学の基礎

放射化学

元素、放射性核種の製造、放射化学分離と純度検定、放射性標識化合物、放射性核種の化学的利用

放射線計測学

放射線計測の基礎、放射線計測の理論、放射線の計測装置、放射線測定技術

専門分野

- I 章 診療画像技術学
診療放射線技師の役割と義務、診療画像機器、X線撮影技術、画像解剖（I）、画像解剖（II）
- II 章 核医学検査技術学
診療放射線技師の役割と義務、放射線医薬品、核医学測定装置、核医学検査技術、核医学データ解析、臨床核医学検査
- III 章 放射線治療技術学
診療放射線技師の役割と義務、癌治療総論、放射線治療機器、吸収線量の評価、照射術式、放射線治療
- IV 章 医用画像情報学
医用画像情報総論、画像、医療情報
- V 章 放射線安全管理学
関連法規、放射線防護の基本概念、施設・環境測定と個人の放射線被ばく管理、放射線取扱い施設の管理、放射線管理の方法と事故対応
- VI 章 医療安全管理学
医療におけるリスクマネジメント、医療における健康被害、救急医療（合併症治療を含む）
出典：厚生労働省 診療放射線技師国家試験出題基準（H32）

臨床検査技師

規定法

- 臨床検査技師等に関する法律（昭和三十三年四月二十三日法律第七十六号）

定義（第二条）

- 厚生労働大臣の免許を受けて、臨床検査技師の名称を用いて、医師又は歯科医師の指示の下に、微生物学的検査、血清学的検査、血液学的検査、病理学的検査、寄生虫学的検査、生化学的検査及び厚生労働省令で定める生理学的検査を行うことを業とする者

試験科目（領域/大項目）

- I 章 臨床検査総論
検査総合管理学
臨床検査の意義、検査管理の概念、検査部門の組織と業務、検査部門の管理と運営、検体の採取と保存、検査の受付と報告、検査の精度保証（精度管理）
生物化学分析検査学
尿検査、脳脊髄液検査、糞便検査、喀痰検査、その他の一般検査
形態検査学
寄生虫学、寄生虫検査法
病因・生体防御検査学
遺伝子の基礎、遺伝子検査法、染色体の基礎、染色体検査法
- II 章 臨床検査医学総論
臨床病態学
医学概論、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、肝・胆・膵疾患、感染症、血液・造血器疾患、内分泌疾患、腎・尿路・男性生殖器疾患、女性生殖器疾患、神経・運動器疾患、アレルギー性疾患・膠原病・免疫不全、代謝・栄養障害、感覚器疾患、中毒、染色体・遺伝子異常症、皮膚疾患、乳腺疾患、検査診断学総論、検査情報の活用、循環器疾患の検査、呼吸器疾患の検査、消化管疾患の検査、肝・胆・膵疾患の検査、感染症の検査、血液・造血器疾患の検査、内分泌疾患の検査、腎・尿路疾患の検査、体液・電解質・酸-塩基平衡の検査、神

経・運動器疾患の検査、アレルギー性疾患・膠原病・免疫病の検査、代謝・栄養以上の検査、感覚器疾患の検査、有毒物中毒の検査、染色体・遺伝子異常症の検査、悪性腫瘍の検査

○ III章 臨床生理学

人体の構造と機能、生理機能検査学

臨床生理検査の特色、循環系検査の基礎、心電図検査、心音図検査、脈管疾患検査、呼吸器系検査の基礎、呼吸機能検査、神経系検査の基礎、脳波検査、筋電図検査、超音波検査の基礎、心臓超音波、血管超音波、腹部超音波、骨盤腔超音波、体表超音波検査、磁気共鳴画像検査 (MRI)、その他の臨床生理検査

人体の構造と機能、生物化学分析検査学

生命のメカニズム、生物化学分析の原理と方法、無機質、糖質、脂質、蛋白質、非蛋白性窒素、生体色素、酵素、薬物・毒物、骨代謝、ホルモン、ビタミン、疾患マーカー、その他の検査

人体の構造と機能、医学検査の基礎と疾病との関連

解剖学総論、病理学総論、解剖学・病理学各論

形態検査学

病理組織標本作製法、病理組織染色法、電子顕微鏡標本作製法、細胞学的検査法、病理解剖、病理業務の管理

○ VI章 臨床血液学

形態検査学、病因・生体防御検査学、人体の構造と機能

血液の基礎、血球、止血機構、凝固・線溶系、血球に関する検査、形態に関する検査、血小板、凝固・線溶系検査、赤血球系疾患の検査結果の評価、白血球系疾患の検査結果の評価、造血器腫瘍系の検査結果の評価、血栓止血検査結果の評価

○ VII章 臨床微生物学

医学検査の基礎と疾病との関連

分類、形態、構造及び性状、染色法、発育と培養、遺伝と変異、滅菌と消毒、化学療法、感染と発症、感染の予防と対策、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

病因・生体防御検査学

細菌、真菌、ウイルス、検査法、微生物検査結果の評価

○ VII章 臨床免疫学

病因・生体防御検査学

生体防御の仕組み、抗原抗体反応による分析法、免疫と疾患の関わり、免疫検査の基礎知識と技術、免疫機能検査、輸血の基礎知識、輸血管理、移植免疫と検査、母児不適合妊娠

○ IX章 公衆衛生学

保健医療福祉と医学検査

医学概論、公衆衛生の意義、人口統計と健康水準、疫学、環境と健康、健康の保持増進、衛生行政、国際保健、憲法および関係法規

○ X章 医用工学概論

医療工学及び情報科学

臨床検査と生体物性、電気・電子工学の基礎、医用電子回路、生体情報の収集、電気的安全対策、情報科学の基礎、ハードウェア、ソフトウェア、コンピュータネットワーク、情報処理システム、医療情報システム

検査総合管理学

検査機器学総説、共通機械器具の原理・構造

出典：厚生労働省 臨床検査技師国家試験出題基準 (H27)

理学療法士

根拠法

- 理学療法士及び作業療法士法 (昭和四十年六月二十九日法律第百三十七号)

定義(第二条3)

- 厚生労働大臣の免許を受けて、理学療法士の名称を用いて、医師の指示の下に、理学療法を行なうことを業とする者

試験科目 (領域/大項目)

専門基礎分野

- I 人体の構造と機能及び心身の発達
解剖学、生理学、運動学、人間発達学
 - II 疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進
医学概論、臨床医学総論、リハビリテーション医学、臨床心理学、精神障害と臨床医学、骨関節障害と臨床医学、慢性疼痛と臨床医学、中枢神経の障害と臨床医学、末梢神経・筋の障害と臨床医学、小児の障害と臨床医学、内部障害と臨床医学、がん関連障害と臨床医学、老年期障害と臨床医学
 - III 保健医療福祉とリハビリテーションの理念
保健医療福祉、リハビリテーション概論
- 専門分野（理学療法）
- I 基礎理学療法学
理学療法の基本、理学療法の範囲、理学療法の基礎
 - II 理学療法評価学
目的、時期と手順、心身機能、身体構造、活動、参加、背景因子等、義肢、装具等、疾患、障害、保健、予防
 - III 理学療法治療学
基礎、基本介入手段、心身機能、身体構造、活動、参加、背景因子、疾患、障害、保健、予防
 - IV 地域理学療法学
基礎、評価と支援
 - V 臨床実習
実習前準備、実習実施内容

出典：厚生労働省 理学療法士国家試験出題基準（H28）

作業療法士

根拠法

- 理学療法士及び作業療法士法（昭和四十年六月二十九日法律第百三十七号）

定義（第二条4）

- 厚生労働大臣の免許を受けて、作業療法士の名称を用いて、医師の指示の下に、作業療法を行なうことを業とする者

試験科目（領域/大項目）

専門基礎分野

- I 人体の構造と機能及び心身の発達
解剖学、生理学、運動学、人間発達学
 - II 疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進
医学概論、臨床医学総論、リハビリテーション医学、臨床心理学、精神障害と臨床医学、骨関節障害と臨床医学、慢性疼痛と臨床医学、中枢神経の障害と臨床医学、末梢神経・筋の障害と臨床医学、小児の障害と臨床医学、内部障害と臨床医学、がん関連障害と臨床医学、老年期障害と臨床医学
 - III 保健医療福祉とリハビリテーションの理念
保健医療福祉、リハビリテーション概論
- 専門分野（作業療法）
- I 基礎作業療法学
作業療法の基本、作業療法の範囲、作業療法の基礎
 - II 作業療法評価学
目的、時期と手順、心身機能、身体構造、活動、参加、背景因子等、福祉用具、義肢、装具、疾患、障害、保健、予防
 - III 作業療法治療学
基礎、心身機能、身体構造、活動、参加、背景因子、義肢、装具、疾患、障害、保健、予防
 - IV 地域作業療法学
基礎、評価と支援
 - V 臨床実習
実習前準備、実習実施内容

視能訓練士

根拠法

- 視能訓練士法（昭和四十六年五月二十日法律第六十四号）

定義(第二条)

- 厚生労働大臣の免許を受けて、視能訓練士の名称を用いて、医師の指示の下に、両眼視機能に障害のある者に対するその両眼視機能の回復のための矯正訓練及びこれに必要な検査を行なうことを業とする者

試験科目（領域/大項目）

- 必修問題

医の倫理、患者の人権、社会と医療、心理面の配慮、人体の構造と機能、視覚器の構造、光学と視機能、視機能、主要眼疾患・症候群、視能検査、視能訓練、眼薬理学

- I 人体の構造と機能及び心身の発達

生殖、発生の概要、個体の構造、血液、造血器、免疫、運動器、呼吸器、心臓、脈管、消化器、内分泌、腎、泌尿器、生殖器、脳・神経、感覚器、心身の成長・発達・加齢

- II 疾病と障害の成り立ち及び回復経過の促進

健康・疾病・障害の概念、病態の基礎、疾患の診断と治療、予防医学

- III 視覚機能の基礎と検査機器

視覚情報処理過程の概要とその異常、眼病理、免疫、遺伝、生体と検査機器、視能検査法とその検査機器、視能検査の心理的・社会的側面についての配慮

- IV 保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念

保健・医療・福祉・介護の推進、公衆衛生学、保育、視能障害のリハビリテーション・ハビリテーション、視能訓練士の役割と義務

- I 基礎視能矯正学

視能矯正の枠組み、両眼視機能と眼球運動、視能矯正と視覚生理学の基礎、視能矯正と生理光学の基礎

- II 視能検査学

視能検査学概要、視能検査、眼薬理学

- III 視能障害学

主要眼疾患の基本的知識、ロービジョン、失明予防

- IV 視能訓練学

斜視の基本的知識、弱視の基本的知識、ロービジョン、視能訓練の臨床心理概要、視能訓練の基本的知識と技術の概要、視能矯正の知識と技術、視能矯正と視能訓練

出典：厚生労働省 視能訓練士国家試験出題基準（H25）

言語聴覚士

根拠法

- 言語聴覚士法（平成九年十二月十九日法律第百三十二号）

定義(第二条)

- 厚生労働大臣の免許を受けて、言語聴覚士の名称を用いて、音声機能、言語機能又は聴覚に障害のある者についてその機能の維持向上を図るため、言語訓練その他の訓練、これに必要な検査及び助言、指導その他の援助を行うことを業とする者

試験科目（領域のみ）

基礎医学、臨床医学、臨床歯科医学、音声・言語・聴覚医学、心理学、音声・言語学、社会福祉・教育、言語聴覚障害学総論、失語・高次脳機能障害学、言語発達障害学、発声発語、嚥下障害学及び聴覚障害学

出典：公益財団法人 医療研修推進財団 言語聴覚士国家試験出題基準（H25）

臨床工学技士

根拠法

- 臨床工学技士法（昭和六十二年六月二日法律第六十号）

定義(第二条2)

- 厚生労働大臣の免許を受けて、臨床工学技士の名称を用いて、医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作（生命維持管理装置の先端部の身体への接続又は身体からの除去であつて政令で定めるものを含む。以下同じ。）及び保守点検を行うことを業とする者

試験科目（領域/大項目）

専門基礎科目

- I 医学総論
人体の構造及び機能、臨床工学に必要な医学的基礎
（1）臨床工学に必要な医学的基礎
医学総論、公衆衛生、関係法規、生化学の基礎、薬理学の基礎、病理学概論、臨床検査
（2）人体の構造及び機能
生物学的基礎、身体の支持と運動、呼吸、循環、血液、腎・泌尿器、消化と吸収、内臓機能の調節、情報の受容と処理、外部環境からの防御、生殖、発生、老化
- II 医用電気電子工学
臨床工学に必要な理工学的基礎
（1）電気工学
電磁気学、電気回路、電力装置
（2）電子工学
電子回路、通信工学
（3）情報処理工学
電子計算機（コンピュータ）、情報処理
（4）システム工学
システムと制御
- III 医用機械工学
臨床工学に必要な理工学的基礎
（1）医用機器工学
力学の基礎、材料力学、流体力学、生体の流体现象、波動と音波、超音波、熱と気体
- IV 生体物性材料工学
医用生体工学
（1）生体物性
生体の電気的特性、生体の機械的特性、生体の磁気特性、生体と放射線、生体の熱特性、生体の光特性、生体における輸送現象
（2）医用材料
医用材料の条件、安全性テスト、相互作用、医用材料の種類、材料化学

専門科目

- I 生体機能代行装置学
生体機能代行技術学
（1）呼吸療法装置
原理と構造、呼吸療法技術、在宅呼吸管理、安全管理
（2）体外循環装置
原理と構造、体外循環の病態生理、体外循環技術、補助循環法、安全管理
（3）血液浄化療法装置
原理と構造、血液浄化の実際、安全管理
- II 医用治療機器学
医用機器学
（1）治療の基礎
治療の基礎
（2）各種治療機器
電磁気治療機器、機械的治療機器、光治療機器、超音波治療機器、内視鏡機器、熱治療機器
- III 生体計測装置学
医用機器学
（1）生体計測の基礎
計測論、生体情報の計測

- (2) 生体電気・磁気計測
心臓循環器計測、脳・神経系計測
 - (3) 生体の物理・化学現象の計測
循環関連の計測、呼吸関連の計測、ガス分析計測、体温計測
 - (4) 画像診断法
超音波画像計測、エックス線画像計測、核磁気共鳴画像計測、ラジオアイソトープ (RI) による画像計測、内視鏡画像計測
 - IV 医用機器安全管理学
医用安全管理学
 - (1) 医用機器の安全管理
臨床工学技士と安全管理、各種エネルギーの人体への危険性、安全基準、電気的安全性の計測、安全管理技術、医療ガス、システム安全、電磁環境、関係法規等、感染防止
 - V 臨床医学総論
関連臨床医学
 - (1) 内科学概論
内科学概論
 - (2) 外科学概論
外科学手術概論、創傷治療、消毒、滅菌、患者管理、外傷、熱傷
 - (3) 呼吸器系
呼吸器系
 - (4) 循環器系
血管病学、心臓病学
 - (5) 内分泌・代謝系
内分泌疾患、代謝性疾患
 - (6) 神経・筋肉系
神経・筋肉疾患
 - (7) 感染症
微生物総論、感染症
 - (8) 腎臓・泌尿・生殖器
腎臓の疾患、尿路の疾患、生殖器の疾患、治療
 - (9) 消化器系
消化器系疾患と治療
 - (10) 血液系
造血器の構造と機能、赤血球系、白血球系、出血系素因
 - (11) 麻酔科学
麻酔
 - (12) 集中治療医学
集中治療、救急医療
 - (13) 手術医学
感染防止、消毒、滅菌、医療安全
 - (14) 臨床生理学
機能検査
 - (15) 臨床生化学
代謝と代謝異常、エネルギー代謝、無機物質等
 - (16) 臨床免疫学
免疫のしくみ、免疫に関係する疾患、移植免疫、輸血
- 出典：公益財団法人医療機器センター 臨床工学技士国家試験出題基準 (H24)

義肢装具士

根拠法

- 義肢装具士法 (昭和六十二年六月二日法律第六十一号)
定義(第二条3)
- 厚生労働大臣の免許を受けて、義肢装具士の名称を用いて、医師の指示の下に、義肢及び装

具の装着部位の採型並びに義肢及び装具の製作及び身体への適合を行うことを業とする者
試験科目（領域のみ）

臨床医学大要（臨床神経学、整形外科学、リハビリテーション医学、理学療法・作業療法、臨床心理学及び関係法規を含む。）、義肢装具工学（図学・製図学、機構学、制御工学、システム工学及びリハビリテーション工学）、義肢装具材料学（義肢装具材料力学を含む。）、義肢装具生体力学、義肢装具採型・採寸学及び義肢装具適合学

出典：公益財団法人テクノエイド協会 義肢装具士国家試験出題基準

救急救命士

根拠法

○ 救急救命士法（平成三年四月二十三日法律第三十六号）

定義(第条)

○ 厚生労働大臣の免許を受けて、救急救命士の名称を用いて、医師の指示の下に、救急救命処置を行うことを業とする者

試験科目（領域/大項目）

○ I 人体の構造と機能

体表からみる人体の構造、人体の構成と生命の維持、呼吸・循環・神経系の構造と機能

○ II 疾患の成り立ちと回復の過程

疾患、感染、死

○ III 健康と社会保障

保健医療制度の仕組みと現状、社会保障と社会福祉を支える仕組み

○ IV 救急医学概論

A 病院前医療概論

生命倫理と医の倫理、救急医療体制、救命の連鎖と市民教育、メディカルコントロール体制、救急救命士に関連する法令、消防機関における救急活動の流れ、安全管理と事故対応、感染対策、災害医療体制

B 救急救命処置概論

観察の基本、現場活動の基本、全身状態の観察、局所の観察、緊急度・重症度の判断、資器材による観察、救急救命士が行う処置、救急蘇生法、在宅療法継続中の傷病者の処置、傷病者搬送

C 必要な医学知識

医薬品

○ V 救急症候・病態生理学

A 救急病態生理学

呼吸不全、ショック、心不全、重症脳障害、心肺停止

B 救急症候学

救急症候

C 疾病救急医学

神経系疾患、呼吸系疾患、循環系疾患、消化系疾患、泌尿・生殖系疾患、内分泌・代謝・栄養系疾患、血液・免疫系疾患、小児と救急疾患、高齢者と救急疾患、妊娠・分娩と救急疾患

○ VII 外傷救急医学

外傷総論、現場活動、代表的な外傷の病態と症候、熱傷

○ VIII 環境障害・急性中毒学

急性中毒、代表的な環境障害

○ I 人体の構造と機能

体表からみる人体の構造、人体の構成、生命の維持、神経系、感覚系、呼吸系、循環系、消化系、泌尿系、生殖系、内分泌系、血液・免疫系、筋・骨格系、皮膚系

○ II 疾患の成り立ちと回復の過程

疾患、臓器と組織の変化、感染、死

○ III 健康と社会保障

保健医療制度の仕組みと現状、社会保障・社会福祉を支える仕組み

○ I 救急医学概論

A 病院前医療概論

生命倫理と医の倫理、救急医療体制、救命の連鎖と市民教育、メディカルコントロール体制、救急救命士に関連する法令、救急救命士の養成と生涯教育、消防機関における救急活動の流れ、コミュニケーションと問診、安全管理と事故対応、感染対策、ストレス対策、災害医療体制

B 救急救命処置概論

観察の基本、現場活動の基本、全身状態の観察、局所の観察、緊急度・重症度の判断、資器材による観察、救命救急士が行う処置、救急組蘇生法、在宅療法継続中の傷病者の処置、傷病者搬送

C 必要な医学知識

医薬品、検査、放射線

○ II 救急症候・病態生理学

A 救急病態生理学

呼吸不全、ショック、心不全、重症脳障害、心肺停止

B 救急症候学

意識障害、頭痛、痙攣、運動麻痺、めまい、呼吸困難、喀血、失神、胸痛、動悸、腹痛、吐血・下血、腰痛・背部痛、体温上昇

○ III 疾病救急医学

神経系疾患、呼吸系疾患、循環系疾患、消化系疾患、泌尿・生殖系疾患、内分泌・代謝・栄養系疾患、血液・免疫系疾患、筋・骨格系疾患、眼・耳・鼻の疾患、感染症、小児と救急疾患、高齢者と救急疾患、妊娠・分娩と救急疾患、精神障害

IV 外傷救急医学

外傷総論、外傷の病態生理、現場活動、頭部外傷、顔面・頸部外傷、胸部外傷、腹部外傷、骨盤外傷、四肢外傷、皮膚・軟部組織外傷、小児・高齢者・妊婦の外傷、熱傷、化学損傷、縊頸・絞頸、刺咬症

V 環境障害・急性中毒学

中毒総論、中毒各論、異物、溺水、熱中症、偶発性低体温症、放射線障害、その他の外因性疾患

出典：一般財団法人 日本救急医療財団 救急救命士国家試験出題基準 (H27)

歯科衛生士

根拠法

○ 歯科衛生士法 (昭和二十三年七月三十日法律第二百四号)

定義(第二条)

○ 厚生労働大臣の免許を受けて、歯科医師(歯科医業をなすことのできる医師を含む。以下同じ。)の指導の下に、歯牙及び口腔の疾患の予防処置として次に掲げる行為を行うことを業とする者

一 歯牙露出面及び正常な歯茎の遊離縁下の付着物及び沈着物を機械的操作によつて除去すること。

二 歯牙及び口腔に対して薬物を塗布すること。

試験科目(領域/大項目)

○ 人体(歯・口腔を除く)の構造と機能

I 人体の構造

細胞・組織・器官、呼吸器系、循環器系、神経系、感覚器系、内分泌系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、発生

II 人体の機能・構成成分

人体の構成成分、細胞、血液、循環、呼吸、筋、神経、感覚、消化吸収、排泄、体温、内分泌

○ 歯・口腔の構造と機能

I 歯・口腔の構造

口腔・顎顔面・頭頸部、歯と歯周組織、口腔と顎顔面の発生

II 歯・口腔の機能・組成

歯・歯周組織、顎・口腔

- 疾病の成り立ち及び回復過程の促進
 - I 病因と病態
 病因論、遺伝性疾患と先天異常、循環障害、細胞・組織の傷害、増殖と修復、炎症、免疫異常と移植、腫瘍、歯の発育異常、う蝕、象牙質、セメント質の増生、歯髓の病変、根尖部歯周組織の病変、歯周組織の病変、口腔創傷の治癒、歯・口腔の嚢胞と腫瘍
 - II 感染と免疫
 一般性状、観察方法、感染、免疫、化学療法、病原微生物とプリオン、口腔環境と常在微生物、バイオフィルムとしてのプラーク（歯垢）、消毒・滅菌、う蝕、歯周病
 - III 生体と薬物
 医療と薬物、身体と薬物、医薬品の分類、薬物の取扱い、中枢神経系作用薬物、末梢神経系作用薬物、局所麻酔薬、痛みと薬物、抗炎症薬、呼吸・循環と薬物、血液と薬物、感染と薬物
- 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
 - I 総論
 概要、歯・口腔の機能、歯・口腔の発育と変化、口腔環境、歯・口腔付着物、沈着物
 - II 口腔清掃
 概要、口腔清掃用具、歯磨材・洗口剤、ブラッシング
 - III う蝕の予防
 基礎知識、予防方法、フッ化物によるう蝕予防
 - IV 歯周病の予防
 基礎知識、予防方法
 - V その他の歯科疾患の予防
 口臭の予防、不正咬合の予防、他の歯科疾患の予防
 - VI 歯科疾患の疫学と歯科保健統計
 歯科疾患の指標、歯科疾患の疫学、衛生統計の基礎、歯科保健統計
 - VII 地域歯科保健活動
 基礎知識、地域歯科保健、母子歯科保健、学校歯科保健、産業歯科保健（職域口腔保健）、成人・高齢者・要介護者・障害者歯科保健
 - VIII 環境・社会と保健
 概要、人口、環境と健康、疫学、感染症、生活習慣と生活習慣病、食品と健康、地域保健、母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、産業保健、精神保健
 - IX 保健・医療・福祉の制度
 概要、法規、現状、社会保障制度、社会保険、社会福祉
 - X 栄養・食生活の基礎
 栄養素、食品、歯・口腔と栄養、食生活の概要、食生活指導
- 歯科衛生士概論
 - I 歯科衛生士とその業務
 概要、歯科衛生士業務、チーム医療
- 臨床歯科医学
 - I 歯科臨床の基礎
 全身疾患と歯科治療、口腔の一般検査、画像検査、臨床検査、消毒と滅菌、歯科材料・薬物の基礎
 - II 歯・歯髓・歯周組織の疾患と治療
 保存的修復治療、歯内療法、歯周治療
 - III 歯の欠損と治療
 概要、床義歯、クラウン、ブリッジ、インプラント義歯
 - IV 顎・口腔領域の疾患と治療
 対象疾患、口腔外科治療、麻酔、全身管理とモニタリング、救命救急処置
 - V 不正咬合と治療
 概要、矯正歯科治療の流れ、矯正歯科治療の実際
 - VI 小児の理解と歯科治療
 概要、小児の疾病異常、小児歯科患者の評価と対応、小児の歯科治療
 - VII 高齢者の理解と歯科治療

高齢社会、加齢変化、高齢者の歯科治療、通院困難者への対応、高齢者の摂食・嚥下とリハビリテーション

VIII 障害者の理解と歯科治療

基礎知識、障害の種類と歯科的特徴、障害者の歯科治療、障害者の摂食・嚥下とリハビリテーション

○ 歯科予防処置論

I 総論

概要、基礎知識

II 歯周病予防処置

歯周病の基礎知識、歯・歯周組織の検査、スケーリング・ルートプレーニング、歯面清掃・研磨、メンテナンス

III う蝕予防処置

基礎知識、う蝕活動性試験、フッ化物歯面塗布法、フッ化物洗口法、小窩裂清填塞法、メンテナンス

○ 歯科保健指導論

I 総論

概要、生活行動

II 歯科保健指導の基礎

対象把握、全身状態の把握、歯・口腔状態の把握

III 口腔清掃指導法

基礎知識、指導の要点、対象別の指導法

IV 生活指導

基礎知識、食生活の指導、口腔機能の維持・向上、生活指導

V 歯科衛生教育活動

基礎知識、保健所、市町村保健センター、保育所、幼稚園、学校、事業所、在宅（居宅）、介護・社会福祉施設

○ 歯科診療補助論

I 総論

概要、患者への対応、診療設備、医療安全管理、診療時の共同作業、消毒・滅菌（洗浄も含む）

II 主要歯科材料の種類、取扱いと管理

模型用材料、合着・接着剤、印象材、歯冠修復ざい、仮封材、その他の材料

III 保存治療時の診療補助

前準備、窩洞形成、形成修復、インレー修復、生活歯漂白、歯髄処置、根管処置、歯周外科治療

IV 補綴治療時の診療補助

検査、印象採得、咬合採得、補綴装置の合着・装着

V 口腔外科治療時の診療補助

局所麻酔、抜歯、鎮静及び全身麻酔

VI 矯正歯科治療時の診療補助

器具・材料、検査記録、装置の装着、装置の除去

VII 小児歯科治療時の診療補助

小児歯科治療

VIII 高齢者治療時の診療補助

高齢者歯科治療

IX 障害者治療時の診療補助

障害者歯科治療

X エックス線写真撮影時の診療補助

器具・材料、口内法撮影、放射線防護

XI 臨床検査法

生体検査、検体検査、口腔領域の臨床検査

XII 救命救急処置

救命救急処置

歯科技工士

根拠法

- 歯科技工士法（昭和三十年八月十六日法律第百六十八号）

定義(第二条)

- 厚生労働大臣の免許を受けて、歯科技工を業とする者

試験科目（領域/大項目）

- 歯科理工学
歯科材料の性質、印象材、石膏、ワックス、レジン成形、セラミック成形、金属成形、切削・研削・研磨
- 歯の解剖学
歯の概説、永久歯の形態、歯の発生、歯と歯周組織、歯の異常、歯列と咬合、頭蓋の骨、口腔周囲の筋、口腔
- 顎口腔機能学
顎口腔系の概説、顎口腔系の形態、下顎運動、下顎位、歯の接触様式、咬合器
- 有床義歯技工学
有床義歯技工に関する生体の基礎知識、全部床義歯の特性、全部床義歯の印象採得に伴う技工操作、全部床義歯の咬合採得に伴う技工操作、全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成、全部床義歯の蟬義歯埋没とレジン重合、全部床義歯の咬合器再装着および削合、研磨、部分床義歯の特性、部分床義歯の構成要素、部分床義歯の印象器に伴う技工操作、部分床義歯の咬合採得に伴う技工操作、クラスプ、アタッチメント、テレスコープ義歯、バー、部分床義歯の人工歯排列と歯肉形成、部分床義歯の蟬義歯埋没とレジン重合、修理、リベースとリライン、オーバーデンチャー、金属床義歯
- 歯冠修復技工学
歯冠修復技工学概要、クラウンの概要と種類、ブリッジの概要と種類、クラウン・ブリッジの具備条件、クラウン・ブリッジの技工操作、ブリッジ、インプラント（人工歯根）
- 矯正歯科技工学
矯正歯科治療の概説、矯正歯科技工用器械・材料、矯正歯科技工の基本的実技、矯正用模型の製作、矯正装置の必要性と分類、矯正装置の種類と製作、保定装置
- 小児歯科技工学
小児歯科治療の概説、歯・顎・顔面の成長発育、小児の歯冠修復、保険装置、スペースリグナー、口腔習癖除去装置、咬合誘導装置に用いる維持装置
- 関係法規
衛生行政、歯科技工士法、歯科医療関係法規

出典：全国歯科技工士教育協議会 歯科技工士国家試験出題基準（H24）

あん摩マッサージ指圧師

根拠法

- あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律（昭和二十二年十二月二十日法律第二百十七号）

定義(第一条)

- 医師以外の者で、あん摩、マッサージ若しくは指圧、はり又はきゆうを業としようとする者は、それぞれ、あん摩マッサージ指圧師免許、はり師免許又はきゆう師免許を受けなければならない。

試験科目（領域/大項目）

専門基礎分野

- 人体の構造と機能
 - I 解剖学
人体の構成、骨格系、筋系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系
 - II 生理学

生理学の基礎、循環、呼吸、消化と吸収、代謝、体温、排泄、内分泌、生殖と成長、神経、筋肉、身体の運動、感覚、生体の防御機構、ホメオスタシスと生体リズム

- 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

I 病理学概論

病理学の基礎、病因、細胞障害と修復、循環障害、炎症、免疫異常、腫瘍

II 臨床医学総論

診察法、臨床検査法、治療法、臨床心理、症候

III 臨床医学各論

感染症、神経・筋疾患、呼吸器・胸壁疾患、循環器疾患、消化器疾患、泌尿器生殖器疾患、血液・造血器疾患、代謝・栄養疾患、内分泌疾患、自己免疫疾患、運動器疾患、皮膚・頭蓋部疾患、精神・心身医学的疾患

IV リハビリテーション医学

リハビリテーションの概要、医学的リハビリテーションの概要、障害の評価、リハビリテーション治療、運動学、脳卒中のリハビリテーション、脊髄損傷のリハビリテーション、切断のリハビリテーション、小児のリハビリテーション、呼吸器・循環器疾患のリハビリテーション、運動器疾患のリハビリテーション、神経疾患のリハビリテーション

V 衛生学・公衆衛生学

衛生・公衆衛生学の概念、健康の保持増進と疾病予防、ライフスタイルと健康、環境と健康、産業保健、精神保健、母子保健、成人・高齢者保健・感染症対策・消毒法・疫学、保健統計、国際保健

- 保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念

I 関係法規

あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師等に関する法律における免許、あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師等に関する法律における業務、罰則、関係法規

II 医療概論

現代の医療と社会、社会保障制度、医療倫理

専門分野

- 基礎あん摩あん摩マッサージ指圧学

I 東洋医学概論・経路経穴概論

東洋医学の基礎、気血津液の概要、六蔵六腑、病因論、病証論、東洋医学的診察法と証の立て方、経絡の概要、経穴の概要、所属経穴を持つ系脈、経絡・経穴の現代医学的研究

II あん摩マッサージ指圧論

あん摩、マッサージ、指圧、その他関連する治療法、あん摩・マッサージ・指圧の臨床応用、リスク管理、あん摩・マッサージ・指圧治効の基礎、関連学説

- 臨床あん摩・マッサージ・指圧学

I 東洋医学概論

診断と治療、診療と記録、施術の基礎、症候に対する東西両医学からのアプローチ、疾患に対する東西両医学からのアプローチ、高齢者に対するあん摩マッサージ指圧施術、スポーツ領域におけるあん摩マッサージ指圧施術、産業衛生におけるあん摩マッサージ指圧施術、健康とあん摩マッサージ指圧施術

出典：公益財団法人東洋療法研修試験財団 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験出題基準 (H26)

はり師、きゅう師

根拠法

- あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律（昭和二十二年十二月二十日法律第二百十七号）

定義(第一条)

- 医師以外の者で、あん摩、マッサージ若しくは指圧、はり又はきゅうを業としようとする者は、それぞれ、あん摩マッサージ指圧師免許、はり師免許又はきゅう師免許を受けなければならない。

専門基礎分野

- 人体の構造と機能
 - I 解剖学
人体の構成、骨格系、筋系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系
 - II 生理学
生理学の基礎、循環、呼吸、消化と吸収、代謝、体温、排泄、内分泌、生殖と成長、神経、筋肉、身体の運動、感覚、生体の防御機構、ホメオスタシスと生体リズム
 - 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進
 - I 病理学概論
病理学の基礎、病因、細胞障害と修復、循環障害、炎症、免疫異常、腫瘍
 - II 臨床医学総論
診察法、臨床検査法、治療法、臨床心理、症候
 - III 臨床医学各論
感染症、神経・筋疾患、呼吸器・胸壁疾患、循環器疾患、消化器疾患、泌尿器生殖器疾患、血液・造血器疾患、代謝・栄養疾患、内分泌疾患、自己免疫疾患、運動器疾患、皮膚・頭蓋部疾患、精神・心身医学的疾患
 - IV リハビリテーション医学
リハビリテーションの概要、医学的リハビリテーションの概要、障害の評価、リハビリテーション治療、運動学、脳卒中のリハビリテーション、脊髄損傷のリハビリテーション、切断のリハビリテーション、小児のリハビリテーション、呼吸器・循環器疾患のリハビリテーション、運動器疾患のリハビリテーション、神経疾患のリハビリテーション
 - V 衛生学・公衆衛生学
衛生・公衆衛生学の概念、健康の保持増進と疾病予防、ライフスタイルと健康、環境と健康、産業保健、精神保健、母子保健、成人・高齢者保健・感染症対策・消毒法・疫学、保健統計、国際保健
 - 保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念
 - I 関係法規
あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師等に関する法律における免許、あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師等に関する法律における業務、罰則、関係法規
 - II 医療概論
現代の医療と社会、社会保障制度、医療倫理
- 専門分野
- 基礎はり学、基礎きゅう学
 - I 東洋医学概論
東洋医学の基礎、気血・津液の概要、六蔵六腑、臟腑経絡論、病因論、病理と病証、東洋医学的診察法と証の立て方、治療法
 - II 経絡経穴概論
経脈の意義、経穴の意義と概要、正経十二経脈、経穴の応用、経絡・経穴の現代医学的研究
 - III はり理論
鍼の基礎知識、基本的な刺鍼方法、特殊鍼法、鍼の臨床応用、リスク管理、鍼治効の基礎、鍼療法の治効理論、関連学説
 - IV きゅう理論
灸の基礎知識、灸術の種類、灸の臨床応用、リスク管理、灸治効の基礎、灸療法の治効理論、関連学説
 - 臨床はり学、臨床きゅう学
 - I 東洋医学臨床論
診断と治療、診察と記録、施術の基礎、症候に対する東西両医学からのアプローチ、疾患に対する東西両医学からのアプローチ、高齢者に対する鍼灸施術、スポーツ領域における鍼灸施術、産業衛生における鍼灸施術、健康と鍼灸治療

出典：公益財団法人東洋療法研修試験財団 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験出題基準 (H26)

柔道整復師

根拠法

○ 柔道整復師法（昭和四十五年四月十四日法律第十九号）

定義(第二条)

○ 厚生労働大臣の免許を受けて、柔道整復を業とする者

試験科目（領域/大項目）

○ 専門基礎分野

患者の人権・柔道整復師の義務と倫理、医療の安全の確保、社会と医療、人体の概要、運動器、物質の摂取と排泄、環境変化の伝達と反応、診察法、炎症、消毒、ショック、意識障害、主要な内科疾患、運動器の検査法、評価法、外傷、感染性軟部組織・関節疾患、骨・軟部腫瘍、骨端症、軟部組織・関節疾患、リハビリテーションの治療

○ 専門分野

主要症候および損傷部の状態、骨折の治癒過程、療法、施術法の原理、合併症、頭部・体幹の骨折・脱臼、上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷、下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷

○ 各試験科目別問題出題基準

解剖学

人体解剖学概説、運動器系、脈管系（循環器系）、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌器系、神経系、感覚器系、体表解剖

生理学

総論、血液、循環、呼吸、栄養と代謝、消化と吸収、体温とその調節、尿の生成と排泄、内分泌、骨の生理、神経、筋肉の機能、感覚の生理、生殖

運動学

運動学総論、運動器の構造と機能、運動の発現と制御、頭・頸部、四肢と体幹の運動、姿勢、運動発達、歩行

病理学概論

病理学の意義、疾病の一般、病因、退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症、免疫異常・アレルギー、腫瘍、先天性異常

衛生学・公衆衛生学

衛生学ならびに公衆衛生学の意義、公衆衛生、感染症、消毒、環境衛生

一般臨床医学

診察概論、診察各論、検査法、主要な疾患

外科学概論

損傷、炎症、外科的感染症、腫瘍、ショック、失血と輸血・輸液、滅菌法と消毒法、手術、麻酔、移植、止血、ショック対策（救急法）、蘇生法（救急法）、頭部・顔面部外傷（救急法）、意識障害（救急法）、けいれん（救急法）、脳卒中（救急法）、脊柱損傷（救急法）、胸部外傷（救急法）、腹部外傷（救急法）

整形外科学（総論）

診断法と検査法、治療概論、救急外傷、骨・関節・靭帯の外傷、末梢神経損傷、脊椎・脊髄損傷、筋・腱損傷（四肢）、スポーツ外傷と障害

整形外科学（各論）

先天性骨系統疾患 および奇形症候群、汎発性骨疾患、神経および筋の疾患、感染性軟部組織・関節疾患、非感染性軟部組織・関節疾患、骨端症、骨・軟部腫瘍、一般外傷・障害

リハビリテーション医学

概論、障害、評価、治療、治療各論

柔道整復理論（総論）

骨折、脱臼、打撲、捻挫、軟部組織損傷、評価、治療法、指導管理

柔道整復理論（各論：骨折）

頭部・体幹、上肢、下肢

柔道整復理論（各論：脱臼）

頭部・体幹、上肢、下肢

柔道整復理論（各論：軟部組織損傷）

頭部・体幹、上肢、下肢

関係法規

柔道整復師法、関係法規

社会福祉士

根拠法

- 社会福祉士及び介護福祉士法（昭和六十二年五月二十六日法律第三十号）

定義(第二条)

- 第二十八条の登録を受け、社会福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもつて、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者(第四十七条において「福祉サービス関係者等」という。)との連絡及び調整その他の援助を行うこと(第七条及び第四十七条の二において「相談援助」という。)を業とする者

試験科目(領域/大項目)

- 人体の構造と機能及び疾病
人の成長・発達、心身機能と身体構造の概要、国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要、健康の捉え方、疾病と障害の概要、リハビリテーションの概要
- 心理学理論と心理的支援
人の心理学的理解、人の成長・発達と心理、日常生活と心の健康、心理的支援の方法と実際
- 社会理論と社会システム
現代社会の理解、生活の理解、人と社会の関係、社会問題の理解
- 現代社会と福祉
現代社会における福祉制度と福祉政策、福祉の原理をめぐる理論と哲学、福祉制度の発達過程、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の課題、福祉政策と関連政策、相談援助活動と福祉政策の関係
- 地域福祉の理論と方法
地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法
- 福祉行財政と福祉計画
福祉行政の実施体制、祉行財政の動向、福祉計画の意義と目的、福祉計画の主体と方法、福祉計画の実際
- 社会保障
現代社会における社会保障制度の課題、社会保障の概念や対象及びその理念、社会保障の財源と費用、社会保険と社会扶助の関係、公的保険制度と民間保険制度の関係、社会保障制度の体系、年金保険制度の具体的内容、医療保険制度の具体的内容、諸外国における社会保障制度の概要
- 障害者に対する支援と障害者自立支援制度
障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要、障害者福祉制度の発達過程、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)、障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際、障害者総合支援法における専門職の役割と実際、障害者総合支援法における多職種連携、ネットワークと実際、相談支援事業所の役割と実際、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)、児童福祉法(障害児支援関係)、発達障害者支援法、障害者基本法、障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律(障害者虐待防止法)、心神喪失等の状態で重大な他害行為を行なった者の医療及び観察等に関する法律(医療観察法)、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー新法)、障害者の雇用の促進等に関する法律(障害者雇用促進法)
- 低所得者に対する支援と生活保護制度
低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際、生活保護制度、生活保護制度における組織及び団体の役割と実際、生活保護制度における専門職の役割と実際、生活保護制度における多職種連携、ネットワークと実際、福祉事務所の役割と実際、自立支援プログラムの意義と実際、低所得者対策、低所得者への住宅政策、ホームレス対策
- 保健医療サービス

- 医療保険制度、診療報酬、保健医療サービスの概要、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、保健医療サービス関係者との連携と実際
- 権利擁護と成年後見制度
相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり、成年後見制度、日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業、権利擁護に係る組織、団体の役割と実際、権利擁護活動の実際
 - 社会調査の基礎
社会調査の意義と目的、統計法、社会調査における倫理、社会調査における個人情報保護、量的調査の方法、質的調査の方法、社会調査の実施に当たっての IT の活用方法
 - 相談援助の基盤と専門職
社会福祉士の役割と意義、精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、相談援助における権利擁護の意義、相談援助に係る専門職の概念と範囲、専門職倫理と倫理的ジレンマ、総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む。）の意義と内容
 - 相談援助の理論と方法
人と環境の相互作用、相談援助の対象、様々な実践モデルとアプローチ、相談援助の過程、相談援助における援助関係、相談援助のための面接技術、ケースマネジメントとケアマネジメント、アウトリーチ、相談援助における社会資源の活用・調整・開発、ネットワーキング、集団を活用した相談援助、スーパービジョン、記録、相談援助と個人情報の保護の意義と留意点、相談援助における情報通信技術（IT）の活用、事例分析、相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）
 - 福祉サービスの組織と経営
福祉サービスに係る組織や団体、福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論、福祉サービス提供組織の経営と実際、福祉サービスの管理運営の方法と実際
 - 高齢者に対する支援と介護保険制度
高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む）、高齢者福祉制度の発展過程、介護の概念や対象、介護予防、介護過程、認知症ケア、終末期ケア、介護と住環境、介護保険法、介護報酬、介護保険法における組織及び団体の役割と実際、介護保険法における専門職の役割と実際、介護保険法におけるネットワーキングと実際、地域包括支援センターの役割と実際、老人福祉法、高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）、高齢者の居住の安定確保に関する法律（高齢者住まい法）
 - 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（DV）、地域における子育て支援及び青少年育成の実態を含む。）と実際、児童・家庭福祉制度の発展過程、児童の定義と権利、児童福祉法、児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）、母子及び寡婦福祉法（、母子保健法、児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当等の支給に関する法律（特別児童扶養手当法）、次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法、売春防止法、児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際、児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際、児童・家庭福祉制度における多職種連携、ネットワーキングと実際、児童相談所の役割と実際
 - 就労支援サービス
雇用・就労の動向と労働施策の概要、就労支援制度の概要、就労支援に係る組織、団体の役割と実際、就労支援に係る専門職の役割と実際、就労支援分野との連携と実際、障害者雇用施策との連携、
 - 更生保護制度
更生保護制度の概要、更生保護制度の担い手、更生保護制度における関係機関・団体との連携、医療観察制度の概要、更生保護における近年の動向と課題
- 出典：公益財団法人 社会福祉振興・試験センター 社会福祉士国家試験出題基準（H28）

介護福祉士

根拠法

- 社会福祉士及び介護福祉士法（昭和六十二年五月二十六日法律第三十号）

定義(第条)

- 第四十二条第一項の登録を受け、介護福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護（喀痰吸引その他のその者が日常生活を営むのに必要な行為であつて、医師の指示の下に行われるもの（厚生労働省令で定めるものに限る。以下「喀痰吸引等」という。）を含む。）を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うこと（以下「介護等」という。）を業とする者

試験科目（領域/大項目）

- 人間の尊厳と自立
人間の尊厳と自立、介護における尊厳の保持・自立支援
- 人間関係とコミュニケーション
人間関係の形成、コミュニケーションの基礎
- 社会の理解
生活と福祉、社会保障制度、介護保険制度、障害者自立支援制度、介護実践に関連する諸制度
- 介護の基本
介護福祉士を取り巻く状況、介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ、尊厳を支える介護、自立に向けた介護、介護を必要とする人の理解、介護サービス、介護実践における連携、介護従事者の倫理、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護従事者の安全
- コミュニケーション技術
介護におけるコミュニケーションの基本、介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション、介護におけるチームのコミュニケーション
- 生活支援技術
生活支援、自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた移動の介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護、自立に向けた家事の介護、自立に向けた睡眠の介護、終末期の介護
- 介護過程
介護過程の意義、介護過程の展開、介護過程の実践的展開、介護過程とチームアプローチ
- 発達と老化の理解
人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と成熟、老年期の発達課題、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活、高齢者と健康
- 認知症の理解
認知症を取り巻く状況、医学的側面から見た認知症の基礎、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働)、家族への支援
- 障害の理解
障害の基礎的理解、障害の医学的側面の基礎的知識、連携と協働、家族への支援
- こころとからだのしくみ
こころのしくみの理解、からだのしくみの理解、身じたくに関連したこころとからだのしくみ、移動に関連したこころとからだのしくみ、食事に関連したこころとからだのしくみ、入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ、排泄に関連したこころとからだのしくみ、睡眠に関連したこころとからだのしくみ、死にゆく人のこころとからだのしくみ
- 医療的ケア
医療的ケア実施の基礎、喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）、経管栄養（基礎的知識・実施手順）
- 実技試験
介護の原則、健康状況の把握、環境整備、身体介護
出典：公益財団法人 社会福祉振興・試験センター 介護福祉士国家試験出題基準（H28）

精神保健福祉士

根拠法

- 精神保健福祉士法（平成九年十二月十九日法律第百三十一号）

定義(第二条)

- 第二十八条の登録を受け、精神保健福祉士の名称を用いて、精神障害者の保健及び福祉に関する専門的知識及び技術をもって、精神科病院その他の医療施設において精神障害の医療を受け、又は精神障害者の社会復帰の促進を図ることを目的とする施設を利用している者の地域相談支援（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成十七年法律第百二十三号）第五条第十八項に規定する地域相談支援をいう。第四十一条第一項において同じ。）の利用に関する相談その他の社会復帰に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行うこと（以下「相談援助」という。）を業とする者

試験科目（領域/大項目）

- 精神疾患とその治療
精神疾患総論（代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）、精神疾患の治療、精神科医療機関の治療構造及び専門病棟、入院医療、精神科治療における人権擁護、精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割、精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性
- 精神保健の課題と支援
精神の健康と精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要、精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ、精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ、精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ、精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ、精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割、地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題、精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携、諸外国の精神保健活動の現状及び対策
- 精神保健福祉相談援助の基盤
精神保健福祉士の役割と意義、社会福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、精神保健福祉士が行なう相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方、相談援助に係わる専門職（精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲、精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチ含む）の意義と内容
- 精神保健福祉の理論と相談援助の展開
精神保健医療福祉の歴史と動向、精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識、精神科リハビリテーションの概念と構成、精神科リハビリテーションのプロセス、医療機関における精神科リハビリテーション（精神科専門療法を含む）の展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割、相談援助活動のための面接技術、相談援助活動の展開（医療施設、社会復帰施設、地域社会を含む）、家族調整・支援の実際と事例分析、スーパービジョンとコンサルテーション、地域移行・地域定着支援の対象及び支援体制、地域を基盤にした相談援助の主体と対象（精神障害者の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む）、地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方、精神障害者のケアマネジメント、地域を基盤にした支援とネットワークング、地域生活を支援する包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開
- 精神保健福祉に関する制度とサービス
精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）の意義と内容、精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス、精神障害者に関連する社会保障制度の概要、相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働、更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係、更生保護制度における関係機関や団体との連携、医療観察法の概要、医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割、社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用
- 精神障害者の生活支援システム
精神障害者の概念、精神障害者の生活の実際、精神障害者の生活と人権、精神障害者の居住支援、精神障害者の就労支援、精神障害者の生活支援システムの実際、市町村における相談援助、その他の行政機関における相談援助
- 人体の構造と機能及び疾病
人の成長・発達、心身機能と身体構造の概要、国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要、健康の捉え方（健康の概念）、疾病と障害の概要、リハビリテーションの概要

- 心理学理論と心理的支援
人の心理学的理解、人の成長・発達と心理、日常生活と心の健康、心理的支援の方法と実際
 - 社会理論と社会システム
現代社会の理解、生活の理解、人と社会の関係、社会問題の理解
 - 現代社会と福祉
現代社会における福祉制度と福祉政策、福祉の原理をめぐる理論と哲学、福祉制度の発達過程、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の課題、福祉政策の構成要素、福祉政策と関連政策、相談援助活動と福祉政策の関係
 - 地域福祉の理論と方法
地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法
 - 福祉行財政と福祉計画
福祉行政の実施体制、福祉行財政の動向、福祉計画の意義と目的、福祉計画の主体と方法、福祉計画の実際
 - 社会保障
現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む）、社会保障の概念や対象及びその理念、社会保障の財源と費用、社会保険と社会扶助の関係、公的保険制度と民間保険制度の関係、社会保障制度の体系、年金保険制度の具体的内容、医療保険制度の具体的内容、諸外国における社会保障制度の概要
 - 障害者に対する支援と障害者自立支援制度
障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要、障害者福祉制度の発展過程、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）、障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際、障害者総合支援法における専門職の役割と実際、障害者総合支援法における多職種連携、ネットワークと実際、相談支援事業所の役割と実際、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）、児童福祉法（障害児支援関係）、発達障害者支援法、障害者基本法、障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律（障害者虐待防止法）、心神喪失等の状態で重大な他害行為を行なった者の医療及び観察等に関する法律（医療観察法）、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）、障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用促進法）
 - 低所得者に対する支援と生活保護制度
低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際、生活保護制度、生活保護制度における組織及び団体の役割と実際、生活保護制度における専門職の役割と実際、生活保護制度における多職種連携、ネットワークと実際、福祉事務所の役割と実際、自立支援プログラムの意義と実際、低所得者対策、低所得者への住宅政策、ホームレス対策
 - 保健医療サービス
医療保険制度、診療報酬、保健医療サービスの概要、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、保健医療サービス関係者との連携と実際
 - 権利擁護と成年後見制度
相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり、成年後見制度、日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業、権利擁護に係る組織、団体の役割と実際、権利擁護活動の実際
- 出典：公益財団法人 社会福祉振興・試験センター 精神保健福祉士国家試験出題基準（H28）

管理栄養士

根拠法

- 栄養士法（昭和二十二年十二月二十九日法律第二百四十五号）
定義（第一条1）
- 厚生労働大臣の免許を受けて、管理栄養士の名称を用いて、傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導、個人の身体の状況、栄養状態等に応じた高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導並びに特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体の状況、栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給

食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行うことを業とする者
試験科目（領域/大項目）

- 社会・環境と健康
社会と健康、環境と健康、健康、疾病、行動に関わる統計資料、健康状態・疾病の測定と評価、生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策、主要疾患の疫学と予防対策、保健・医療・福祉の制度
- 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち
人体の構造、アミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質・核酸の構造と機能、生体エネルギーと代謝、アミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の代謝、個体の恒常性（ホメオスタシス）とその調節機構、疾患診断の概要、疾患治療の概要、栄養障害と代謝疾患、消化器系、循環器系、腎・尿路系、内分泌系、神経系、呼吸器系、運動器（筋・骨格）系、生殖器系、血液・造血器・リンパ系、免疫、アレルギー、感染症
- 食べ物と健康
人間と食物（食べ物）、食品の分類と食品の成分、食品の機能、食品の安全性、食品の表示と規格基準、食品の生産・加工・保存・流通と栄養、食事設計と栄養・調理
- 基礎栄養学
栄養の概念、食物の摂取、消化・吸収と栄養素の体内動態、たんぱく質の栄養、炭水化物の栄養、脂質の栄養、ビタミンの栄養、ミネラル（無機質）の栄養、水・電解質の栄養的意義、エネルギー代謝
- 応用栄養学
栄養ケア・マネジメント、食物摂取基準の基礎的理解、成長、発達、加齢、妊娠期、授乳期、新生児期、乳児期、成長期（幼児期、学童期、思春期）、成人期、高齢期、運動とスポーツと栄養、環境と栄養
- 栄養教育論
栄養教育のための理論的基礎、栄養教育マネジメント、ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育の展開
- 臨床栄養学
臨床栄養の概念、傷病者・要介護者の栄養ケア・マネジメント、疾患・病態別栄養ケア・マネジメント
- 公衆栄養学
公衆栄養学の概念、健康・栄養問題の現状と課題、栄養政策、栄養疫学、公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラムの展開
- 給食経営管理論
給食の概念、給食経営管理の概念、栄養・食事管理、給食経営における品質管理、給食の安全・衛生、給食の施設・設備、給食の人事管理
- 応用力試験
栄養管理

出典：管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）改定検討会（H26）

(補足)各職種の平成 28 年実施分国家試験の出願者数・合格者数・合格率 一覧

医師 (第 110 回医師国家試験 結果)				
出願者 9,759 人	受験者 9,434 人	合格者 8,630 人	91.5%	
歯科医師 (第 109 回歯科医師国家試験 結果)				
出願者 3,706 人	受験者 3,103 人	合格者 1,973 人	63.6%	
薬剤師 (第 101 回薬剤師国家試験 結果)				
出願者 16,658 人	受験者 14,949 人	合格者 11,488 人	76.8%	
看護師 (第 105 回看護師国家試験 結果)				
出願者 62,633 人	受験者 62,154 人	合格者 55,585 人	89.4%	
保健師 (第 102 回保健師国家試験 結果)				
出願者 8,887 人	受験者 8,799 人	合格者 7,901 人	92.6%	
助産師 (第 99 回助産師国家試験 結果)				
出願者 2,031 人	受験者 2,008 人	合格者 2,003 人	99.8%	
診療放射線技師 (第 68 回診療放射線技師国家試験 結果)				
出願者 3,350 人	受験者 3,016 人	合格者 2,377 人	78.8%	
臨床検査技師 (第 62 回臨床検査技師国家試験 結果)				
出願者 4,628 人	受験者 4,400 人	合格者 3,363 人	76.4%	
理学療法士 (第 51 回理学療法士国家試験 結果)				
出願者 13,104 人	受験者 12,515 人	合格者 9,272 人	74.1%	
作業療法士 (第 51 回作業療法士国家試験 結果)				
出願者 6,272 人	受験者 6,102 人	合格者 5,344 人	87.6%	
視能訓練士 (第 46 回視能訓練士国家試験 結果)				
出願者 911 人	受験者 886 人	合格者 833 人	94.0%	
言語聴覚士 (第 18 回言語聴覚士国家試験 結果)				
出願者 一人	受験者 2,553 人	合格者 1,725 人	67.6%	
臨床工学技士 (第 29 回臨床工学技士国家試験 結果)				
出願者 一人	受験者 2,739 人	合格者 1,987 人	72.5%	
義肢装具士 (第 29 回義肢装具士国家試験 結果)				
出願者 一人	受験者 233 人	合格者 196 人	84.1%	
救急救命士 (第 39 回救命救急士国家試験 結果)				
出願者 2,899 人	受験者 2,871 人	合格者 2,471 人	86.1%	
歯科衛生士 (第 25 回歯科衛生士国家試験 結果)				
出願者 一人	受験者 7,233 人	合格者 6,944 人	96.0%	
歯科技工士 (第 27 回歯科技工士国家試験 結果)				
出願者 一人	受験者 1,114 人	合格者 1,104 人	99.1%	

あん摩マッサージ・指圧師（第24回あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師国家試験 結果）

出願者 一人 受験者 1,687 人 合格者 1,422 人 84.3%

はり師（第24回あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師国家試験 結果）

出願者 一人 受験者 4,775 人 合格者 3,504 人 73.4%

きゅう師（第24回あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師国家試験 結果）

出願者 一人 受験者 4,732 人 合格者 3,550 人 75.0%

柔道整復師（第24回柔道整復師国家試験 結果）

出願者 一人 受験者 7,122 人 合格者 4,583 人 64.3%

社会福祉士（第28回社会福祉士国家試験 結果）

出願者 一人 受験者 44,764 人 合格者 11,735 人 26.2%

介護福祉士（第28回介護福祉士国家試験 結果）

出願者 一人 受験者 152,573 人 合格者 88,300 人 57.9%

精神保健福祉士（第18回精神保健福祉士国家試験 結果）

出願者 一人 受験者 7,173 人 合格者 4,417 人 61.6%

管理栄養士（第30回管理栄養士国家試験 結果）

出願者 一人 受験者 19,086 人 合格者 8,538 人 44.7%

「医学教育モデル・コア・カリキュラム」 今回の改訂までの経過

1. 過去の策定・改訂経過

- 平成13年 3月 「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」（高久史麿座長）において、医学・歯学に係る大学関係者自らによる検討を経て、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」を策定。
- 平成19年12月 「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」の報告を踏まえ、医学教育モデル・コア・カリキュラムおよび歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する恒久的な組織（連絡調整委員会・専門研究委員会）を設置し、当該委員会での検討を経て、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」を改訂。
- 平成23年 3月 「医学教育カリキュラム検討会」（荒川正昭座長）及び「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」（江藤一洋座長）の提言を踏まえ、連絡調整委員会及び専門研究委員会における検討を経て、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」を改訂。

2. 今回の改訂経過

- 平成28年 3月30日 連絡調整委員会（第1回）
専門研究委員会（第1回）〈医学・歯学〉
- ・委員長の選任
 - ・調査研究チームにおける検討の方向性について議論

その後、平成28年度大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業として、医学教育モデル・コア・カリキュラム等の次期改訂に向けた調査・研究を委託された調査研究チーム（北村聖チームリーダー）において、具体的な改訂作業を開始。

- 7月 6日 専門研究委員会（第3回）〈医学〉
- ・調査研究チームから経過報告、個別論点に係る審議

- 11月16日 連絡調整委員会（第2回）
専門研究委員会（第4回）〈医学・歯学〉
- ・調査研究チームから、改訂案の提示
 - ・総括的な審議

- 12月〇〇日 「改訂案」のパブリックコメントを実施（～平成29年1月〇〇日）

- 平成29年 2月22日 専門研究委員会（第6回）〈医学〉
- ・専門研究委員会として「改訂案」の取りまとめ

- 3月24日 連絡調整委員会（第3回）
- ・「改訂モデル・コア・カリキュラム」の決定

医学教育モデル・コア・カリキュラム及び歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂
に関する恒常的な組織の設置について

平成19年5月30日設 置
平成22年6月 9日一部改正
高 等 教 育 局 長

1. 目 的

「医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の報告を踏まえ、医学教育モデル・コア・カリキュラム及び歯学教育モデル・コア・カリキュラム（以下「モデル・コア・カリキュラム」という。）の改訂に関する恒常的な組織を設置する。

2. 役 割

- (1) 医師国家試験出題基準及び歯科医師国家試験出題基準の改正や法制度・名称等の変更に対応した、モデル・コア・カリキュラムの改訂
- (2) 学生への教育効果の検証等、モデル・コア・カリキュラムの検証・評価
- (3) モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な調査研究
- (4) モデル・コア・カリキュラムの関係機関への周知徹底、各大学の取組状況の検証等、モデル・コア・カリキュラムの活用に必要な事項
- (5) その他モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な事項

3. 設置組織の構成等

- (1) 専門的な調査研究等を行いモデル・コア・カリキュラムの改訂の原案の作成等を行う組織（モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会）と、モデル・コア・カリキュラムの改訂等を決定する組織（モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会）を設置し、文部科学省が主催する。
- (2) (1) の委員会の構成は別紙のとおりとする。
- (3) 必要に応じ、調査研究等を分担させるため必要な組織を置くことができるものとする。
- (4) 必要に応じ、関係者からの意見等を聴くことができるものとする。

4. 委 員

- (1) 委員については、医学教育又は歯学教育のカリキュラム、医師又は歯科医師の国家試験等について優れた識見を有する者、その他関係者のうちから委嘱する。
- (2) 委員の任期は、委嘱した日の属する会計年度の翌会計年度末までとする。
- (3) 必要に応じ委員を追加することができる。
- (4) 委員は再任されることができる。

5. その他

3の組織に関する庶務は、高等教育局医学教育課が処理する。

「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会」委員名簿

※敬称略、五十音順

新井 一	一般社団法人全国医学部長病院長会議会長、順天堂大学学長
井出 吉信	一般社団法人日本私立歯科大学協会会長、東京歯科大学学長
江藤 一洋	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長、 東京医科歯科大学名誉教授
寺門 成真	文部科学省高等教育局医学教育課長
寺野 彰	一般社団法人日本私立医科大学協会会長、学校法人獨協学園理事長
内木 宏延	国立大学医学部長会議常置委員会委員長、福井大学医学部長
永井 良三	自治医科大学学長

計 7 名

(オブザーバー)

高久 史麿	日本医学会会長、 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構理事長
-------	---------------------------------------

平成 28 年 11 月 16 日現在

「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会」委員名簿

※敬称略、五十音順

(医学教育)

泉 美貴	東京医科大学教授
梶井 英治	自治医科大学地域医療学センター長
北村 聖	国際医療福祉大学大学院教授
齋藤 宣彦	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長
田中雄二郎	東京医科歯科大学理事・副学長（医療・国際協力担当）
奈良 信雄	東京医科歯科大学特命教授
羽鳥 裕	公益社団法人日本医師会常任理事
福井 次矢	聖路加国際大学学長、聖路加国際病院院長
福島 統	東京慈恵会医科大学教育センター長

(歯学教育)

五島 衣子	昭和大学歯学部准教授
齋藤 隆史	北海道医療大学歯学部長
嶋田 昌彦	東京医科歯科大学歯学部附属病院長
関本 恒夫	日本歯科医学教育学会理事長、日本歯科大学新潟生命歯学部長
田上 順次	東京医科歯科大学理事・副学長（教育・学生・国際交流担当）
西原 達次	九州歯科大学理事長・学長
前田 健康	新潟大学歯学部長
俣木 志朗	東京医科歯科大学教授
柳川 忠廣	公益社団法人日本歯科医師会副会長

(共通)

邊見 公雄	公益社団法人全国自治体病院協議会会長
南 砂	読売新聞東京本社取締役調査研究本部長
山口 育子	NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長

計 21 名

(オブザーバー)

武井 貞治	厚生労働省医政局医事課長
田口 円裕	厚生労働省医政局歯科保健課長

平成 28 年 11 月 16 日現在

モデル・コア・カリキュラム改訂等に関する「調査研究チーム」委員名簿

(※委託先(大学)に設置)

※敬称略、五十音順

(医学教育)

生坂 政臣	千葉大学医学部教授
泉 美貴	東京医科大学医学部教授
江頭 正人	東京大学医学部附属病院准教授
大滝 純司	北海道大学大学院医学研究科医学教育推進センター教授
岡崎 仁昭	自治医科大学医学教育センター教授
片岡 仁美	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授
北村 聖	国際医療福祉大学大学院教授
佐々木 努	群馬大学生体調節研究所准教授
高田 和生	東京医科歯科大学統合教育機構教授
堤 明純	北里大学医学部教授
錦織 宏	京都大学大学院医学研究科医学教育推進センター准教授
野田 雅史	東北大学病院講師
長谷川仁志	秋田大学大学院医学系研究科教授
前野 哲博	筑波大学医学医療系教授
山本 一彦	東京大学大学院医学系研究科医学教育国際研究センター教授

計15名

(協力者)

石田 達樹	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構事業部長
大西 弘高	東京大学大学院医学系研究科医学教育国際研究センター講師
齋藤 宣彦	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長
孫 大輔	東京大学医学教育国際研究センター講師
ダニエル・サルチェード	千葉大学医学部附属病院特任助教
西 裕志	文部科学省高等教育局医学教育課技術参与
福島 統	東京慈恵会医科大学教育センター教授
ブルーヘルマンズ・ラウール	東京医科大学医学部准教授
吉田 素文	国際医療福祉大学大学院教授

(歯学教育)

天野 修	明海大学歯学部教授
荒木 孝二	東京医科歯科大学教授
小野 和宏	新潟大学大学院医歯学総合研究科教授
五島 衣子	昭和大学歯学部准教授
齋藤 隆史	北海道医療大学歯学部長
嶋田 昌彦	東京医科歯科大学歯学部附属病院長
關 奈央子	東京医科歯科大学助教
中嶋 正博	大阪歯科大学教授
平田創一郎	東京歯科大学教授
松香 芳三	徳島大学大学院医歯薬学研究部教授

計10名

(協力者)

石田 達樹	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構事業部長
犬飼 周佑	文部科学省高等教育局医学教育課技術参与
上田 貴之	文部科学省高等教育局医学教育課技術参与

(索引は省略)